市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－①	青少年国際交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

国際化時代に対応しうる青少年の育成を目的に青少年を海外へ派遣し、教育・文化・歴史産業などの視察学習、ホームステイ、現地の学校への体験入学を実施する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況 (a) 当初予算額	3,443	3,492	3,500	4,520	3,150
予算の状況 (b) 予算現額	3,443	3,500	3,500	4,261	3,150
予算の状況 (c) 増減額(b-a)	0	8	0	▲ 259	0
予算の状況 (d) 繰越額	－	－	－	－	－
予算の状況 A. 計(b+d)	3,443	3,500	3,500	4,261	3,150
B. 執行済額	3,381	3,500	3,500	4,055	3,150
うち交付金充当額	2,704	2,800	2,800	3,244	2,520
次年度繰越額	0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)	98.2%	100.0%	100.0%	95.2%	100.0%

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容はすべて実施した。
活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
交流事業派遣生徒数：10名	目　標	（10名）	（10名）	（10名）	（10名）
	実　績	10名	10名	10名	10名
研修後報告会の開催	目　標	（1回）	（1回）	（開催）	（開催）
	実　績	1回	1回	1回	1回

達成状況説明

本研修は10日間の日程でハワイで実施した。研修生である中学生10名は3日間のホームスティを体験しながら3日間のミドルスクールへの体験入学に参加した。帰国後は研修報告会を開催することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
報告会の実施などを通した参加者の意識向上。（内容）アンケート実施。外国語や海外文化、移民への興味を持った生徒の割合70%を目指す。	目　標	（　）	（意識向上を図る）	（70%）	（70%）	（　）
	実　績		意識向上を図った	90%	100%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

国際交流に行った生徒へアンケートを実施し、外国語や海外文化への興味を持ったと回答した割合が100%となり、目標の70%を達成できた。
「自分から外国人の方々に話をしてみたい」、「英語で書かれた本を読んでみたい」など、外国語への関心が高まり、海外文化に直接触れる事で「自分たちの国の文化の長所短所を改めて知ることが出来た」など、これまで以上に海外文化を通して自国への関心も高くなっている事がわかった。また、英語でのコミュニケーション力も自信がつき、積極性及び責任感も増幅し、今後も南風原町のために活動したいと思うようになったと回答を得ている。

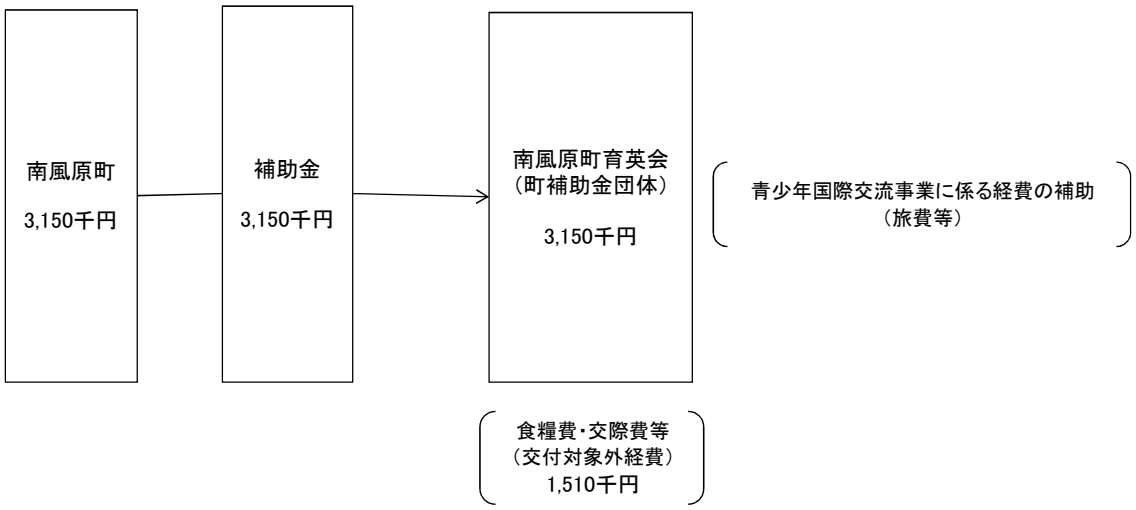
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	国際交流に行った生徒より外国語や海外文化への興味を持ったと答えた生徒の割合が100%となり、目標の70%を達成できた。一方で、体験した事を他者へ伝える場としての「学校での発表」が未実施だった事もあり、その事由について検証する必要がある。	「学校での発表」について、事前に学校側に発表の意義を伝えるとともに、学校からの意見も取り入れる事で100%実施を実現し研修へ参加してない生徒へも体験の共有を図ることが期待できる。

今後の取り組み方針

国際交流に参加していない生徒にも海外体験を共有するために、国際交流に参加した生徒による発表を実施して、幅広く生徒に国際社会への意識変化を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,660	3,150	2,520	630	1,510



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町補助金等交付規則に基づき南風原町育英会に対して支出している。 ○予算規模は、事業に必要な旅費、現地経費、謝礼金を要綱等や見積もりにより、支出しており適正な規模である。 ○受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。経済的負担を緩和する事で経済的な理由で参加を断念する中学生にも事業参加の機会ができると期待される。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－②	小学校英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	小学生のうちから英会話に触れさせ、外国の言語や文化について興味を持たせ英語力を向上させる為に、外国語に精通した日本人を各小学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,800	7,200	7,200	7,200	7,200
	(b) 予算現額	4,800	7,200	7,200	7,200	7,200
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	4,800	7,200	7,200	7,200	7,200
	B. 執行済額	4,800	7,200	7,087	7,050	7,200
	うち交付金充当額	3,840	5,760	5,669	5,640	5,760
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	98.4%	97.9%	100.0%
予算の状況の説明		小学校英語指導助手は、嘱託職員として採用しており、町立小学校4校全てに年度初めから4人配置することができ、執行率は100%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
小学校英語指導助手配置数：4人	目　標	（　4人　）	（　4人　）	（　4人　）	（　4人　）
	実　績	4人	4人	4人	4人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	
	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。配置することにより、小学校英語のカリキュラムを達成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
英語に興味を持った・好きになった児童の割合60%以上（アンケート）	目　標	（　）	（　60%以上　）	（　60%以上　）	（　60%以上）	（　）
	実　績		61.5%	80.0%	75.0%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	
	平成24年度は小学校英語指導助手を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、平成25年度からアンケート結果を成果目標とした。28年度は英語に興味を持った・好きになった児童を増やすことを目的とし、その割合は75%となり目標を達成することができた。次年度以降も指導助手を配置し児童の英語力の向上に努める。

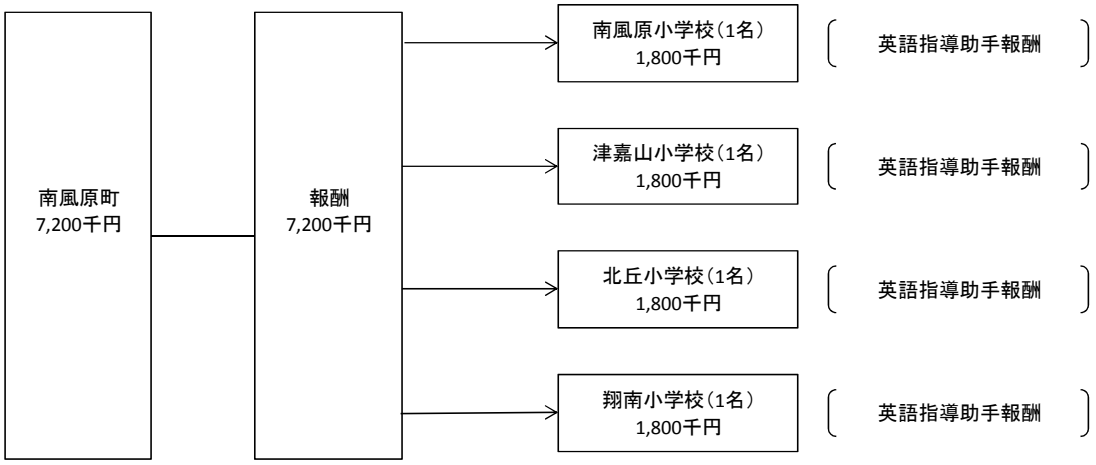
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内小学校4校全てに英語指導助手を配置したことで、活動目標・成果目標は達成された。 ・今後小学校英語教育は、平成32年度から小学校中学年（3・4年生）も「外国語活動」として開始され、高学年（5・6年生）は英語が教科化される。	・中学校外国人英語指導助手や教育委員会と連携し、中学校英語に抵抗なく移行できるよう、指導助手の交流研修をする。 ・英語に興味を持った、好きになった児童が75%なので、教科化されても学習意欲が継続するようにする。 ・今後の文部科学省の小学校英語に関する動向を注視していく。

今後の取り組み方針

・今後も引き続き小学校4校に英語指導助手を配置し、進んで英語を話す児童が増えるよう活動内容を改善し、英語の教科化に向けても対応していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,200	7,200	5,760	1,440	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－③	学力調査等事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	学力が低い沖縄県において、本町を担う児童生徒の学力向上に向け、個々の児童生徒の学力、課題を把握するため学力調査等を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,478	2,632	2,758	4,004	3,433
	(b) 予算現額	2,478	2,632	3,724	4,004	3,172
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	966	0	▲ 261
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	2,478	2,632	3,724	4,004	3,172
	B. 執行済額	2,469	2,574	3,617	3,722	3,171
	うち交付金充当額	1,975	2,059	2,893	2,977	2,536
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		99.6%	97.8%	97.1%	93.0%	100.0%
予算の状況の説明		事業について、町内各小中学校(小学校：4校、中学校：2校)に学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。 予算の減額については、見積結果及び児童生徒の受験者数が減となったことによるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
標準学力調査の実施 小学校4校中4校 （国語・算数・5年生理科） 中学校2校中2校 （国語・数学・理科・社会・英語）	目　標	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）	（小学校4校中4校 中学校2校中2校）
	実　績	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・標準学力調査を、目標の小学校4校中4校、中学校2校中2校で実施できた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
調査結果を基に実態把握し指導 調査結果を基にきめ細やかな指導に向けた個々の児童生徒の学力実態の把握	目　標	（　）	（学力実態の把握と指導）	（学力実態の把握と指導）	（　）	（　）
	実　績		個々の学力実態の把握と指導	個々の学力実態の把握と指導		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	標準学力調査を実施したことで、個々の学力を把握することができ、児童生徒へきめ細やかな指導ができた。 【小学校（13教科）】 目標値を達成した科目：11教科（前年12教科）。全国平均を上回った科目：12教科（前年10教科）。 【中学校（10教科）】 目標値を達成した科目：2教科（前年2教科）。全国平均を上回った科目：1教科（前年1教科）。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童生徒の学力向上のため、各教科の目標値を設定し実施した。今後、目標値を達成できなかった教科については、対策を検討し、再度個々の学力に合わせたきめ細かな指導が課題。 実施時期については、学校と十分に調整を行い学校行事等を勘案し適切な時期に実施できた。	小学校は、2年算数が目標値を下回り、小学5年の理科が目標値及び全国平均を下回った。 中学校で目標値を上回った教科は、1年国語と数学の2教科で、全国平均を上回った教科は、1年数学の1教科となったが、目標値との差は6教科で昨年度より縮まっており、着実に目標値に近づいていると考える。 今後も継続して目標値を下回った教科を重点的に、放課後補習等で児童生徒にあったきめ細かな指導を行い、確かな学力の定着に取り組む必要がある。 また、実施時期については、引き続き学校と十分に調整を行い実施する。

今後の取り組み方針

今後、個別復習教材の活用や放課後補習等で、個々の児童生徒を指導していくことで学力向上につなげていく。
また、実施時期については、引き続き学校と十分に調整を行い、適切な時期に実施ができるよう取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,171	3,171	2,536	635	0

南風原町
3，171千円
→ 委託料
3，171千円
→ 株式会社　学友館
3，171千円
（標準学力調査にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定方法は、全国で採用している市町村が多く学力の比較がしやすい調査を実施している業者を選定し、随意契約とした。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○費目、使途については、学力調査委託料として目的に即し、受験教科数及び受験者数に応じた支出に限定しており、適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－④	学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	通常の授業ではついて行けない児童生徒の授業の理解を深め、学力を向上させるために、学習支援員を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,523	13,374	15,360	26,880	26,880
	(b) 予算現額	8,523	11,382	17,120	28,480	28,000
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,992	1,760	1,600	1,120
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	8,523	11,382	17,120	28,480	28,000
B. 執行済額		7,411	10,265	16,480	27,771	27,863
うち交付金充当額		5,928	8,212	13,184	22,216	22,290
次年度繰越額		－	－	－	－	－
執行率（%）(B/A)		87.0%	90.2%	96.3%	97.5%	99.5%

予算の状況の説明：小学校学習支援員は当初4小学校に2名ずつの8人配置を予定していたが、1小学校において、少人数学級の編制ができなかったクラスがあったため、経費変更申請により1名を増員し配置した。
執行額については前年度とほぼ同額となったが、執行率は2%増加し99．5%とすることができた。
計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと思慮する。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
学習支援員配置数 小学校：8人、中学校：6人	目　標	（小学校5人・中学校4人）	（小学校5人・中学校4人）	（小学校9人・中学校6人）	（小学校8人・中学校6人）
	実　績	小学校5人・中学校4人	小学校4人・中学校4人	小学校9人・中学校6人	小学校9人・中学校6人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：学習支援員を当初、小学校に8人を配置する計画をしていたが、4校中1校で2学年のクラス数が30名を超えたことから、きめ細かな指導を行うために固定配置をする学習支援員1名を経費の変更手続きにより増員した。
町内小中学校すべてに学習支援員を配置することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
小学校および中学校平均値が標準学力調査全国平均値以上	目　標	（　）	【小学校】 全国平均値以上 【中学校】 全国平均値以上			（　）
	実　績		全国平均値に対し 【小学校】 (1年)国語 5.5 算数 4.7 (2年)国語 2.2 算数 0.7 (3年)国語 7.0 算数 6.7 (4年)国語 7.0 算数 2.9 (5年)国語 2.6 算数 8.5 . . . 理科 −7.0 (6年)国語 0.9 算数 8.8 【中学校】 (1年) 国語 −1.0 社会 −7.1 数学 4.6 理科 −5.7 英語 −2.7 (2年) 国語 −3.7 社会 −7.1 数学 −7.9 理科 −8.4 英語 −3.1			

進捗状況説明：平成28年度は標準学力調査の全国平均値以上となることを目標とした。小学校は5年生理科を除いて目標を達成しているが、中学校では1年数学をのぞき、未達となっている。特に中学校では全学年がほとんどの科目で全国平均スコアとの差がみられる。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力の向上・全国平均スコアへのキャッチアップを図る。

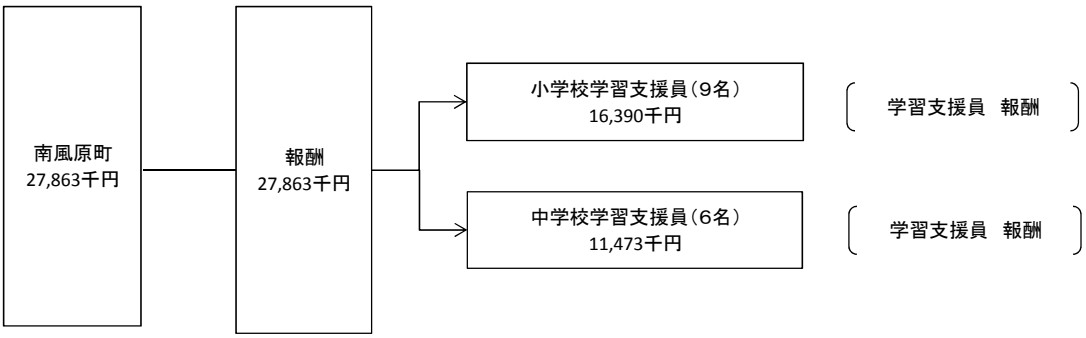
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	町内の全小・中学校に学習支援員を配置するこができ、授業環境は改善していると思われるが、さらにきめ細かい指導をするために教材研究の時間確保が必要。	・南風原町の基礎学力向上のために学習支援員の教材研究の時間を確保していく。 ・中学校英語が他の教科と比べても全国平均スコアとのポイント差が大きくなっているので、今後、webテストの活用等を図り正答率の改善に努める。

今後の取り組み方針

・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努める。
・今後小中学校に学習支援員を維持し、算数・数学・理科（理数科）の学力向上に努める。また、中学校については英語の全国平均値へのキャッチアップを図る。
・学習支援員の空き時間や夏休み期間中で担任教諭と連携を取り、効果的に教材研究を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,863	27,863	22,290	5,573	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑤	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－イ 豊かな心とたくましい身体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	児童生徒の総合的な学力向上を目的として、教室内で授業中に全体の指導についていけない子どもに対し特別支援教育支援員を配置し、介助や安全確保をおこなう。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,586	49,234	59,536	78,379	74,267
	(b) 予算現額	16,586	51,364	50,790	78,379	57,606
	(c) 増減額 (b-a)	0	2,130	▲ 8,746	0	▲ 16,661
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	16,586	51,364	50,790	78,379	57,606
B. 執行済額		9,940	49,643	46,738	58,991	55,794
うち交付金充当額		7,952	39,714	37,390	47,192	44,635
次年度繰越額		－	－	－	－	－
執行率（%）(B/A)		59.9%	96.6%	92.0%	75.3%	96.9%

予算の状況の説明

全校への特別支援教育補助員配置は目標達成したが、中途退職・中途採用があったため執行率は96.9%となった。
予定していた支援員の配置ができず欠員が生じた期間があったことから、予算16,661千円を減額した。また、不用額1,812千についても、予算減額後に支援員の募集を行ったものの、予定数を配置できなかったことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
特別支援教育支援員配置数 幼稚園：10人、小学校：35人、中学校：6人	目　標	（幼稚園5名・小学校24名・中学校3名）	（幼稚園8名・小学校31名・中学校6名）	（幼稚園12名・小学校33名・中学校6名）	（幼稚園10名・小学校35名・中学校6名）
	実　績	（幼稚園9名・小学校35名・中学校6名）	（幼稚園6名・小学校31名・代替員4名・中学校5名）	（幼稚園11名・小学校33名・中学校6名）	（幼稚園9名・小学校34名・中学校6名）
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

町内小中学校・幼稚園への特別支援教育補助員の配置について、必要な支援員数の募集を行ったが、応募する人がなく幼稚園で1名、小学校で1名配置することができなかった。
一部で特別支援員を配置することはできなかったが、全体的には支援を必要とする児童生徒に対してきめこまかい支援をすることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
小学校および中学校平均値が標準学力調査全国平均値以上	目　標	（　）	【小学校】 全国平均値以上 【中学校】 全国平均値以上	（　）	（　）	（　）
	実　績		全国平均値に対し 【小学校】 (1年)国語 5.5 算数 4.7 (2年)国語 2.2 算数 0.7 (3年)国語 7.0 算数 6.7 (4年)国語 7.0 算数 2.9 (5年)国語 2.6 算数 8.5 . . . 理科 -7.0 (6年)国語 0.9 算数 8.8 【中学校】 (1年) 国語 -1.0 社会 -7.1 数学 4.6 理科 -5.7 英語 -2.7 (2年) 国語 -3.7 社会 -7.1 数学 -7.9 理科 -8.4 英語 -3.1			

進捗状況説明

標準学力調査全国平均値以上とした成果目標について、標準学力調査の結果、小学校においては5年理科以外のすべての教科で目標を達成することができた。中学校においては、中学1年数学について全国平均値以上の目標を達成することができたが、ほとんどの科目で全国平均との差が見られた。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力の向上・全国平均スコアへのキャッチアップを図る。

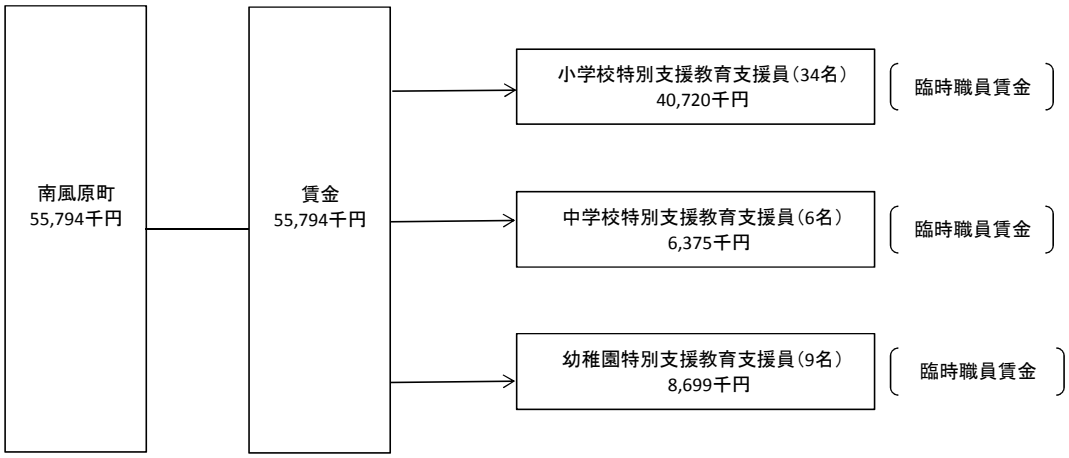
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成28年度では幼稚園小中学校全校に特別支援教育支援員を配置することができ、授業環境が改善し小学校においては、ほとんどの教科において標準学力全国平均値以上となり目標値を達成することができた。 ・児童生徒の支援に際しては、発達の違いにより支援方法も異なることから、臨機応変に対応できるよう、支援員の更なる質の向上などが必要となっている。 ・幼稚園と小学校で各1名配置できなかったが、学校単位では、支援員の配置を調整しながら、支援を必要とする園児・児童に対して支援を行った。	・年度当初と、夏期休業、年度末に研修（講演会等）を行い支援員の質の向上に努める。 ・担任や特別支援コーディネーターが特別支援教育支援員と十分な連携を行うことにより良い学習環境づくりを行っていく。また、特別支援教育支援員の活用についてコーディネーター会議等をとおして、各学校間の良い事例など多くの情報共有を図っていく。 ・支援員の経験年数や児童生徒の発達に合った支援員の配置など、きめ細かい配置を実施・検証し、無駄のない事業の執行をする。

今後の取り組み方針

夏休み期間中に、幼小中合同で2回研修を開催する。具体的には、他市町村教育委員会と合同で、座学やワークショップを行う。
発達支援心理士と担当職員が学校現場で情報を収集し、効率のよい支援員の配置に努めると同時に、支援員の心理的ケアを改善していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
55,794	55,794	44,635	11,159	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており予算規模は適正である。 ○費目・使途が事業目的に即しているかについては「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	学校ICT推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	学校においてICT機器を充実させ、わかりやすい授業を行うことで、教育の質の向上を図り、学力向上やより良い人材の育成を行うための環境を整備する。また、ICT機器を活用した魅力ある授業を支援するため、ICT支援員を配置する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,480	17,640	91,477	54,074	22,713
	(b) 予算現額	25,520	124,971	89,800	56,653	21,170
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,960	107,331	▲ 1,677	2,579	▲ 1,543
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	25,520	124,971	89,800	56,653	21,170
	B. 執行済額	25,520	124,971	89,800	56,477	20,498
	うち交付金充当額	20,416	99,976	71,840	45,181	16,398
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	96.8%

予算の状況の説明

H28年度に計画していた事業内容はすべて実施した。
予算の減額及び不用額については、それぞれ入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
書画カメラ 小学校：24台（6学年×4校） 中学校：12台（3学年×2台×2校）	目　標	（　－　）	（　－　）	（小学校：24台 中学校：12台）	（小学校：24台 中学校：12台）
	実　績	－	－	小学校：24台、中学校：12台	小学校：24台、中学校：12台
ICT支援員　3名	目　標	（　2名　）	（　3名　）	（　3名　）	（　3名　）
	実　績	2名	3名	3名	3名

達成状況説明

書画カメラを小・中学校に整備した。また、ICT機器を十分に活用できるようにICT支援員を小・中学校に配置した。H28年度に計画していた事業内容はすべて実施した。
【書画カメラ】 小学校24台、中学校12台整備
【ICT支援員】 小学校2名、中学校1名配置

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
小学校および中学校平均値が標準学力調査全国平均値以上	目　標	（　）	【小学校】 全国平均値以上 【中学校】 全国平均値以上	（　）	（　）	（　）
	実　績		全国平均値に対し 【小学校】 （1年）国語　5.5　算数　4.7 （2年）国語　2.2　算数　0.7 （3年）国語　7.0　算数　6.7 （4年）国語　7.0　算数　2.9 （5年）国語　2.6　算数　8.5 . . .　理科　−7.0 （6年）国語　0.9　算数　8.8 【中学校】 （1年） 国語　−1.0　社会　−7.1 数学　4.6　理科　−5.7 英語　−2.7 （2年） 国語　−3.7　社会　−7.1 数学　−7.9　理科　−8.4 英語　−3.1			

進捗状況説明

指標としている標準学力調査の全国平均値との比較において、小学校では、5年理科以外のすべての科目で目標を達成することができ、ICT機器の活用やICT支援員の配置によってわかりやすく魅力ある授業を行い、教育の質や学力の向上に繋げることができた。しかし、中学校では、1年数学を除き未達となっており、全国平均値との差がみられる。次年度以降も引き続きICT機器の整備、及びICT支援員の配置を行い、基礎学力の向上、全国平均値へのキャッチアップを図る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ICT機器について、電子黒板を音楽や体育、家庭科等の普通教室以外での授業及び特別支援クラスへの導入の要望が増えてきている。また、タブレットPCを授業で活用したいとの要望も増えてきている。 先生方に実施したアンケートでは、ICT機器の活用に関し、授業の中での効果的な使用方法や、機器を活用したグループ学習の進め方、機器の使用方法（基礎～応用）等の研修会の要望が挙っており、整備されているICT機器を最大限に活用できていない現状もある。	電子黒板について、普通教室以外での授業や特別支援クラスでもスムーズに活用できるよう、利用方法について確認を行いながら導入を検討していく。タブレットPCについても、児童・生徒個別の特性に合わせたきめ細やかな指導やグループ学習等、子ども同士の学び合いの場で活用することにより、よりよい授業づくりに役立てるため、導入を継続して検討していく必要がある。 また、より多くの先生が授業の中でICT機器を効果的に利活用し、学力向上に繋げられるよう努める。

今後の取り組み方針

・音楽や体育、家庭科等の授業や特別支援クラスへの電子黒板の導入や、タブレットPCの導入について、導入効果（児童・生徒の学力向上）や他市町村の動向を踏まえて検討していく。
・先生向けにICT機器の活用に関する研修を増やし、授業で効果的に利活用できる体制を整える。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,498	20,498	16,398	4,100	0

南風原町 20,498千円
→ 備品購入費 3,025千円 → 福山商事株式会社 3,025千円（書画カメラ購入費 小・中学校 36台）
→ 委託料 17,473千円 → 株式会社 興洋電子 17,473千円（ICT支援員に係る委託料 支援員 3名）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実績又は県内で取扱い可能な事業者を選定し、指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であった。 ○事業内容に基づき予算を執行しており、また支出先の選定も上述のとおり妥当であったことから、予算規模は適正な規模であった。 ○購入した備品は、事業内容に記載した、教育の質向上により児童・生徒の学力向上を図るためのものであり、費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑦	児童生徒健全育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	怠学や問題行動･暴力行為等の不登校生徒の居場所として自立支援教室を設置、専任の指導員を配置し、よりきめ細やかな対応、均等な学習指導を行う。また、怠学等の児童生徒の校外指導を行うため校外指導員を配置する。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,933	－	6,144	6,144	6,144
	(b) 予算現額	17,936	－	5,444	6,144	5,280
	(c) 増減額 (b-a)	11,003	－	▲ 700	0	▲ 864
	(d) 繰越額	－	6,911	－	－	－
	A. 計 (b+d)	17,936	6,911	5,444	6,144	5,280
	B. 執行済額	10,566	6,911	5,342	5,820	4,791
	うち交付金充当額	8,453	5,528	4,273	4,655	3,832
次年度繰越額		6,911	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		58.9%	100.0%	98.1%	94.7%	90.7%
予算の状況の説明		当初予算の計画どおりにほぼ執行執行することができたが、途中自立支援教室指導員が1名退職し不在の月があったことと、校外指導員の未配置の月があったため、予算864千円を減額した。また、予算減額後に自立支援員の退職等があり配置できない期間があったため、489千円の不用額が生じた。			

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
自立支援教室指導員（中学校） 3人	目　標	（　2人　）	（　2人　）	（　2人　）	（　3人　）
	実　績	2人	2人	2人	3人
生徒校外指導（中学校） 6人	目　標	（　6人　）	（　6人　）	（　6人　）	（　6人　）
	実　績	6人	6人	6人	6人

達成状況説明：自立支援教室指導員は当初2名配置（2中学校へ各1名ずつ）の予定であったが3名へ変更し配置した。しかし、年度途中の退職等があり、配置できない時期があった。生徒校外指導員は当初の予定どおり設置し、事業運営することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
・中学校平均値が標準学力調査全国平均値以上	目　標	（　）	（中学校平均値以上）	（　）	（　）	（　－　）
	実　績		全国平均値に対し 【中学校】 （1年） 国語　-1.0　社会　-7.1 数学　4.6　理科　-5.7 英語　-2.7 （2年） 国語　-3.7　社会　-7.1 数学　-7.9　理科　-8.4 英語　-3.1			

進捗状況説明：28年度も27年度に引き続き、登校支援全体会議で学校・福祉機関・地域（民生委員等）と連携した活動報告を行った。相談支援に関わった児童生徒は生活態度の改善や、登校日数の改善が見られた。成果目標の達成状況については、登校日数の改善は見られたものの、基礎学力の向上までは至っていない。

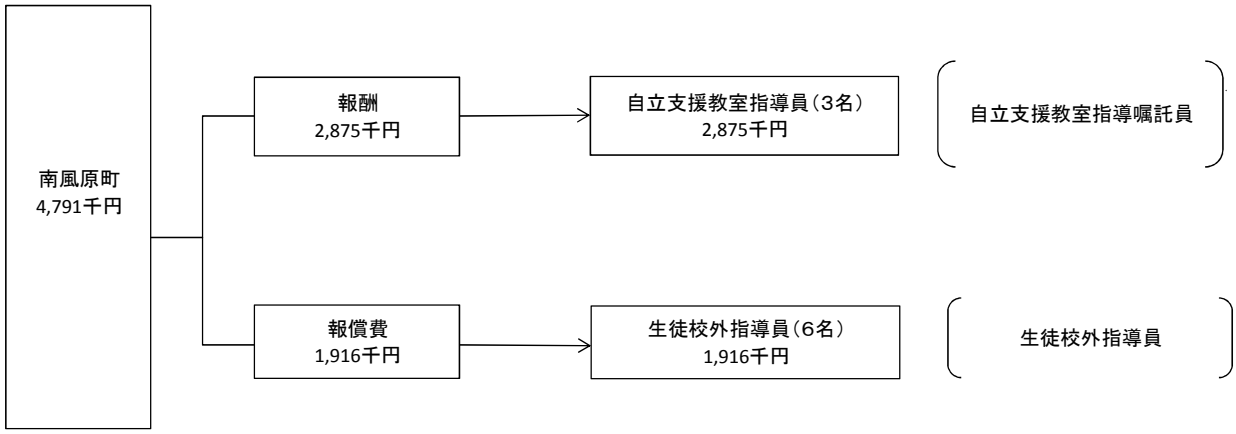
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・不登校ぎみ・怠学ぎみの生徒の登校支援・生活指導・学習支援を実施し登校日数の改善に努めた結果、学校復帰や部分登校が見られた。 ・怠学ぎみの生徒は関係機関と連携し、農業体験等を実施した。 ・登校支援委員会・サポート会議を開催した。	自立支援教室指導員の教育相談の質の向上のため、研修や情報共有の場を設ける。

今後の取り組み方針

研修の参加や関係機関との会議を通し、情報共有と意見交換し、支援の質の向上と不登校児童生徒の登校復帰に努める。
不登校ぎみ・怠学ぎみの生徒は、学習が苦手な生徒が多いため、指導員の支援で登校・学習の意欲を高める。
対象となる生徒が毎年代わってしまうため現場は対応に苦慮しているが、今後も根気強く本事業を継続していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,791	4,791	3,832	959	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○自立支援教室指導嘱託員、生徒校外指導員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○予算規模について、不用額は489千円であり、適正な規模であった。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑧	教育相談支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－５－（1）－イ 家庭・地域の教育機能の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	不登校または不登校傾向にある児童生徒や、子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対する支援を充実させるため、教育相談支援員などを小中学校に配置する。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,310	3,960	8,367	8,942	8,943
	(b) 予算現額	2,310	3,434	7,283	7,708	6,793
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 526	▲ 1,084	▲ 1,234	▲ 2,150
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	2,310	3,434	7,283	7,708	6,793
B. 執行済額		1,983	3,103	6,894	7,449	6,768
うち交付金充当額		1,586	2,482	5,515	5,959	5,414
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		85.8%	90.4%	94.7%	96.6%	99.6%

予算の状況の説明：心の教室相談員の勤務日数を予算見積時より実績は減少すると予測したため、年度途中で減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・町教育相談員配置数：１人 ・心の教室相談員配置数：４人 ・発達支援心理士配置数：１人	目　標	（　配置　）	（　配置　）	（　配置　）	（　配置　）
	実　績	配置	配置	配置	配置
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
町内の小中学校に教育相談員を配置し児童生徒・保護者・教職員への指導助言を行った。
心の教室相談員に関しては、4人配置を目標に退職教員等教育経験を有する方々へ依頼したが、1人確保することができずに3人の配置となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
小学校及び中学校平均値が標準学力調査全国平均値以上	目　標	（　）	（【小学校】全国平均値以上【中学校】全国平均値以上）			
	実　績		全国平均値に対し 【小学校】 （1年）国語　5.5　算数　4.7 （2年）国語　2.2　算数　0.7 （3年）国語　7.0　算数　6.7 （4年）国語　7.0　算数　2.9 （5年）国語　2.6　算数　8.5 . . .　理科　-7.0 （6年）国語　0.9　算数　8.8 【中学校】 （1年） 国語　-1.0　社会　-7.1 数学　4.6　理科　-5.7 英語　-2.7 （2年） 国語　-3.7　社会　-7.1 数学　-7.9　理科　-8.4 英語　-3.1			

進捗状況説明：
28年度は登校支援全体会議で学校・福祉機関・地域（民生委員等）と連携した活動報告を行った。
アンケート結果により相談支援に関わった児童生徒は生活態度の改善や、登校日数の改善が見られた。他機関と連携し不登校児童生徒の削減に努めた。
登校日数の改善は見られたため、小学校においては基礎学力の向上が見られた。しかし、中学校においては基礎学力の向上までには至っていない。

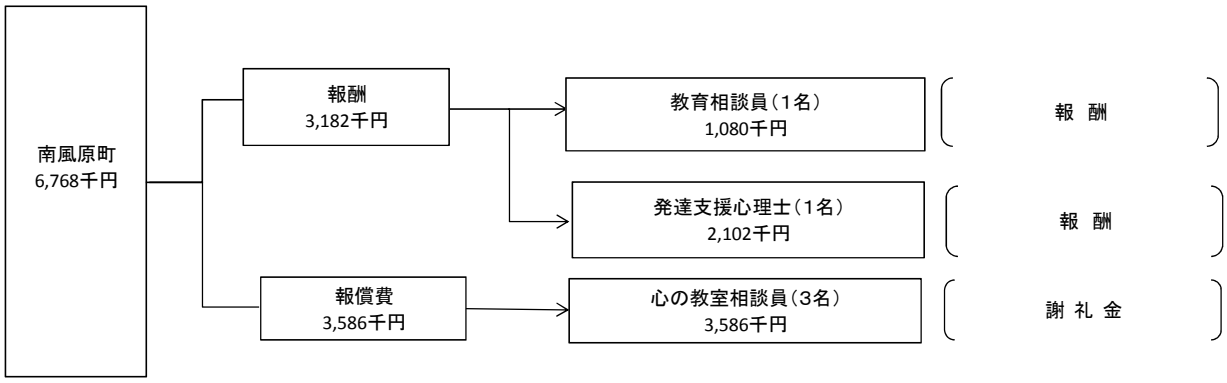
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（町教育相談員） 相談員・教職員への適切な指導助言により、相談支援事業が円滑になった。 （心の教室相談員） 教育相談と登校支援を兼ねることにより不登校児童生徒・保護者を支援した。 （発達支援心理士） 発達の気になる児童生徒に対し、学校現場や相談、検査等を実施し児童生徒の実態に合った支援をアドバイスすることができた。 ※前年度検証より ・学校現場では県が配置するスクールソーシャルワーカー・アシスト相談員等との連携を強化し、情報共有・整理する機会を月1回もつことができた。	・今後の対応として県配置の相談員等も含めた会議を定期的に開催し、情報共有・整理する場を設ける。 ・上記の会議を開催し、情報共有と連携を強化することで、支援の重複が無いようにする。 ・心の教室相談員の配置について、教育委員会や学校現場等、幅広く声をかけ、人材確保に努める。

今後の取り組み方針

29年度からは、県配置の相談員等（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・アシスト相談員）との連絡会議を毎月開催し、情報共有と連携を強化することで支援の重複が無いようにする。
不登校気味の児童・生徒は、学力不足が見られる傾向があるので、各機関と連携して登校を促し、学力定着に努める必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,768	6,768	5,414	1,354	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員、発達支援心理士、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○事業目達成に必要な金額のみ支出しており、予算規模も適正であった。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑨	中学校外国人英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、外国人英語指導員を中学校へ派遣する。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,205	3,780	3,780	3,780	3,780
	(b) 予算現額	2,205	3,780	3,780	3,780	3,780
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	2,205	3,780	3,780	3,780	3,780
B. 執行済額		2,205	3,780	3,780	3,730	3780
うち交付金充当額		1,764	3,024	3,024	2,984	3024
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画どおり執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
外国人英語指導助手配置数：1人	目　標	（1人）	（1人）	（1人）	（1人）
	実　績	1人	1人	1人	1人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：目標のとおり配置することができ、外国人によるネイティブ英語の授業を展開することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
中学校平均値が標準学力調査全国平均値以上	目　標	－	全国平均値以上	（　）	（　）	（　）
	実　績		全国平均値との比較 1年生：-2.7 2年生：-3.1			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		（　）	（　）	（　）	

進捗状況説明：中学校に外国人英語指導助手を配置したが、標準学力調査全国平均値との差が1年生で-2.7、2年生で-3.1あり、目標に対して未達となっている。次年度以降も中学校に配置し、基礎学力向上に努める。
今回成果目標を達成できなかったのは、通常授業との相乗効果が弱かったものと考えられる。標準学力調査の結果を観点別に見ると、1年生は「質問に答える力」、2年生は「外国語表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」のスコアが目標に対して特に低かったことから、その分野を克服できるよう通常授業の再構築を英語担当教諭も含めて取り組む。また、生の英語を聞くことで基礎力向上が期待できることから、今後も引き続き外国人英語指導助手を配置し、通常授業をより充実させ、英語の学力向上に努めたい。

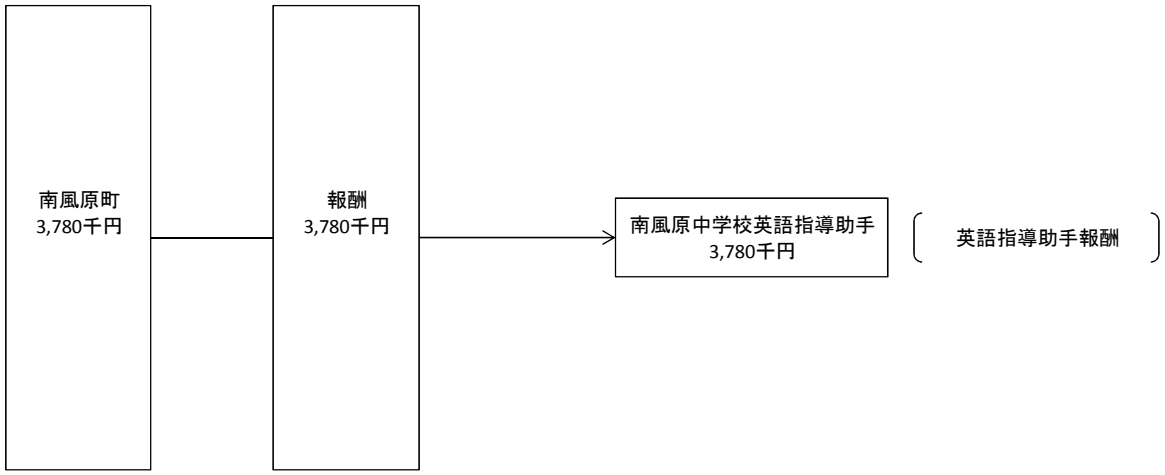
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	国際社会に対応できる人材を育成するため、外国人英語指導助手を配置し、生の英語に触れることで、英語でのコミュニケーションを楽しめる授業を展開したが、まだ英会話を苦手としている生徒がいる。また、通常授業との相乗効果が弱く、通常授業の成果である学力調査の結果に結び付いていない。	小学校と連携し、小学校英語から中学校英語へ抵抗なく移行できるようにし、生徒が英会話に対して苦手意識を持たせないようにする。また、標準学力調査の分析結果から、通常授業の再構築を図る。

今後の取り組み方針

今後も引き続き外国人英語指導助手を配置し、生の英語に触れ、英語でのコミュニケーションを楽しみながら、生徒が英会話に対して苦手意識を持たせないようにする。また、小学校と連携しながら、小学校英語から中学校英語へ抵抗なく移行できるようにする。更に、通常授業の再構築を図りながら、英語の学力向上に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,780	3,780	3,024	756	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた給与を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑩	南風原町青年海外派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（1）－イ 世界と共生する社会の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

言語、文化理解をはじめ、移民の歴史や現在の状況、世界のあらゆる動きの中で同じ町の人として励まし合い、助け合う繋がりを構築できる人材を育成するため、本町の青年2人を、移民先のハワイへ派遣し、町人会や、移民の次世代の青年たちとの交流を深める。

実施方法

■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,730	1,700	2,195	1,312	
	(b) 予算現額	1,730	1,700	2,046	1,162	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 149	▲ 150	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,730	1,286	2,046	1,162	
B. 執行済額		1,703	1,203	1,920	1,128	
うち交付金充当額		1,362	962	1,536	902	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）（B/A）		98.4%	93.5%	93.8%	97.1%	

予算の状況の説明

予算額が150千円の減となっているが、計画段階の旅費予定額よりも下回った事による減となっている。
活動目標、成果目標の達成状況を鑑み、適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・南風原町人会、海外移住者子弟研修生OBとの交流	目　標	（　交流会の開催　）	（　交流会の開催　）	（　　）	（　　）
	実　績	交流会の開催	交流会の開催		
・帰国後の報告会の開催	目　標	（　報告会の開催　）	（　報告会の開催　）	（　　）	（　　）
	実　績	報告会の開催	報告会の開催		

達成状況説明

・計画通り、米国ハワイへ本町の青年2人を派遣し、町人会のメンバーや、南風原での受入研修生OBたちとの交流を深めることができた。研修中、高齢者から若者まで幅広く面会し、沖縄のこれからのあり方、南風原とのつながりの大切さを話し合うことができた。研修生たちは、移民先と南風原町の橋渡しの役割を果たし、今後の自分たちの立ち位置を確認することができた。また、帰国後は、世界のウチナーンチュ大会のサポート役として協力した。今後も海外からの研修生や訪問客への対応に積極的に関われる機会を作りたい。人との関わりの中で、それぞれ自信をつけているようである。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
研修後、派遣者に対してアンケートを実施・派遣後、移民史や海外の沖縄人の生活に興味を持った：100%	目　標	（　　）	（　100%　）	（　100%　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%	100%		
研修後、派遣者に対してアンケートを実施・派遣後、自分のコミュニケーション能力が高まったと思う：70%	目　標	（　　）	（　70%　）	（　70%　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%	100%		

進捗状況説明

派遣した研修生は、受入側の配慮で、希望した医療関係者や、高齢者へ積極的にコミュニケーションを取って、話を伺う機会を作った。その中で沖縄の観光業に対する意見や、移民達の思いを聞く等、観光だけでは得られない、現地の人たちの心情を伺うことができた。その上で沖縄への要望、提案をいただくことで自分たちなりに今後の活動について考える良い機会になったようだ。また、言語を手段として、人と人とのつながりから、自分の日常生活によりよい変化を見いだそうとしている様子であった。

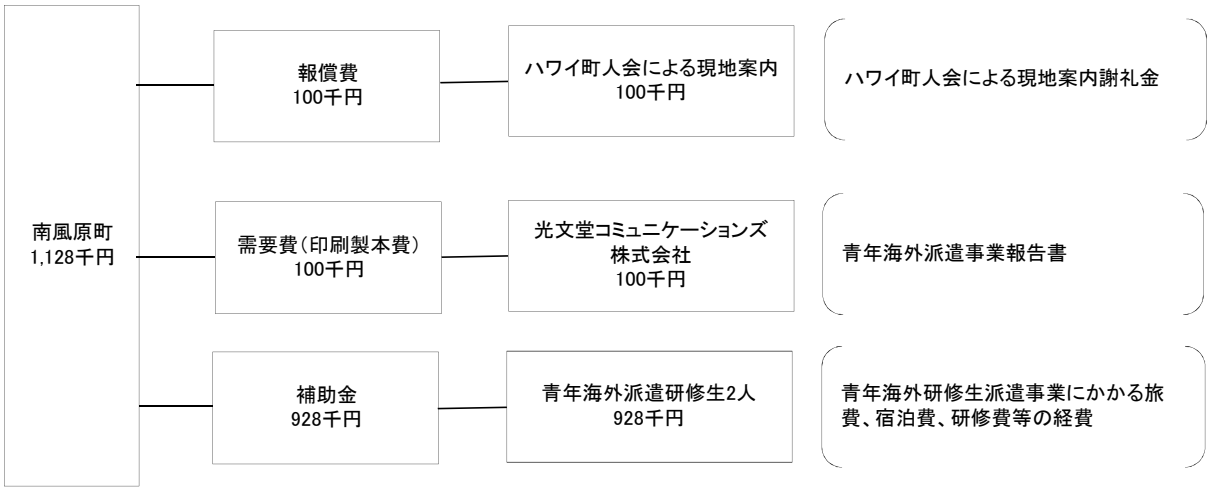
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・研修先での研修内容は、青年研修生派遣は、受け入れ側のニーズを配慮しながら、相談の上計画し、受け入れ側にとっても役立つ内容を積極的に取り組む必要がある。 ・研修後、研修生たちが体験した経験や知りあった県人会のネットワークを継続的に活用できる方法を検討する必要がある。	・計画の段階で、連絡を密にし、お互いの課題や提案を相談、調整する。 ・目的を持った節目のイベント、研修先の若者たちと協力した取り組み事業、研修生の専門性を生かせる事業を検討する。 ・メール等を駆使し、必要に応じて連絡を取るようにする。沖縄の出身町村や親戚のルーツを探している県系人は多いので、その調査への協力をすること。訪問してきた時に可能な限り通訳や案内の機会を作る。

今後の取り組み方針

・本町の青年達を移民先の南米3カ国（ブラジル・アルゼンチン・ペルー）、ハワイへ派遣し、南風原町が受け入れた研修生OBや町人会の人たちに会い、ワークショップや、施設めぐり、文化財めぐり、各種イベントへの参加を通して理解を深めるための具体的な活動を一緒に検討する。
・研修を終えた青年たちの具体的な活動の機会を作る。
・目的意識をはっきりさせ、役割分担をする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,128	1,128	902	226	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○青年海外派遣研修生は、公募し書類審査、面接試験を経て決定し事前学習を重ねるなど、選定方法は妥当である。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑪	南風原町各種大会派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

小・中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費の支援をする。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,837	1,837	1,990	1,991	
	(b) 予算現額	1,991	1,837	1,990	1,639	
	(c) 増減額 (b-a)	154	0	0	▲ 352	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,991	1,837	1,990	1,639	
	B. 執行済額	1,991	1,197	1,685	1,404	
	うち交付金充当額	1,592	957	1,348	1,123	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	65.2%	84.7%	85.7%	

予算の状況の説明：県外大会に参加する児童生徒に対し、派遣費の一部を補助した。
予算の減額352千円及び不用額235千円は、計画していた人数よりも下回ったためである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
児童生徒大会派遣の支援	目　標	（児童・生徒31人）	（派遣費補助）	（派遣費補助）	（派遣費補助）
	実　績	児童・生徒95人	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：児童・生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣することができた。九州大会4種目、全国大会3種目、63人の児童生徒が出場できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
大会派遣児童・生徒数：31人	目　標	（　）	（31人）	（31人）	（31人）	（　）
	実　績		57人	63人	63人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：児童・生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣され他県の児童生徒と交流を行うことによって、一人ひとりの能力や可能性をのばしてくことができた。

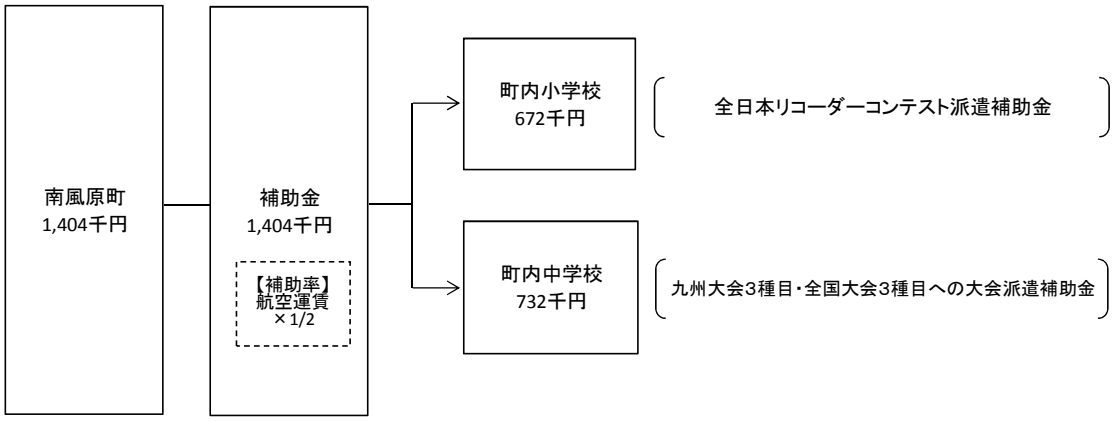
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童･生徒の大会派遣人数については、大会成績により決定するため学校と密に連携をとる必要がある。 また、大会終了後は、速やかに実績報告を受け、補助金交付額の確定を行う必要がある。	学校と密に連携をとり、派遣人数及び交付対象事業費の把握に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

引き続き学校と密に連携をとり、早めに派遣人数と交付対象事業費を把握し、派遣費補助の遺漏または交付額の相違がないよう取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,404	1,404	1,123	281	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○受益者との負担関係については、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑫	南風原町県外等派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生･中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,979	2,976	2,976	2,976	
	(b) 予算現額	2,154	2,237	2,341	2,076	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 825	▲ 739	▲ 635	▲ 900	
	(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,154	2,237	2,341	2,076	
B. 執行済額		2,024	2,004	2,299	2,002	
うち交付金充当額		1,619	1,603	1,839	1,601	
次年度繰越額		－	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		94.0%	89.6%	98.2%	96.4%	

予算の状況の説明

３月補正において、計画していた人数を下回っていたことから、予算額を900千円減額したが、変更後の金額は執行できており、適正な予算執行ができたと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
児童･生徒及び青年会等大会派遣の支援	目　標	（　派遣の支援　）	（　派遣の支援　）	（　　）	（　　）
	実　績	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

人材育成を目的として派遣費用の支援を実施しているため、軟式野球やバドミントンなどの運動活動18件、マーチングバンドなどの文化活動2件と、多様な競技について支援することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
派遣児童･生徒数及び派遣青年会数（累計）：140人	目　標	（138人）	（140人）	（140人）	（140人）	（140人）
	実　績		129人	139人	124人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

基準年度と比較して、支援した人数は124人と人数的には減少したが、種目は例年通り多くの県外派遣の支援が出来たと感じる。参加した生徒からは上位の大会に参加する事で「自分自身のレベルの確認が出来た」、「課題を見つけることが出来た」、「レベルの向上にもつながり、とても良い経験となった」などの声もあり、成果を感じる。目標人数を達成できなかった要因としては、申請期限を過ぎてから申請する事例があった事から周知不足が要因と思われる。対象外となる事例も1件あった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	人材育成のため、町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が参加する運動競技及び文化活動に対して必要な派遣費用の支援を行っているが、申請期限を過ぎてから申し出などもあり、一部で支援することができなかったため、支援事業の周知を強化する必要がある。 その他に課題として、感想文を提出しない生徒がいた。	・支援事業の周知不足を改善するため、継続的に次の３点について実施する。 ①学校へ事業内容の説明を定期的に実施し、申請もれを減らす。 （学校からの広報周知の応援をいただく） ②スポーツ少年団や、外部指導員の役員会等の集まりを通して事業説明を行う。 ③様々な媒体を活用して支援事業の周知を図る。（ホームページ、広報等） ・感想文を確実に提出するよう申請者に周知する。

今後の取り組み方針

・学校へ事業内容の説明する機会として校長・教頭連絡会での事業の説明や派遣後の児童等の結果を広報紙やHPへ記載するなど、定期的な情報発信を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,002	2,002	1,601	401	0

南風原町
2,002千円
→
補助金
2,002千円
→
29件
（申請者）
学校長・団体代表者
2,002千円
（航空運賃又は港までの運賃への半額補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、要綱に照らして決定しており妥当である。 ○支援金額についても普通運賃額を超えないように比較し適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。 ○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑬	魅力的な体験学習事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－５－（３）－（ア） 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）
事業内容	サイエンスショーを開催し、机上の学習だけではなく体験学習を取り入た授業を行うことで、児童の探究心や想像力を育て、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらい、沖縄振興に資する人材育成を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,397	3,506	3,735	3,903	
	(b) 予算現額	3,397	3,614	3,735	3,903	
	(c) 増減額 (b-a)	0	108	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	3,397	3,614	3,735	3,903	
B. 執行済額		3,297	3,563	3,715	3,882	
うち交付金充当額		2,637	2,850	2,972	3,106	
次年度繰越額				0		
執行率（%）(B/A)		97.1%	98.6%	99.5%	99.5%	

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、達成目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
サイエンスショーの開催：2回公演 対象　小学5・6年生	目　標	（　1回　）	（　1回　）	（　1回　）	（　2回　）
	実　績	1回	1回	1回	2回
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・7月に「サイエンスショー」を開催し、町内4小学校の5・6年生（853名）が参加した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
理科への関心度　：　95%以上 （評価方法） サイエンスショー鑑賞前と鑑賞後に理科への興味・関心度に関するアンケートを実施し、理科への関心度を調査する。	目　標	（　　）	（　70%　）	（　－　）	（　95%以上　）	（　　）
	実　績		93%	－	94%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：サイエンスショー鑑賞後に、理科への興味・関心を持ち、勉強したいと思うようになったと答えた児童は94.6%となっており、サイエンスショーの鑑賞が理科に対する興味・関心の向上に一定の効果があった。
成果目標の理科への関心度95%以上の未達成については、アンケート結果から「去年と同じ実験があったから」や、「実験が自分にはできそうにない」といった回答があったことから、公演内容のマンネリ化が要因と考えられる。

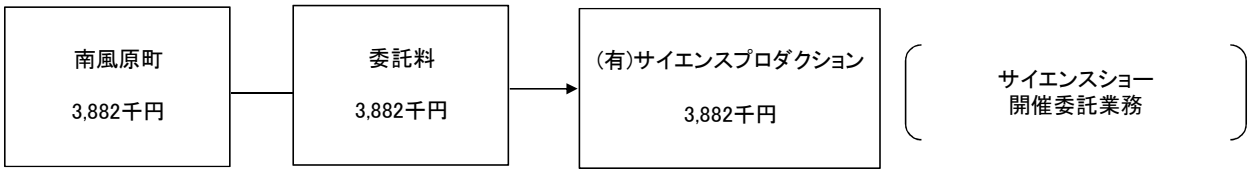
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	サイエンスショーを鑑賞することで児童の探究心や想像力の向上に取り組み、学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を育む。 サイエンスショー鑑賞後のアンケート結果では、94.6%の児童が理科に対し「とても興味をもった」または「少し興味をもった」と答え、また91.4%が「理科を勉強したいと思うようになった」と答えており、一定の効果があった。 しかし、成果目標については未達成であったため、公演内容の精査が必要と考える。	成果目標（理科への関心度）を達成できるよう、プロダクションと実験内容を精査する等調整しながらサイエンスショーの内容の充実を図る。

今後の取り組み方針

アンケート結果では、98.1%の児童がサイエンスショーを「楽しかった」と回答していた。また、「理科は覚えるだけでつまんないと思ってたけど実験が楽しかったから興味をもった」や「なぜ、空気は何も感じないのに風船にためると重く感じるのか調べてみたい」などの意見があり、サイエンスショーは児童や学校から好評であった。よって、引き続きサイエンスショーを実施し、子供たちの学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらう。
成果目標の達成に向けては、公演内容のマンネリ化が主な要因であると考えられるので、新しい内容の実験を取り入れたい。また、「実験が自分ではできそうにない」といった回答も見受けられたので、もっと身近に感じるような実験を行い、理科への関心度95%以上を達成できるように努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,882	3,882	3,106	776	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は随意契約である。本事業は、サイエンスショーを実施するもので、本公演を実施できる委託事業者が1社しかないため、妥当であったと考えている。 ○より多くの児童にサイエンスショーを体験してもらう事ができたため、予算規模は妥当であったと考えている。 ○使途は、サイエンスショーを実施するための委託料となっており、目的に必要な経費であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑭	南風原町児童生徒県外交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（4）－イ 能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

幅広い視野を持った人材を育成する為、県外の山間地域に児童生徒を派遣する。具体的には徳島県つるぎ町に南風原町の小学校高学年及び中学生を派遣し、徳島県つるぎ町の半田中学校での交流・民泊交流、登山等を体験する。

実施方法

■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,214	2,427	2,444	2,474	
	(b) 予算現額	2,214	2,427	2,444	2,510	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	36	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,214	2,427	2,444	2,510	
B. 執行済額		2,093	2,360	2,313	2,425	
うち交付金充当額		1,674	1,888	1,850	1,940	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		94.5%	97.2%	94.6%	96.6%	

予算の状況の説明

中学校1校から生徒1名の推薦がなかったため85千円不用額が出たが、概ね事業計画通りに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
徳島県つるぎ町立半田中学校へ中学生12名、小学生8名を派遣	目　標	（小学生12人 中学生10人）	（小学生12人 中学生10人）	（小学生12人 中学生10人）	（小学生8人 中学生12人）
	実　績	小学生12人 中学生10人	小学生12人 中学生10人	小学生7人 中学生12人	小学生8人 中学生11人
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

当初予定では中学生は12名だったが、南星中学校からの推薦がなかったため、小学生8名、中学生11名の派遣となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
・派遣者にアンケートや報告書（感想文）を実施し集計結果や分析を報告 「楽しかったこと・びっくりしたこと」の答えの50%以上に民泊交流・中学校交流が入るようにする。 「次回も継続してほしいこと」の答えの50%以上に民泊交流・中学校交流が入るようにする。	目　標	（　）	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　50%	（　）
	実　績		・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　52% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　68%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　54% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　55%	・「楽しかったこと・びっくりしたこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　52% ・「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊・中学校交流と答えた割合　59%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

徳島県つるぎ町での文化交流や自然体験学習のアンケート結果では「楽しかったこと・びっくりしたこと、次回も継続してほしいもの」の回答に約半数以上の児童生徒が民泊交流・中学校交流と回答しており、目標達成ができた。4月11日に南風原中学校にて半田中学校の受け入れを行い、相互交流を行うことができた。

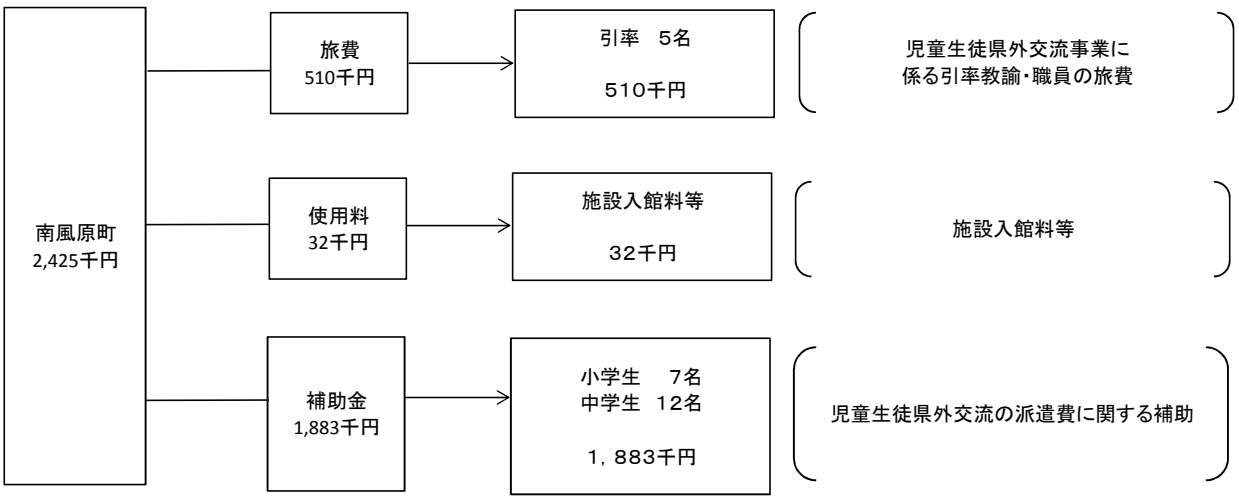
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今回は天候に恵まれ、スケジュールどおりに事業を展開できた。 ・安全性の配慮と中学校の交流を考慮し、平成27年度から小学生8名（各校2名）・中学生12名（各校6名）に変更した。 ・派遣中児童が安全で快適に過ごせるように配慮した。（例年移動中に車酔いなどで体調不良者が出ていたが、今年度は移動中適度に休憩を取るようにしたところ体調不良の児童が見られなかった。） ・南星中学校が1人参加できなかった理由は、推薦対象が1～2年を対象にしており、部活動の行事等で参加できる人がいなく推薦基準を満たさなかったためである。	・児童生徒の体調管理でスケジュール変更が余儀なくされる場合は、つるぎ町教育委員会、受入団体、町教育委員会と連絡調整し安全に事業を執行する。 ・早めに周知を行い、派遣生徒を確保する。 ・アンケートの結果が伸び悩んでいることから派遣カリキュラムについても検証していく。

今後の取り組み方針

・徳島県と沖縄県の違いを事前に学習し、予備知識を増やし、民泊受け入れ家庭や、中学校生徒・教員との交流をより充実させる。
・事業に参加した児童生徒が、在籍の学校で中心的な人材（生徒会役員や部活動の主将、ボランティアリーダー等）になるよう、指導支援していく。
・生徒の派遣が目標どおりに達成できるように、年度はじめから計画を立てて早めに周知を行い、募集を募っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,572	2,425	1,940	485	147



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は募集要項に規定された学校長推薦によるもので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は県外交流に必要な額を積算しており適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担も募集要項に基づき、徴収し妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は南風原町振興特別推進事業交付金要綱に基づき交付金を交付しており妥当であった。

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑮	南風原町幼稚園体育活動充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会　教育総務課	事業実施（予定）年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

南風原町内の幼稚園児を対象とし、運動能力を向上させるため、専門的な知識を持つ講師による体育指導を実施する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,281				
	(b) 予算現額	1,046				
	(c) 増減額 (b−a)	▲ 1,235				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,046				
B. 執行済額		1,046				
うち交付金充当額		836				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

新規事業のため各幼稚園等とのカリキュラムの作成などの準備に多くの時間を要し、実施期間（回数：各園48回(予定)→各園22回）が短縮されたことから予算額を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
町内4幼稚園での専門的な体育指導の実施	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

南風原町内の町立四幼稚園の5歳児を対象に運動することの楽しさを教え、さらには専門の講師による技術と指導メニューにより運動能力を向上させた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
逆上がりの習得：90%	目　標	（　　）	（　90%　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		25.34%			
跳び箱3段の習得：90%	目　標	（　　）	（　90%　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		64.96%			

進捗状況説明

当初、運動が苦手な幼児達も指導を受けることで自信を持つようになり、運動する楽しさを感じることができた。
成果目標である「逆上がり」「跳び箱3段」の習得は90%には及ばなかったが、「逆上がり」が371人中94人、「跳び箱3段」が371人中241人習得することができた。
習得できなかった理由は、鉄棒や跳び箱に初めて接する幼児達がほとんどであったことや事業実施の遅れによる実施回数の減が主な要因と考えている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	5歳児を対象に9月から2月までの6ヶ月間（各園22回）の指導となり、当初予定していた期間の実施ができず、目標に達することができなかったが、次年度は5月から実施することで、「逆上がり」「跳び箱3段」の習得者数の増加に努める。	4歳児も含めた体育指導を実施し、4歳児から5歳児へと段階的な指導を行うことで、より効果的な体育活動にする。

今後の取り組み方針

平成29年度は、28年度の経験と反省を生かし、年度当初から契約準備を早期にすすめる。
幼稚園児の体育指導を継続的に実施し、町内の子どもたちの健康の保持増進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,046	1,046	836	210	0

南風原町 1,046千円 → 委託料 1,046千円 → (株)太陽スポーツクラブ 1,046千円

（南風原町立幼稚園体育活動充実支援委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－①	南風原町観光景観美化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（6）－ア 沖縄らしい風景づくり
担当部課名	経済建設部　まちづくり振興課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

本県は亜熱帯性の固有な自然環境であり、年間を通して植物の繁茂がある。観光ルート（町内道路、水路等）の清掃、維持管理により、町全体のイメージアップを図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,600	6,442	6,442	6,442	6,442
	(b) 予算現額	6,600	6,442	6,442	6,442	6,442
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	6,600	6,442	6,442	6,442	6,442
B. 執行済額		6,116	6,128	6,184	6,061	6,104
うち交付金充当額		4,892	4,902	4,947	4,848	4,883
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		92.7%	95.1%	96.0%	94.1%	94.8%

予算の状況の説明：予算は概ね計画どおりに執行し、事業を円滑に行うことが出来た。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
観光ルート延長L=12,600mの町道メンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を実施	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・景観美化作業員を4名雇用し、町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
観光ルートの町道を草木の伐採等により景観美化を、前年度同様に実施する。	目　標	（　）	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・南部の観光ルート拠点として。町道の草木の伐採を恒常的に行い、道路の景観を維持することができた。
・また次年度も同じルートの景観美化をはかっていく。

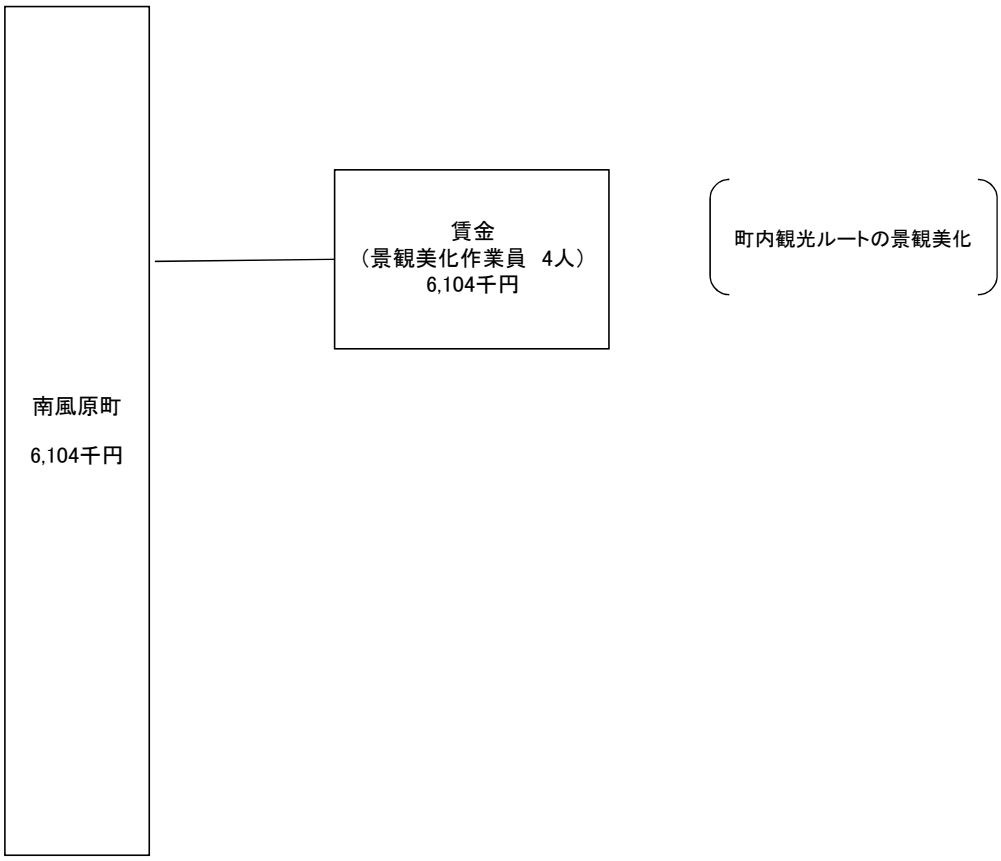
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	南部の観光ルートでもある町道は、景観を維持するために常に巡回して草木やゴミを処理することが必要である。	町道の草木は夏季にいちじるしく成長するため、作業員の負担もその分多くなるが、人員を増やすことはできないため、主要な道路の草木を重点的に処理するなどの対応が必要になってくる。今後は除草剤の使用も検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・Jリーグのキャンプ時など、町内に観光客が多くあつまるときには、重点的な施設周辺美化の向上につとめ、町のイメージを良くするよう取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,104	6,104	4,883	1,221	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。 ○予算規模は町の基準で積算されているもので適正と考える。 ○費目・使途については額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－②	かすりの道活性化プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	「かすりの道」を活用した魅力的な観光地づくり、まちづくりを促進し、認知度を高めるため、地域住民参加による緑化活動、道並などの美化を行い、イベントを開催する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,676	5,000	4,254	9,044	4,709
	(b) 予算現額	4,545	3,753	4,254	10,175	4,709
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,131	▲ 1,247	0	1,131	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A.　計 (b+d)	4,545	3,753	4,254	10,175	4,709
	B.　執行済額	4,260	3,343	3,962	8,613	4,451
	うち交付金充当額	3,408	2,674	3,169	6,890	3,561
次年度繰越額		－	－	－	－	－
執行率（%）（B/A）		93.7%	89.1%	93.1%	84.6%	94.5%

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イベント開催：4回	目　標	（　1　）	（　6回　）	（　6回　）	（　4回　）
	実　績	5回	7回	13回	15回
かすりの道緑化活動：10回	目　標	（　10回　）	（　10回　）	（　10回　）	（　10回　）
	実　績	12回	28回	29回	19回

達成状況説明：
・かすりの道ツアー等の誘客イベントを10回、古民家活用イベントを5回開催し、町内外から485名の参加がありました。ツアーのほか、かすりの道集落内の古民家を活用した「藍染め体験」なども行い、参加者からは好評でした。
・かすりの道緑化活動は、かすりの道両側に植栽をした草花の雑草取り、施肥、季節の花の植付などを毎月第１日曜日にかすりの道周辺の住民と観光協会で定期的に行い、それに合わせて肥料の配布と施肥や新しい花の選定と配布・植え付けなどを継続的に行っているとともに、かすりの道路面清掃も行いました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
かすりの道散策ツアー参加者：360人	目　標	（　）	（　300人　）	360人	（　360人　）	（　）
	実　績		284人	126人	121人	
イベント参加者：360人	目　標	（　）	（　180人　）	180人	（　360人　）	（　）
	実　績		222人	198人	364人	

進捗状況説明：
・かすりの道ツアーは、地域の住民が一緒に回ってガイドの説明に加えて現場の昔を説明することで、現在の地形が変わっていても当時の風景を観光客が想像できるように工夫したことや、古民家での休憩時にお茶の接待などで参加者の評判は良かったのですが、ホームページやSNS等での情報発信だけでは集客力が弱く、目標達成には至らなかった。
・古民家を活用した「落語寄席（古民家落語の夕べ）」は多くの町民から「かすりの道」が認識され相乗効果が表れました。恒例の「古民家コンサート」は、地域住民や南星中学校との連携した開催により地域住民がお客様がかすりの道周辺を訪れることに理解をしてくれ始めたこと、同時にツアーを組み立てることにより多くの誘客に結び付いたこと、また、イベント開催時には周辺集落の住民も参加し住民と観光協会の協働の取り組みとして成果がありました。
・かすりの道緑化活動は、季節ごとに道周辺の花の植え替えと、水やり、草取りなどの管理を毎月第１日曜日に周辺住民の方と行っています。

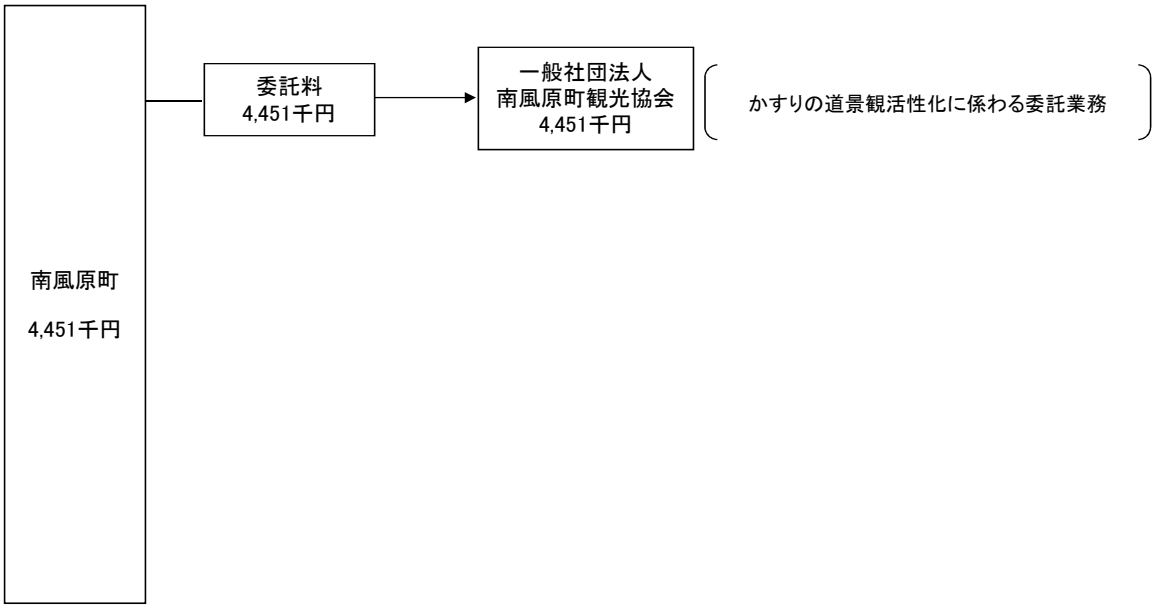
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	かすりの道緑化活動として、現在かすりの道周辺の住民が、道の維持管理や観光客への取り組みを理解し始めており、今年度は3つの字で取り組んできましたが、更なる広がりを目指します。 個人で機織りをしているかすり工房などが減少しつつあり、かすりの道を歩いてもかすりを織る音を聞く機会が減少しています。 路面清掃においては、生活道路のため汚れが後をたたない。 ホームページやSNSなどの媒体でかすりの散策道ツアー参加者を募っていますが、目標達成には至る事ができなかった。	かすりの道緑化活動としての取組に対して、かすりの道の清掃や道周辺の花の植栽、管理、観光客との交流等サポートをしていきます。 「古民家コンサート」「落語寄席」などの取り組みを継続し、周辺住民や町内外に琉球絣を始めかすりの道を周知するとともに工房の方々にも理解を得るように努めます。 かすりの道の洗浄においても、生活道路であることを念頭において定期的に清掃に取り組んでいきます。 かすり事業者の若手を中心に、廃業した工房や空き家の利用を検討していきます。 かすりの道散策ツアーだけの告知では集客力が弱い部分があるので、古民家やかすりの道を活用したイベントの回数を増やして実施します。

今後の取り組み方針

・かすりの道の緑化、清掃や道周辺の植栽、肥培管理など、3字が一つになった観光客との交流などのサポートをしていくとともに、協働で取り組んで行きます。
・かすりの道ツアーでの藍染め体験や古民家コンサート、落語寄席などのイベントを継続して開催し観光客の誘致へつなげます。
・かすりの道を歩いても絣を織る音が聞けないというツアー参加者の意見を反映し、絣事業者（特に若い人達）と相談しながら、廃業した個人織工房や集落内にある空き家の活用を検討します。
・かすりの道は生活道路のため、道の洗浄においても常にそのことを念頭に置いて取り組みます。
・28年度同様、住民と一緒になって作り上げていく観光が南風原町の観光ととらえ、まちづくりの原点に立ち返って『物の観光』から『心の観光』へと時間はかかっても周辺住民とともに取り組んで行きます。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,451	4,451	3,561	890	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の契約先である一般社団法人南風原町観光協会は来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は上記のとおり妥当であり、予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	無料職業紹介所整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(10)－ア 雇用機会の創出・拡大と求職者支援
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－2

事業内容

沖縄県は完全失業率が全国最下位であり、本町においても失業率は8.9%（H22国勢調査）と高い失業率となっていることから、求職者や企業に対して、より充実した雇用支援が必要である。そのため、町内の求職者に対して、就職だけでなく福祉や税等の面からも、身近な場所でより必要な支援が提供でき、スピーディーに企業に求職者を斡旋できるマッチングシステムを整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,642	1,680			
	(b) 予算現額	6,642	1,120			
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 560			
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,642	1,120			
B. 執行済額		3,803	840			
うち交付金充当額		3,042	672			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		57.3%	75.0%			

予算の状況の説明

・就職相談支援員について、年度当初から募集を行ったが配置できず、途中からの採用となったため予算560千円を減額した。
・就職相談支援員が年度途中の退職により不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
職業紹介所の広報	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　　）	（　　）
	実　績	未実施	実施		
・求職者情報の収集と求人情報の収集	目　標	（　－　）	（　情報収集　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	求職者情報28件 求人情報192件		

達成状況説明

・町の広報誌への掲載やチラシ作成、関係部署（こども課や社会福祉協議会）や区長会への事業説明などで周知を図った。

・雇用支援システムを活用し、求職者情報と求人情報の収集を行った。　求職者情報：28件　　求人情報：192件

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
雇用マッチング7件	目　標	（　　）	（　5件　）	（　7件　）	（　　）	（　　）
	実　績		0件	2件		

進捗状況説明

・広報や求職者と求人企業とのマッチングをおこなったが、就職相談支援員が年度途中の退職や事業の周知不足により、十分な結果を残せなかった。

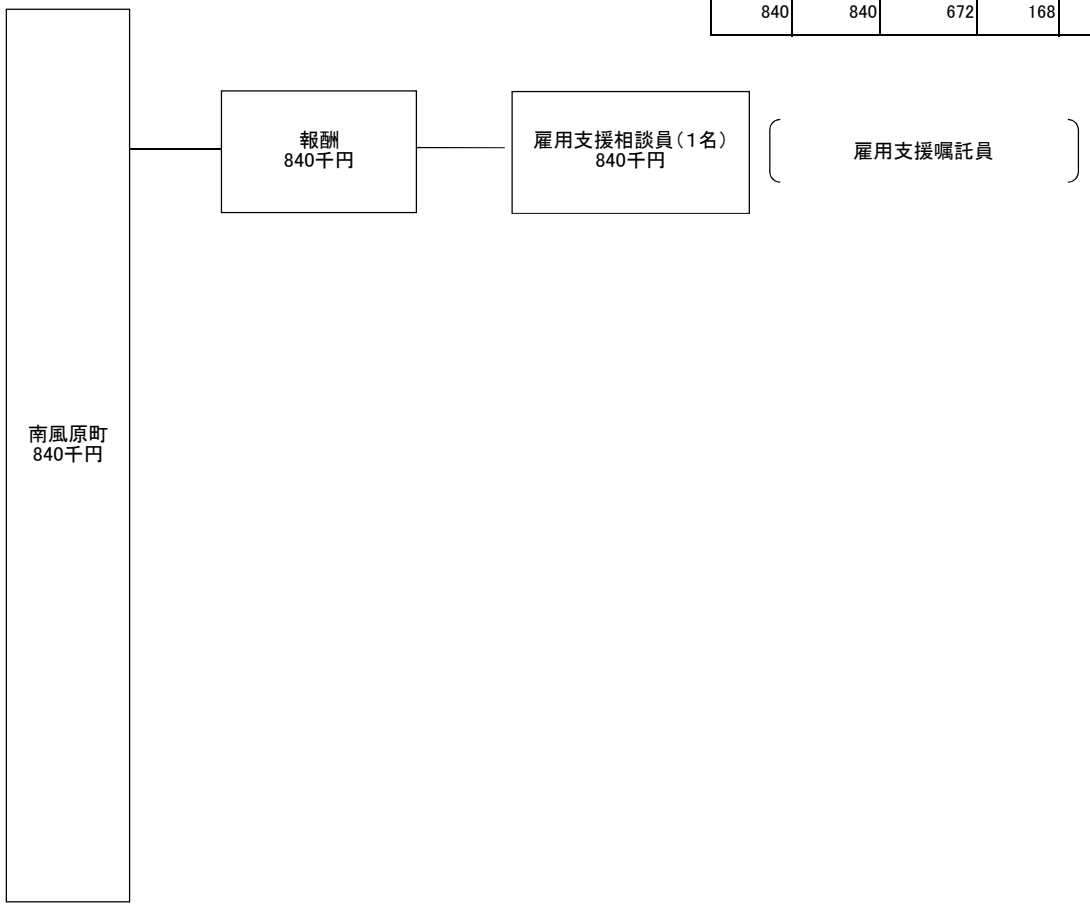
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	求人情報の登録はあるが、求職情報が少ない。 雇用支援相談員を採用にしたが、年度途中の退職により効率のいい窓口相談ができでいない。	ホームページやSNSを活用して、無料職業紹介所の周知を図り、町民の活用を促進する。 社会福祉協議会や地域福祉班とも連携し、採用までのサポートを行えるようにする。 雇用支援相談員だけでなく、商工班での窓口相談が出来るように体制を整える。

今後の取り組み方針

無料職業紹介所の利用促進を図るため、様々な媒体での周知・広報を継続的に実施し、多種多様な求職情報、求人情報を収集し、仕事や人材に関する相談者の様々な要望に応えられる情報を提供し、雇用マッチングを図る。
雇用担当だけではなく、商工班で雇用相談に対応できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
840	840	672	168	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○予算の状況の説明のとおり不要額が生じているが、嘱託員が年度途中に退職したためであるため妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－④	デザイン・くくり担い手育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－イ 文化の担い手の育成
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

本町の琉球絣は伝統工芸品として有名であり、その生産体制は分業体制で行われている。生産工程の一つである「デザイン・くくり」の技術者が現在少ない状況にあり、このままでは技術が失われる可能性があるため、「デザイン・くくり」の技術者を育成する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30,000	24,899	14,749	16,457	
	(b) 予算現額	17,770	22,791	14,749	13,622	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 12,230	▲ 2,108	0	▲ 2,835	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	17,770	22,791	14,749	13,622	
B. 執行済額		16,140	22,275	13,849	11,809	
うち交付金充当額		12,912	17,820	11,079	9,447	
次年度繰越額		－	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		90.8%	97.7%	93.9%	86.7%	

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施したが、予定していた講師の派遣数の減と県外視察の回数減、県外を予定していた成果展の県内開催などにより、予算2,835千円の減となった。
・不用額については、計画段階の人件費よりも実績が下回った事による減となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
工房の即戦力となるデザインくくりの技術者を育成する（デザイン製作、デザインくくり技術の実践、絣の振り袖の学習、藍染の学習、クジリゴーシ、ナナカシの学習）	目 標	（技術者育成）	（技術者育成）	（技術者育成）	（　）
	実 績	技術者育成	技術者育成	技術者育成	
	目 標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実 績				

達成状況説明

南風原だけでなく、多くの場所や織物を見ることで、知識や折り方、歴史を学習し、広い視野を得る事を目的に、絣を取り扱っている場所に赴き、見学・学習を行った。また、デザインを考案するためのパソコン講習会等を開催した。
基礎的な知識を学ぶと同時に、デザインくくりの技術を講師から教わり、その技術を習得するために何度も練習を重ねながら、新たなデザインを考案し挑戦した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（33年度）
・デザイン・くくり技術者4名育成	目 標	（　）	（4名育成）	（　）	（　）	（　）
	実 績		4名技術習得			
	目 標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実 績					
	目 標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実 績					

進捗状況説明

H26年度より新たに4名を新規育成者として採用したが1名が退職したことで、H27年度に1名を新たに採用した。
3年目の3名は、研修や実践を通しながら、絣の基礎知識や全行程を学びながら、デザイン括りの技術習得に取り組み、技術・技法の知識もある程度習得できているが、2年目の1名は他の3人に比べるとやや習得率が低い。
H28年度は3年計画の最終年度で前年度からの4名の受講生は年間を通して課題に取り組めた。2年目の1名もしっかり技術の習得が出来た。
H28年度は振袖4枚・付下4枚・藍染綿4枚・絹・朝4枚。クジリゴーシ、ナナカシ16反を制作した。

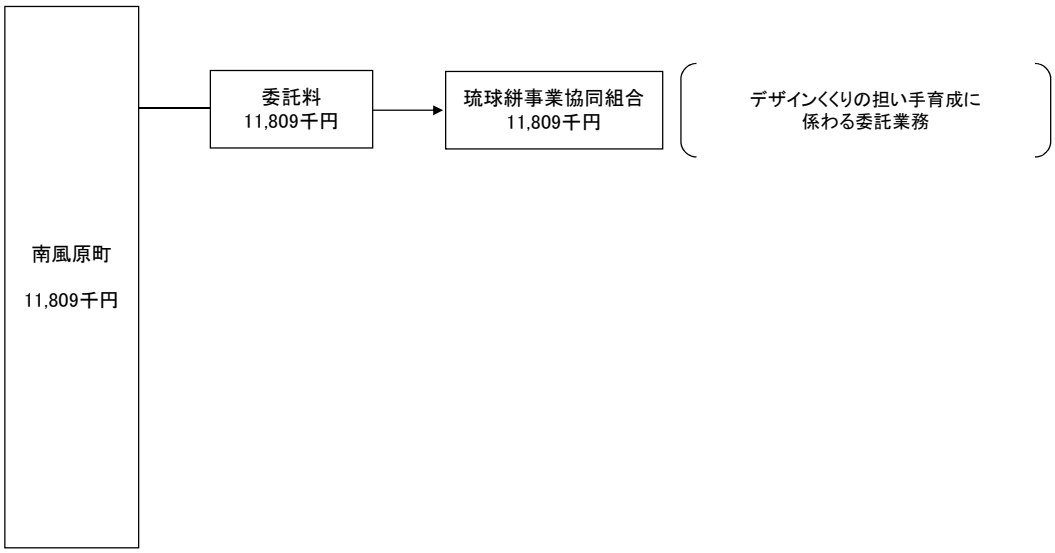
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	現在不足している「デザイン・くくり」の継承者を育成し、若い担い手の働く場を提供することで絣の伝統工芸の継承を促進しつつ、新しい分野での発展の可能性を向上させるために、絣の基礎知識、全行程も学びながら、「デザインくくりの担い手」として即戦力になるまで3年間育成する事業を実施している。 H26年度から新たに採用した4名の受講生のうち１名がやむをえない事情で退職したため、H27年度にあらたに1名を採用した。1年目の受講生は、絣に関する基礎知識は理解出来ているが、実践での失敗が多かった。 研修は県外研修を2回予定していたが、課題作成の遅れもあり、1回しか出来ていない。 H28年度は3年計画の最終年度で前年度からの4名の受講生は年間を通して32反の反物作成に取り組めた。	・研修生の諸事情も解決できる部分は、事業所一体となって対応し、働きやすい環境作りに取り組む。 ・製作過程で失敗を何度か繰り返すことにより、どの方法で対処したらいいのかを学び、修正が可能になる。繰り返し工程を学ぶことが技術の習得につながる。 ・県外での研修や展示会を予定していたが、結果として取り組めていないので、しっかり出来る内容での事業展開を行っていくようにする。 ・課題作成においての研修生のスケジュール調整が必要なので、事業所も含めて研修生の間で課題作成に差が出ないように取り組む。

今後の取り組み方針

産地研修や展示会見学で視野を広げ、他産地の意見や現状を学ぶことでモチベーションを高め、意識向上、意欲向上を図る。
多くの実践を踏まえ、その中で失敗を繰り返すことで、対策方法や解決方法などの技術の習得に繋がるため、多くの経験を積ませる。
技術習得の効率化を図るため、織りに関してある程度の知識と技術を持った人材を対象に育成を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,809	11,809	9,447	2,362	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑤	危険生物駆除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	観光客等をハブ咬傷から守るため、ハブトラップを設置するとともに、その周辺を重点地域として巡回する危険生物駆除員を配置し、安全な観光地を目指す。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,523	1,749			
	(b) 予算現額	2,010	1,749			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 513	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	2,010	1,749			
B. 執行済額		1,679	1,622			
うち交付金充当額		1,343	1,297			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		83.5%	92.7%			
予算の状況の説明		ほぼ、事業計画のとおり執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
捕獲器を町内に40器設置	目　標	（30器）	（40器）	（　）	（　）
	実　績	30器	37器		
巡回を実施	目　標	（－）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	－	実施		

達成状況説明：危険生物駆除臨時職員を1名配置し、町内40箇所に捕獲器の設置を予定していたが、劣化による修理を必要としたため、最終的な設置捕獲器数は37器であった。毎週3～4回の巡回を実施し、76匹を捕獲することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準年（年度）	28年度	29年度	30年度	31年度
観光地内におけるハブ咬傷件数　0件	目　標	（　）	（0件）	（　）	（　）	（　）
	実　績		0件			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：危険生物駆除臨時職員を1名配置し、町内37箇所に捕獲器を設置した。毎週3～4回の巡回を実施し、ハブを76匹を捕獲することができ、咬症件数は0件で未然に咬症を防ぐことができた。

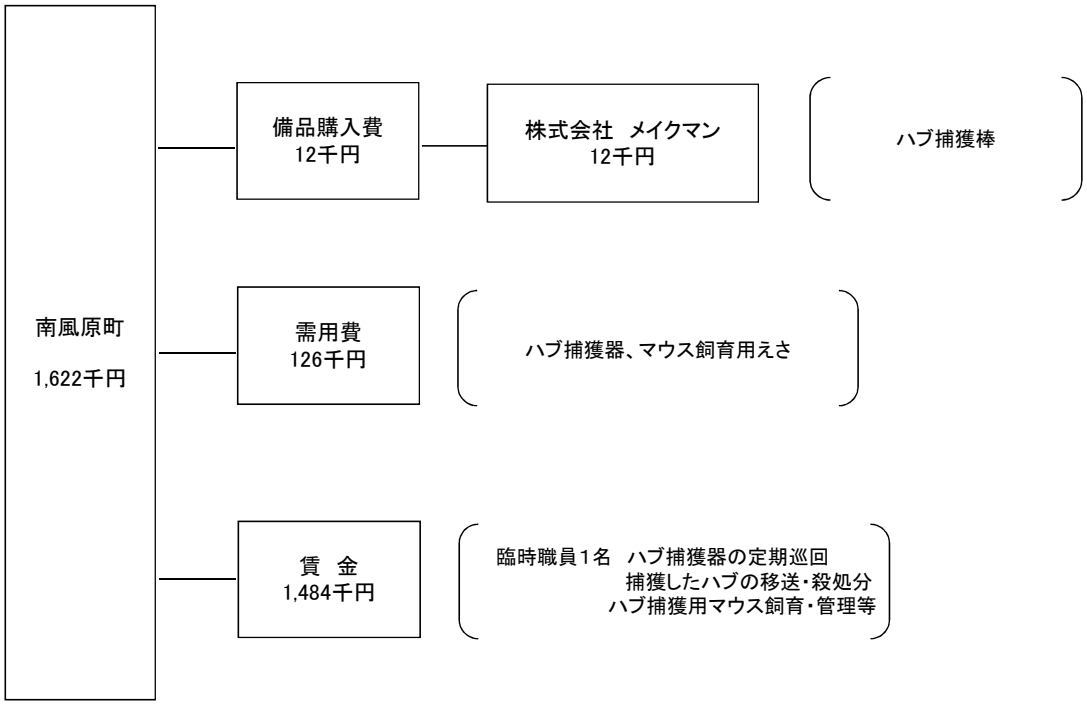
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ハブの活動が活性化する4月からすぐに担当職員を配置しハブの駆除作業に取り組んで、観光客等へ危険性を除去する。また、その捕獲器の存在が認知できるように表示し、その区域に立ち入らないよう看板を設置するなどして周知を図る。	・マウスの飼育管理も徹底し、その個体数の安定確保に努める。 ・捕獲後、殺処分をする際の安全確保に努める。 ・観光客にも容易に確認できる位置に看板を設置し、咬傷を防ぐ。

今後の取り組み方針

・危険生物駆除担当臨時職員を配置し、捕獲器を設置することにより年間を通して危険性の除去に努める。
・町広報誌等の媒体や看板を設置するなどして、住民及び観光客等に対し、捕獲器設置への理解協力を促すと共に、危険生物駆除事業についての周知を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,622	1,622	1,297	325	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入費は、3社見積を徴収し、最低価格業者と随意契約したので妥当である。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な賃金、備品費、消耗品費であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から真に必要なものに限定されているもので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑥	民泊啓発推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

南風原町には宿泊施設がないため、滞在型観光の振興の妨げとなっている。宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、企画・運営職員を配置し、宿泊体験家庭の開拓やシステムの構築などを行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,598	3,563	3375	3,794	
	(b) 予算現額	2,644	3,563	3375	3,794	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,954	0	0	0	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	2,644	3,563	3375	3,794	
B. 執行済額		2,337	3,389	3149	3,480	
うち交付金充当額		1,869	2,711	2518	2,784	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）（B/A）		88.4%	95.1%	93.3%	91.7%	

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
・不用額については、計画段階の委託費よりも使用料、消耗品などの実績が下回った事による減となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
宿泊体験登録家庭数：26家庭	目　標	（　5家庭　）	（　5家庭　）	（　20家庭　）	（　26家庭　）
	実　績	9家庭	7家庭	7家庭	8家庭
修学旅行誘致営業：1回	目　標	（　－　）	（　－　）	（　1回　）	（　1回　）
	実　績	－	－	3回	1回

達成状況説明

滞在型観光を促進するため、年間登録目標家庭26家庭に対し、受け入れ家庭を8家庭増やし累計31家庭となった。平成28年度は、23校の427名を受け入れました。
県内、外の旅行会社に対して、ダイレクトメールを発送、誘致の営業を行いました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
宿泊体験受入数：200名	目　標	（　　）	（　25名　）	（　90名　）	（　200名　）	（　　）
	実　績		80名	175名	427名	
新規受入学校：3校	目　標	（　　）	（　－　）	1校	（　3校　）	（　　）
	実　績		－	13校	10校	

進捗状況説明

今年は新規3校、200名の目標に対し、23校(新規10校)の427名を受入することにより、新しい受入家庭が広がりを見せ始めた。その結果、目標数以上の受入を行うことができました。
民泊受入家庭を増やすことと民泊体験者を増やすことが重要ですが、受け入れ家庭においても初めての経験家庭が多く不安があり、生徒たちを受け入れるとともに対応について経験を積むことが必要です。民泊受入家庭の研修も継続して行っていきます。

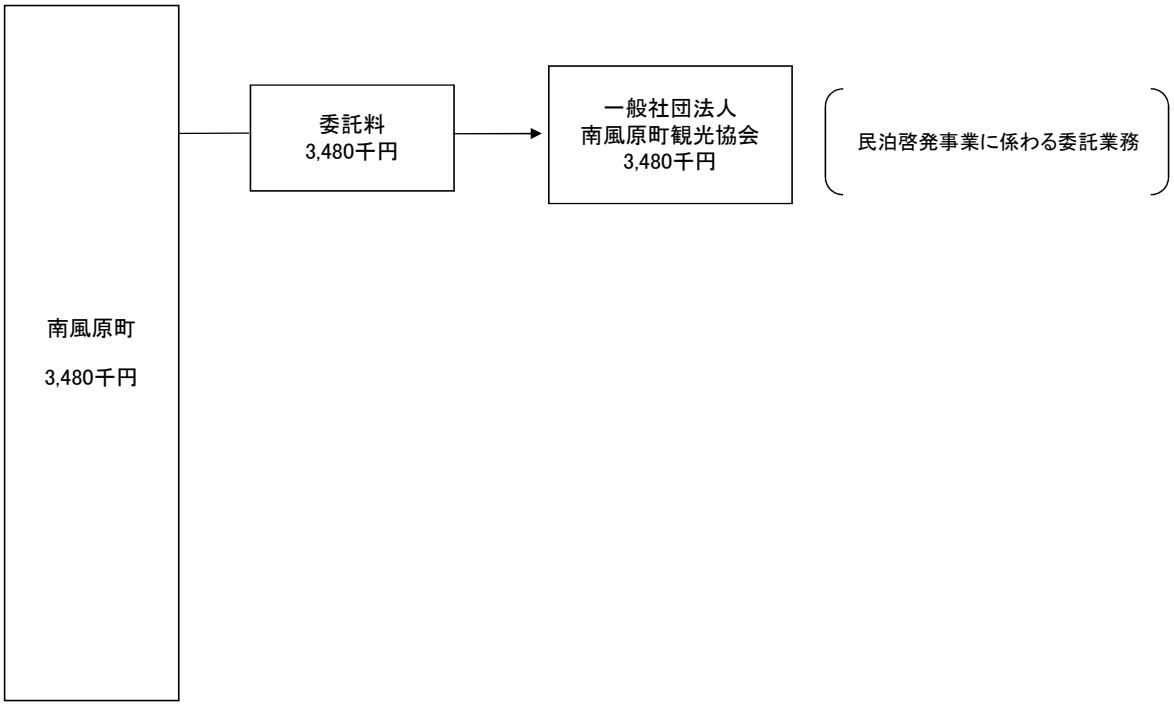
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町は那覇市近郊ということで子どもたちは学校を卒業しても自宅から通勤をするため空き部屋が少なく、時間をかけて民泊受入家庭を増やしていく事が必要です。 ・民泊の対象である学生の修学旅行における宿泊先は、数年先まで決まっている状態であり、継続してPRを行っていく必要があります。 ・町の平和教育の拠点である文化センターや陸軍病院壕での平和学習、各家庭での交流など、様々な体験を県内外の学校や旅行社へダイレクトメール・電話でPRを行っていきます。	・町内において、現在民泊をしている受入家庭の紹介等をとおして、口コミも利用しながら受入家庭の開拓に取り組んでいきます。 ・体験学習に抵抗がある民家へのサポートとして、受入家庭安全対策研修を実施します。 ・沖縄県内ですでに民泊営業をしている団体との連携により、自主開拓ができるまで修学旅行生を紹介してもらう。 ・南風原町と関係のある他県の学校や旅行社へのパンフレット送付や、地元旅行社との連携等の単独誘致営業を行います。

今後の取り組み方針

・民泊家庭間で食事内容や応対などに差が出ないようにするために、年間を通して講習会等を開き、質の向上と安全性の担保を図ります。
・民泊家庭を組織化して、民泊受入家庭が自主的に料理や体験学習、受け入れ応対など横の連絡を密にし常に情報の交換を行うことで、民泊品質の均一化を図るとともに新規受け入れ家庭のサポートも行い、民泊受け入れに対し理解を深め、民泊家庭の増やしていきます。
・南風原町単独で修学旅行生を民泊受け入れ実施ができるようになるまでの間、民泊を実施している他の団体と連携をすることやその組織より民泊受入システム等の教育を受ける事により、組織としての民泊事業の定着を図ります。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,480	3,480	2,784	696	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑦	南風原地域発信力強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（6）－イ 地域づくりを担う人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	ヘチマ生産日本一を誇る南風原町。本町では、南風原産ヘチマの愛称を「はえばる美瓜（びゅうりー）」と名付け、ブランド化を図っている。そのヘチマを観光物産として元気、若いという良いイメージを付けて魅力を町内外に発信するため、ビュウリーズというダンスユニットを結成し、活動する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,390	3,125	3,158	3,634	4,677
	(b) 予算現額	2,649	2,977	2,680	3,634	4,677
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 741	▲ 148	▲ 478	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	2,649	2,977	2,680	3,634	4,677
	B. 執行済額	2,459	2,883	2,565	3,599	4,510
	うち交付金充当額	1,967	2,306	2,052	2,879	3,608
次年度繰越額		－	－	－	－	-
執行率（%）(B/A)		92.8%	96.8%	95.7%	99.0%	96.4%

予算の状況の説明：
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
・不用額については、計画段階の委託費よりも講師謝金などの実績が下回った事による減となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
町PR活動イベント出演：20回	目　標	（5回）	（5回）	（5回）	（20回）
	実　績	24回	15回	23回	24回
新聞等への活動掲載：3回	目　標	（6回）	（6回）	（5回）	（3回）
	実　績	24回	15回	4回	3回
ラジオへの出演：2回	目　標	（－）	（－）	（5回）	（2回）
	実　績	－	－	1回	2回
認知度調査	目　標	（－）	（－）	（－）	（実施）
	実　績	－	－	－	実施

達成状況説明：
年間32回の練習、24回のイベント出演で、南風原町の『南風原町へちま大使』として特産品のPR等を実施しました。
地元紙へ掲載3回、ラジオ出演2回とPR活動の場を広げています。
ヘチマ大使との事で、イベントなどで質問に答えるためヘチマや町の歴史についての学習会を8回行いました。
ビュウリーズのメンバーは毎年オーディションによる選考を行い、メンバーの質の向上をはかっています。
イベント出演回数が目標回数を上回ったのは、町内外においてビュウリーズの活動が浸透して夏祭りや各団体のイベントへの参加依頼が増えてきたことと、練習による質の向上があったことも一因と考えられます。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
町内外イベントにおいてアンケート調査 町内認知度：70% 町外認知度：40%	目　標	（－）	（町内70% 町外40%）	（　）	（　）	（　）
	実　績	－	町内60% 町外40%			

進捗状況説明：
地域内外のイベントに24回出演し、特産品のPRを行いました。
ビュウリーズイベント出演時に来場者へアンケートを行いました。301名にアンケートを行った結果、町内認知度、目標70%に対し60%、町外認知度は目標の40%となりました。次年度においてはステージ、マスコミの出演回数を増やし認知度アップを目標とします。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ビュウリーズは小学生のため休日などのイベントには父兄の付き添いなどの協力が不可欠です。 メンバーが小学校を卒業すると入れ替えの為のオーディションがあり、メンバーの確保とダンスの質の維持が課題となっています。 美瓜（ビュウリー）のイメージアップを図るためメンバーの舞台での立ち居振る舞いや言葉遣いの学習も必要です。	ビュウリーズの活動の中で、父母会によるサポート体制の充実を図ります。 現在開催しているキッズダンススクールの充実により補充要員の確保とダンスの質向上に努めます。 オーディションは現在のメンバーも受けることにより、緊張感をもたし質の向上を図ります。 ダンスの講習以外に、マナー講座、舞台での立ち居振る舞いや態度、方言講座、ヘチマの勉強会などの学習会も開催しイベント、メディアに積極的に出演することにより美瓜（ビュウリー）のイメージアップを図ります。

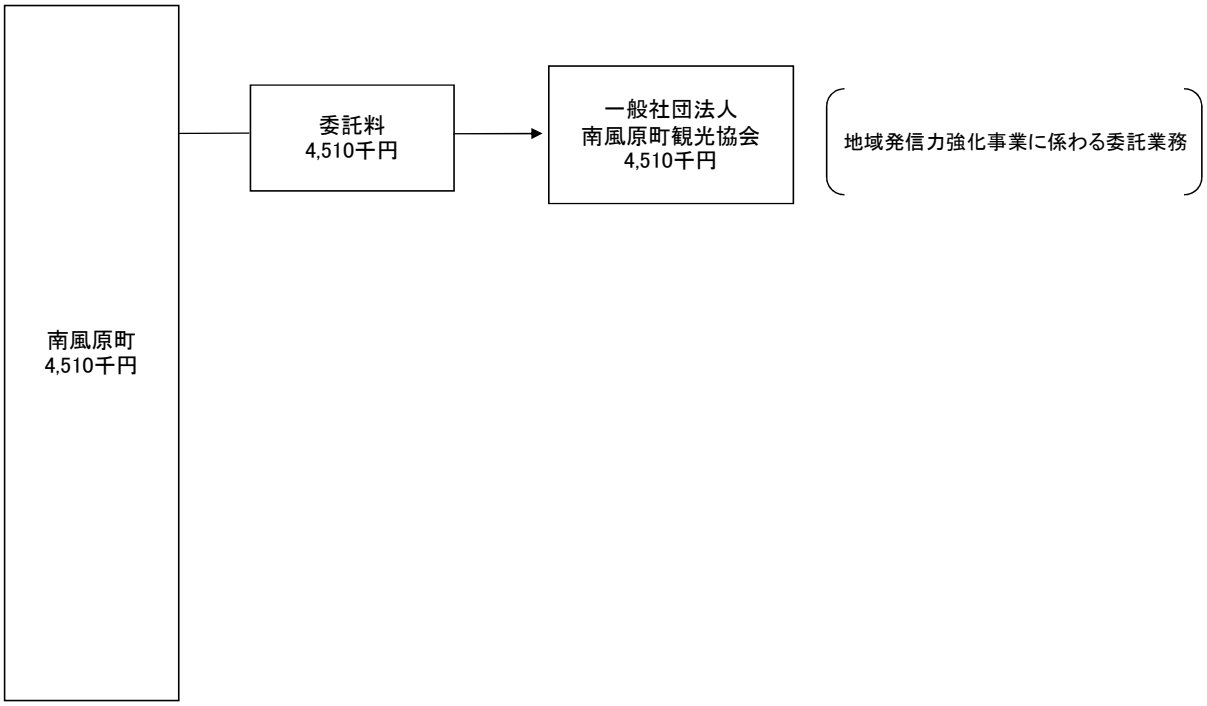
今後の取り組み方針

・はえばる美瓜のPR活動をしていくために勉強会を行ったり、イベント・メディアの出演も広げていき、南風原町のPRをする活動を推し進めていきます。
・キッズダンススクールでレッスンをしている子ども達の積極性を引き出し、次世代のビュウリーズを育て、地域の子ども達を育てていきます。
・町内のさまざまな分野のイベントと連携し南風原町の活性化に繋げるためPR活動を行い、練習を重ねていきます。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,510	4,510	3,608	902	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑧	ヒーローのまちづくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

本町の観光振興、地域活性化のため、全国的なヒーローや、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信を行うためイベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,568	7,583	7,961	7,999	
	(b) 予算現額	3,456	7,583	7,961	7,998	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,112	0	0	▲ 1	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	3,456	7,583	7,961	7,998	
B. 執行済額		3,389	7,484	6,523	7,232	
うち交付金充当額		2,711	5,987	5,218	5,786	
次年度繰越額		－	－	－	－	
執行率（%）（B/A）		98.1%	98.7%	81.9%	90.4%	

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
不用額については、計画段階の会議費、印刷費などの実績が下回った事による減となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イベント、フォーラムの開催：1回	目　標	（2回）	（1回）	（1回）	（1回）
	実　績	5回	5回	2回	3回
脚本賞実施：1回	目　標	（－）	（1回）	（1回）	（1回）
	実　績	－	1回	1回	1回

達成状況説明

「金城哲夫のふるさと沖縄・南風原町脚本賞」を円谷プロダクションの「金城哲夫賞」と同時開催、連携し行いました。
金城哲夫生誕地事業として、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげ各種イベントを開催しました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
イベント・フォーラム来客者数：1，000人	目　標	（　）	（1,000人）	（1,000人）	（1,000人）	（　）
	実　績		2,950人	3,236人	2,890人	
脚本賞応募20件	目　標	（　）	（－）	（－）	（20件）	（　）
	実　績		－	－	36件	

進捗状況説明

金城哲夫のふるさと沖縄・南風原町脚本賞の運営委員会を立ち上げ、企画部会4回、広報部会2回、総務部会2回、部会長会議1回、運営委員会3回開催、また3回の審査会を行い36点の応募作品の中から大賞1作品、佳作2作品を決定しました。今回の脚本賞は円谷プロダクションとの連携をとり行い東京と沖縄で各自が訪問して打合せを行いました。
金城哲夫生誕地事業として、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげウルトラマンライブと金城哲夫展を同時開催しました。
キッズパークでのウルトラマン上映会に318人、金城哲夫生誕地事業に2,222人、飛び安里凧上げ大会に350人の来場がありました。

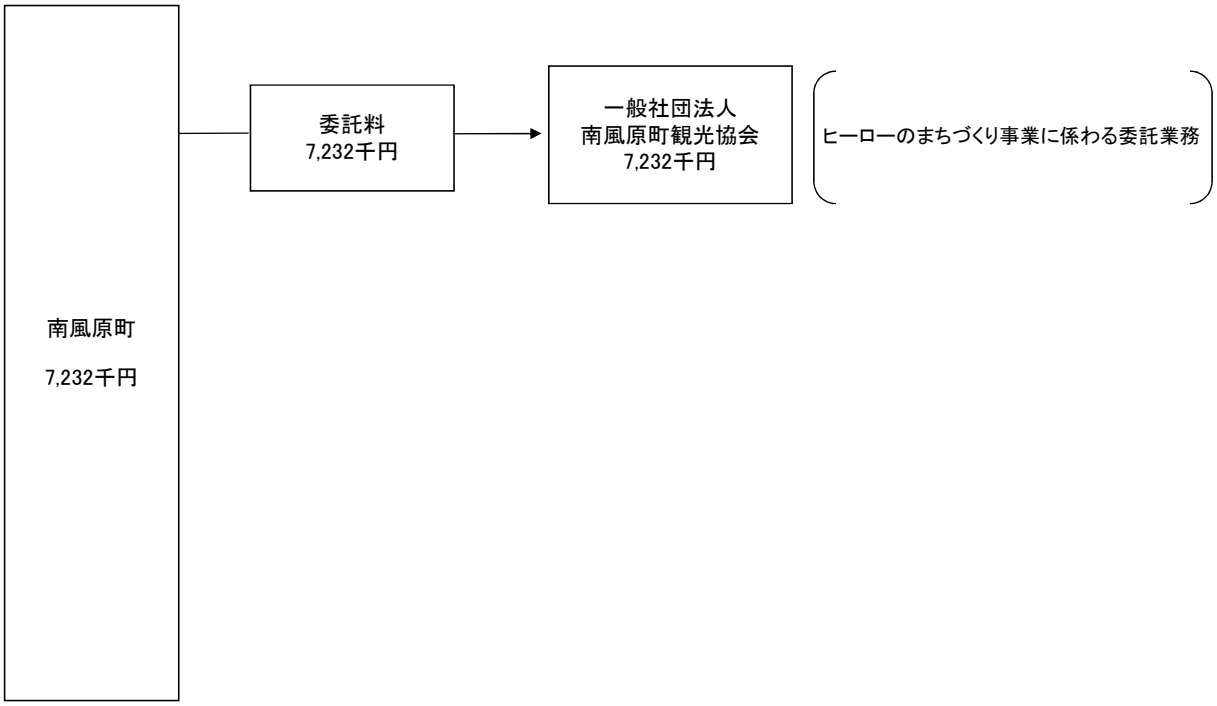
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	「金城哲夫のふるさと沖縄・南風原町脚本賞」は円谷プロダクションの脚本「金城哲夫賞」と同時開催することにより、県外からも多数の応募があり、本町のヒーローのまちづくりを多くの人に知ってもらうことができました。 金城哲夫生誕地事業として、ウルトラマンライブの開催に合わせ、同時開催した「金城哲夫展」にも大勢の人に集まってもらい、円谷プロダクションとの連携により進める事ができました。 上映会も従来通り1日3回上映し、多くの子どもたちが金城哲夫とウルトラマンの関係を知る機会となりました。	『金城哲夫事業運営委員会』が、ヒーローのまちづくり事業における町民のサポート団体として事業の下支えをしてくれるようになりましたが、事業実施について時間配分に工夫をする必要がある。 上映会も、金城哲夫とウルトラマンの関係をより周知できるよう工夫する。 ウルトラマンステージはこれまでに3度開催され、南風原町において定着し始めたので、ステージと同時に行う金城哲夫展もより効果的な開催方法を検討します。 これまで実施してきた脚本賞の受賞作品を活かす方法として舞台化に向けた取り組みが必要です。

今後の取り組み方針

イベント（上映会）やフォーラムを定期的に行う。
金城哲夫事業運営委員会は、円谷プロダクションと連携した事業展開を行うことで、南風原町が金城哲夫の育ったまちとしての認知度を高め、金城哲夫を中心としたまちづくりを目指します。
脚本賞の受賞作を舞台化するにあたり、町民主体の劇団創設に向けて取り組みます。
金城哲夫が沖縄に帰ってからの業績の検証を行い、記録として後世に残し伝えていくように取り組みます。
南風原町で金城哲夫に関するウルトラマン等のモニュメントや資料などが見れる環境を構築することで、将来、観光客の通過する町からとどまる町への転換ができるように取り組みを強化します。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,232	7,232	5,786	1,446	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑨	シマじまガイド事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

訪問客に地元の魅力をあますところなく伝え、南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマじまガイド」（名所案内巡り）を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステム構築をし、観光振興を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,132	4,240	5,308	6,874	9,071
	(b) 予算現額	1,132	4,240	5,308	6,874	9,071
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	1,132	4,240	5,308	6,874	9,071
	B. 執行済額	1,132	4,172	4,933	6,124	7,347
	うち交付金充当額	905	3,337	3,946	4,899	5,878
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.4%	92.9%	89.1%	81.0%

予算の状況の説明

・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
・事業途中に事業運営職員が退職し、後任を採用するまでに期間を要したことで不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
ガイド養成：新規2名	目　標	（　10名　）	（　10名　）	（　2名　）	（　　）
	実　績	11名	7名	13名	
シマじまガイド開催：12回	目　標	（　－　）	（　12回　）	（　12回　）	（　　）
	実　績	－	12回	12回	

達成状況説明

・ガイド育成講座、研修を開催、20名が受講しました。新規受講者は13名。
・地域コーディネータガイド養成講座を全6回、地域ガイド研修を全3回開催。
・シマじまガイド事業を12回開催。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
シマじまガイド事業利用者数：1,460人	目　標	（　　）	（　1,250人　）	（　1,450人　）	1,460人	（　　）
	実　績		321人	753人	508人	
ガイド回数：1回／人	目　標	（　　）	（　－　）	（　1回／人　）	（　1回／人　）	（　　）
	実　績		－	3回／人	2回／人	

進捗状況説明

・町内を各字の地域ガイドとコーディネータガイドが一緒にガイドを行う流で12回のツアーを行う事ができました。延べ216人が参加。
・南風原町は平和学習の中心地であり、多くの修学旅行生が訪れる。その中で平和講座の要望があり語り部の派遣をしています、今年は4回の派遣要請があり、292名の生徒及び団体見学者に平和講話を行いました。
・外部への告知PRが弱かったため、シマじまガイド事業利用者数の目標を達成することができなかった。

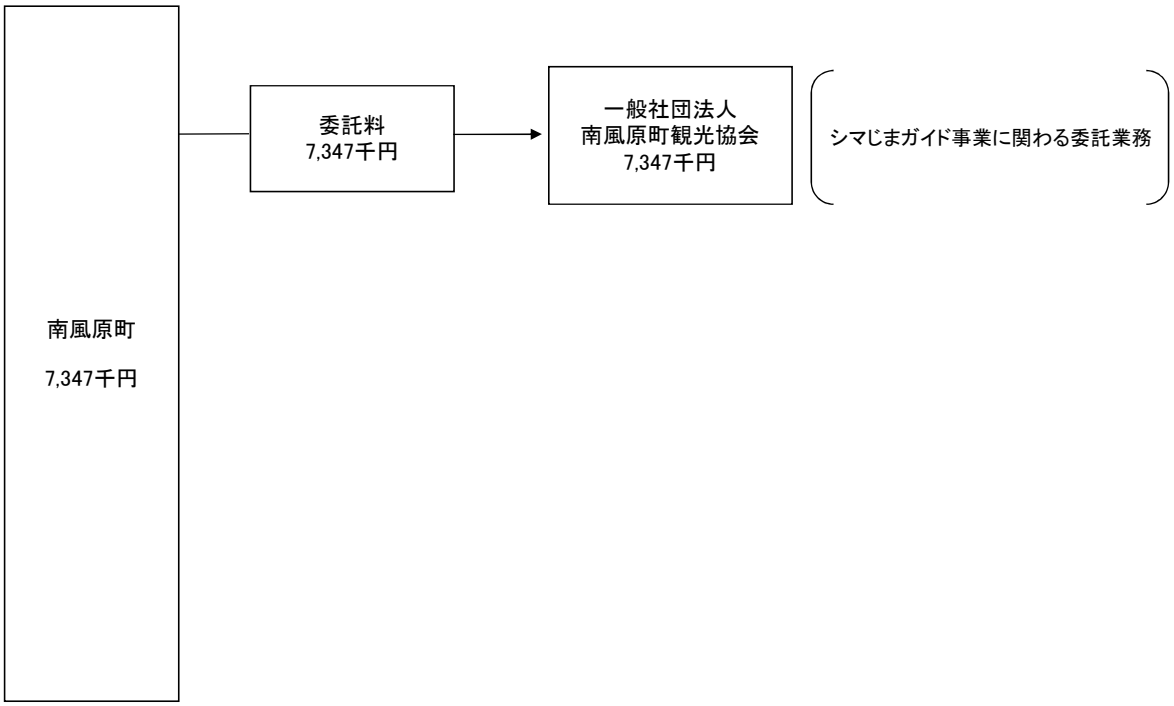
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・集客を伸ばすために、PRや告知を改善し、認知度向上が必要である。 ・ガイドの中には案内人として未熟な方もいるため、スキルアップや観光客の満足度を高める取り組みが必要である。 ・平和講座の語り部の減少による語り部不足が生じている現在、昨年発掘した語り部も年齢的に高齢のため、遠くに派遣は出来ない。	・以前から行われている町の伝統行事など、事前に分かっている行事はホームページや新聞などで、早期に企画、告知をすることで他地域からの集客につなげるように取り組みを強化します。 ・開催告知の方法を旅行業者への売り込みも視野に入れ、ブラッシュアップが必要となってきます。 ・既存ガイド及び事業運営職員のスキルアップ研修を行います。 ・観光案内所を拠点に観光をするので、シマじまガイドの担当職員もガイドが行えるようにします。 ・平和講演も沖縄戦だけではなく、戦後もいれた現在語り部が必要で、比較的若い年代の語り部を養成する必要があります。 ・他事業とも連携し、旅行社をはじめ団体などへの告知活動に力をいれます。

今後の取り組み方針

・イベント事項は、早期に企画をして、旅行社などに告知をして集客依頼をします。
・地域ガイドを中心に、町内のガイドを行う取り組みも検討します。
・案内シナリオの追加作成を進めます。
・他地域と違った沖縄の文化、習慣などを案内ができるパンフレット等を製作します。
・旅行者や各種団体へのPR活動に力を入れ、また、民泊事業との連携をとった告知も行っていきます。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,347	7,347	5,878	1,469	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑩	黄金森公園スポーツ施設活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（1）－イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	教育委員会　教育総務課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

良好なスポーツ・トレーニング環境の提供により観光と結びつけたスポーツコンベンションの誘致、開催を図るため、黄金森公園スポーツ施設の機能強化と受入体制等の整備を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	18,580	22,669	18,480	41,306	
	(b) 予算現額	18,580	47,549	53,192	48,392	
	(c) 増減額 (b-a)	0	24,880	34,712	7,086	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	18,580	47,549	53,192	48,392	
B. 執行済額		18,238	44,740	51,967	44,823	
うち交付金充当額		14,590	35,792	41,573	35,858	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率 （%） (B/A)		98.2%	94.1%	97.7%	92.6%	

予算の状況の説明

予算の増額については、「黄金森公園芝生管理委託料」に、「ドリルエアレーション作業」を追加したことと、「トレーナー配置委託料」を追加したことによるものである。
不用額が生じているが入札執行残等であり、事業計画通り執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
芝生作業嘱託員（1名）	目　標	（1名）	（1名）	（　）	（　）
	実　績	1名	1名		
Jﾘｰｸﾞｷｬﾝﾌﾟ等支援委託(町内青年会ｴｲｻｰ派遣、町PRﾊﾟﾝﾌ･ｸﾞｯｽﾞ作成、名古屋ｸﾞﾗﾝﾊﾟｽ春季ｷｬﾝﾌﾟ受入に係る警備、会場設営、送迎ﾊﾞｽ運行等一式)	目　標	（実施）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	実施	実施		
黄金森公園（陸上競技場、野球場）芝生管理委託	目　標	（実施）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	実施	実施		
トレーニング機器メンテナンス	目　標	（－）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	－	実施		
トレーニング室への空調設備設置工事	目　標	（－）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	－	実施		
トレーニング室利用者への専門的なサポート	目　標	（－）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	－	実施		

達成状況説明

黄金森公園陸上競技場及び野球場の芝生整備、キャンプ受入体制整備、トレーニング室へのトレーナー配置、トレーニング室への空調設置、トレーニング機器の保守点検及びスポーツキャンプの備品整備を実施し、施設環境を整備・強化することで、サッカーのJチーム春季キャンプ及び県外大学等の陸上競技合宿を誘致した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
陸上、サッカー合宿等利用者数：700人	目　標	（　）	（450人）	（550人）	（700人）	（　）
	実　績		1,123人	1,207人	1,583人	
Jリーグキャンプ見学者数：10,000人	目　標	（　）	（－）	（10,000人）	（10,000人）	（　）
	実　績		－	約8,000人	約7,500人	

進捗状況説明

黄金森公園陸上競技場及び野球場の芝生整備、キャンプ受入体制整備、トレーニング室へのトレーナー配置、トレーニング室への空調設置、トレーニング機器の保守点検及びスポーツキャンプの備品整備を実施し、施設環境を整備・強化することで、サッカーのJチーム春季キャンプ53人、県外大学等の陸上競技合宿で1,530人が利用した。またキャンプ見学者数については約7,500人となっているが、今回のキャンプ日数が2日間減少していることが影響したと考えている。今後も受入体制を整備・強化し継続的なサッカーJチームの誘致及び新たな合宿団体受入に取り組みたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光資源が少ないため、現在の施設を活用し、県外観光客を呼び込む事業として、芝生整備やサッカーキャンプ関連備品整備、キャンプ受入体制の整備強化を実施した。 ・近隣の施設においても同様の取組がなされており、今後も施設や受入体制の整備強化、特色ある事業を展開し、継続的なサッカーJチームキャンプ誘致及び新規の合宿誘致を行う。	・合宿利用者、キャンプ見学者のニーズを把握するとともに、他の観光客へのイベント案内などによる効果的な取組を強化する。 ・継続的なサッカーJチームの誘致に関しては、3年連続で同チームを誘致していることから、これまでの信頼関係を軸に誘致を行う。また新規の合宿誘致は、サッカー、陸上だけでなく、空調が整備され最新のトレーニング機器とトレーナーが配置されているトレーニング室をメインに、県内で合宿を行っている様々な競技を誘致する。

今後の取り組み方針

黄金森公園陸上競技場、野球場の芝生の育成・整備をメインとした施設整備を進めるとともに、町観光協会・商工会等町内各種団体と連携し、観光と結びつけた新たなスポーツコンベンションの誘致に向け取組を強化したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
44,823	44,823	35,858	8,965	0

- 南風原町 44,823千円
  - 報酬 2,160千円
    - 芝管理嘱託員報酬 2,160千円 ― 芝生整備嘱託員
  - 旅費 437千円
    - (有)ガリバー旅行企画 114千円 ― 名古屋グランパスへのキャンプ誘致活動及び沖縄南風原デーの事前調整
    - (有)ガリバー旅行企画 323千円 ― 沖縄南風原デー及び南風原町PR
  - 委託料 39,090千円
    - (株)近代美術 23,677千円 ― Jリーグキャンプ等支援委託業務
    - 東洋グリーン(株)沖縄営業所 10,964千円 ― 黄金森公園芝生管理委託業務
    - (有)オリンピア運動具店 65千円 ― 黄金森公園陸上競技場トレーニング機器保守点検委託業務
    - NPO法人沖縄健康づくり協会ダブルピース 4,384千円 ― 黄金森公園トレーナー配置事業委託業務
  - 工事請負費 3,078千円
    - (有)新屋電気工事 3,078千円 ― 黄金森公園トレーニングルーム空調設置工事
  - 備品購入費 58千円
    - 南風原スポーツ店 58千円 ― ボールカゴ購入事業

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及び随意契約により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑪	南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（9）－ア ものづくり産業の戦略的展開
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

南風原町の特産品を通した地域振興を図るため、町特産の農産品や琉球絣等を活用し、異業種間の連携を促進しつつ、本町特産品の良さを引き出すための調査・研究及び、本町特産品のブランド化を図るための組織づくりを行い、ブランド認証スキームを確立するとともに、南風原ブランドの新商品の開発、販路開拓を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,477	8,322	7,718	19,793	21,953
	(b) 予算現額	5,477	7,411	7,718	15,119	21,617
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 911	0	▲ 4,674	▲ 336
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	5,477	7,411	7,718	15,119	21,617
B. 執行済額		3,971	7,158	7,718	15,112	21,617
うち交付金充当額		3,176	5,726	6,174	12,089	17,293
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		72.5%	96.6%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：・当初の予定通り事業の執行を行うことができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
調査研究の実施	目　標	（　2回　）	（　10回　）	（　　）	（　　）
	実　績	3回	14回		
地域ブランド認証審査会開催（2回）	目　標	（　2回　）	（　2回　）	（　　）	（　　）
	実　績	3回	5回		
認証商品の効果測定	目　標	（　－　）	（　1回　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	1回		
既存商品のブラッシュアップ	目　標	（　－　）	（　2品　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	3品		
販路開拓、拡大、テスト販売（3回）	目　標	（　3回　）	（　3回　）	（　　）	（　　）
	実　績	4回	5回		
非食品分野の試作品製作	目　標	（　－　）	（　1品　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	1品		

達成状況説明

・食品分野のワークショップを全5回開催し、特産品開発に関しての知識習得や商品のブラッシュアップのための調査研究を行った。非食品分野では9回の会議を開催し、商品の魅力を伝えるためのコンセプトづくりや情報発信の手法等について協議を行った。
・地域ブランド構築委員会を4回開催し、有識者と協議を行いブランド認証制度のブラッシュアップを図った。またブランド商品選定委員会を1回開催し、食品分野3品、非食品分野1品の計4品を「はえばる良品」として認定した。
・認証商品の効果測定として、食品分野の3品について専門家、一般消費者におけるモニター調査を実施。調査結果を踏まえて各商品のブラッシュアップを図り、「はえばる良品」として認定された。
・食品分野の3品についてブラッシュアップを図った。
・県外1回、県内4回（町内3回、町外1回）のイベント出展を行い、特産品のPRを行った。
・非食品分野で琉球絣と照間ビーグを活用したランチョンマットを制作し、県外イベントにてテストマーケティングを行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（29年度）
南風原町ブランド認証（2件）	目　標	（　　）	（　－　）	（　－　）	（　2件　）	（　－　）
	実　績		－	－	4件	
非食品分野の試作品（1品）	目　標	（　　）	（　－　）	（　－　）	（　1品　）	（　－　）
	実　績		－	－	1品	
既存商品のブラッシュアップ（2品）	目　標	（　　）	（　－　）	（　－　）	（　2品　）	（　－　）
	実　績		－	－	3品	
※H26年度までに開発した商品の販売目標 マドレーヌ：180個×10ヶ月（4月～1月）＝1,800個	目　標	（　　）	（　1,000個　）	（　1,700個　）	（　1,800個　）	（　6,000個　）
	実　績		1,641個	5,100個	5,680個	
※H26年度までに開発した商品の販売目標 美瓜カレー：40食×5ヶ月（8月～12月）＝200個	目　標	（　　）	（　100食　）	（　350食　）	（　200食　）	（　600食　）
	実　績		180食	521食	549食	

進捗状況説明

・今年度は食品分野3品、非食品分野1品の計4品を「はえばる良品」として認定した。
・非食品分野の試作品として琉球絣と照間ビーグを活用したランチョンマットを制作し、県外イベントにてテストマーケティングを行った。
・食品分野の3品について専門家、一般消費者におけるモニター調査を実施。調査結果を踏まえて各商品のブラッシュアップを図り、「はえばる良品」として認定された。
・ゆめかなえぼしマドレーヌは、商品開発後もブラッシュアップを図ってきたことで、味がまろやかになっており、また特に地元での認知度が上がってきていることが、売り上げの向上につながっていると考えられる。
・美瓜カレーについては、美瓜の入荷ができず、6月頃まで販売ができなかったが、美瓜の供給が安定してきた後は売り上げも好調で、当初目標を大きく上回る売り上げを達成することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・特産品開発のワークショップに新規で参加した事業者とどのような信頼関係を築き、各事業者の魅力を活かした商品を南風原町に結びつけ、PRする事ができるかが課題になる。 ・今後はブラッシュアップした商品の販路拡大及び販売実績の増加をどのようにサポートできるかが課題となる。 ・今後は、町民への南風原ブランドの浸透及び町内手土産としての需要の拡大などをどのように図っていくかが課題となる。 ・非食品分野の特産品開発に参画している事業者が製造する商品をどのように販売して成果をあげるかが課題となる。 ・ブランド認証制度によって認定された「はえばる良品」を町内外に積極的にPRし、各事業者の販売促進につなげると同時に、認定されることのメリットを事業者に示すことが必要となる。	・今後も継続してワークショップに参加してもらえるよう、事業者の商品開発に役立つ情報や知識が習得できる講座作りに努め、魅力ある商品作りが行える環境整備を図っていく。 ・ブラッシュアップした商品を魅力ある形でPRする方法を模索し、販路先の新規開拓、販売数の増加に向けたサポートを行う。 ・認定された「はえばる良品」をPRし、南風原ブランドを広く周知させるとともに、手土産としての価値を高めるため、商品自体の味やパッケージ等のブラッシュアップ図るための研究を行っていく。 ・非食品分野の商品については、SNSやHPを中心に情報を発信し、ECサイトでも販売ができるよう販路先の開拓を進めていく。 ・認定された「はえばる良品」については、町広報誌や商工会会報誌等に掲載し紹介を行うことで積極的にPRを図るとともに、認定されることによるメリットを事業者に向けてPRを行う。

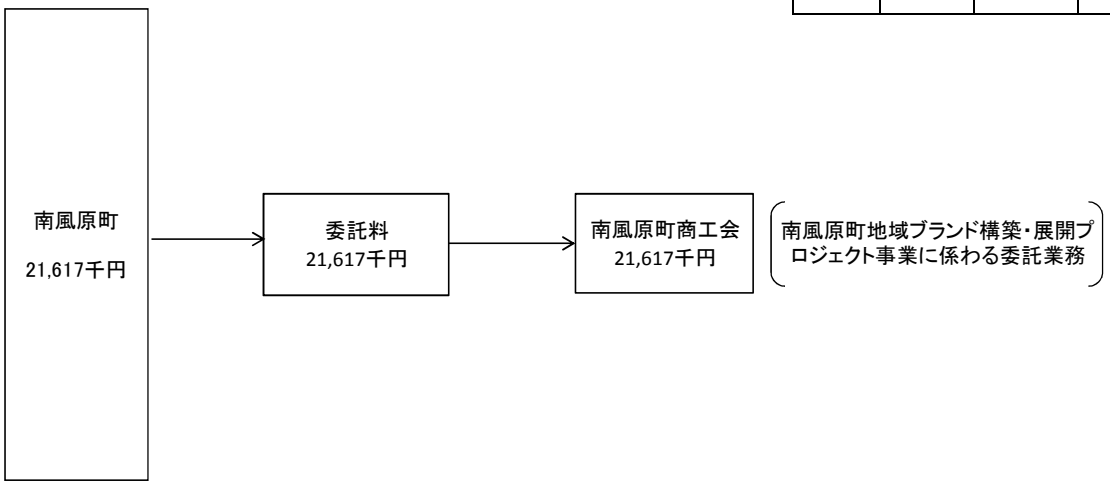
今後の取り組み方針

・次年度も町内事業者向けのワークショップを開催し、商品開発に関する相談、自社製品のPR方法など、事業者がよりよい商品開発や情報発信を行える環境を構築し、サポートができる体制を作っていく。
・次年度が本事業の最終年度となるため、ブランド認証制度の課題等を抽出しながら運営体制を固め、よりよい制度に向けてブラッシュアップを図りながら、今後も継続して優れた特産品の認証を毎年行っていく。
・「はえばる良品」として認定された商品は、町広報誌、商工会会報誌、新聞等で町内外に向けて広くPRを図り、新たな顧客の獲得や販路先の開拓を行うとともに、南風原ブランドの認知度向上を推進していく。
・これまでに開発した商品やはえばる良品認定商品については、県内外の物産展や産業まつり等に積極的に出展し、商品のPRを図るとともに、顧客の反応を見ながら商品のブラッシュアップに活かしていく。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,617	21,617	17,293	4,324	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考える。 ○当初の予定どおり事業を執行することができた。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑫	南風原町観光PR促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	本町の観光、文化、特産品を紹介する観光物産展を開催する。特産品の販売等を行い、特産品の販路拡大、観光PRを実施する。 さらに、本町の認知度向上と地域資源の情報発信・観光客誘客強化を図るため、イメージキャラクターを本町のPRツールとして活用する。				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	59,688	－	7,091	9,300	9,860
	(b) 予算現額	52,597	－	18,366	9,300	9,860
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 7,091	－	11,275	0	0
	(d) 前年度繰越額	－	10,674	－	－	－
	A.　計 (b+d)	52,597	10,674	18,366	9,300	9,860
B.　執行済額		41,032	10,350	17,495	9,287	9,669
うち交付金充当額		32,825	8,280	13,996	7,429	7,735
次年度繰越額		10,674	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		78.0%	97.0%	95.3%	99.9%	98.1%
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イメージキャラクターによる観光PR活動（1年間で100回）	目　標	（　活動　）	（　活動　）	（　100回　）	（　100回　）
	実　績	活動	活動	124回	91回
物産展の開催	目　標	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）
	実　績	開催	開催	開催	開催

達成状況説明

・イメージキャラクターはえるんを活用し、町内外の各種イベントに参加して、南風原町のPRをおこなった。目標回数が未達成の理由として、今年度はより効果の高い観光PRがおこなえるイベントへの出演を優先し、そのイベントで効果的なPRができるよう注力したことで、出演回数が少なくなったことが要因としてあげられる。
・南風原物産展を開催して町内事業所と商工会で連携をおこなうことで、南風原町の物産を町内外の方に広くPRし、町への誘客を図ることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
物産展来場者：13，000人	目　標	（　）	（　12,000人　）	（　12,000人　）	（　13,000人　）	（　）
	実　績		12,000人	14,700人	23,000人	
観光案内所の利用者数：10，000人	目　標	（　）	（　5,000人　）	（　10,000人　）	（　10,000人　）	（　）
	実　績		5,557人	6,827人	4,621人	
はえるん等利用申請数：70件	目　標	（　）	（　－　）	（　60件　）	（　70件　）	（　）
	実　績		－	37件	49件	
はえるんファンクラブ加入（延べ数）：1,100人	目　標	（　）	（　－　）	（　900人　）	（　1,100人　）	（　）
	実　績		－	281人	1,233人	

進捗状況説明

・物産展来場者の数は前年を大きく上回る結果となり、南風原の物産を通して町内外の方に南風原の魅力をPRできた。
・案内所の利用者数の目標を達成できなかった理由として、イベント開催のPR不足が考えられる。今後は利用者数を増やしていくために情報発信を強化していく必要がある。
・はえるん等利用申請件数は目標を下回ってはいるが、前年度実績から伸びてきており、徐々にはえるんの認知度が高まってきているので、今後も多くの方にはえるんのイラストやロゴを使用してもらい、南風原町の認知度向上や、PRを図っていく。
・ファンクラブの会員数は順調に伸びてきており、目標としていた延べ人数1,100人を達成することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・はえるんの出演依頼が増加しており、イベントが重なると人員が不足して出演ができないことがある。 ・観光案内所の利用者数が伸びていないので、利用者が集まりやすい場所になるよう工夫を凝らす必要がある。 ・南風原物産展は南風原町の魅力ある特産品の発掘や、町特産品のPRを図る場とし、町内外に向けて発信するイベントとしていく必要がある。	・イベントが重なった場合でも、事前のスケジュールの調整をうまく行って出演をすると共に、限られた人員で効果的な観光PRがおこなえるよう、出演するイベントの精査を図っていく。 ・観光案内所の利用者を増やすために、様々なイベントを開催したり、観光に関連する情報発信を積極的におこなっていく。 ・今後も継続して物産展を開催し、事業者が新たに開発した特産品の発表をおこない、商品PRができるイベントとなるよう事業者や商工会、行政が互いの連携を密にして取り組んでいく必要がある。

今後の取り組み方針

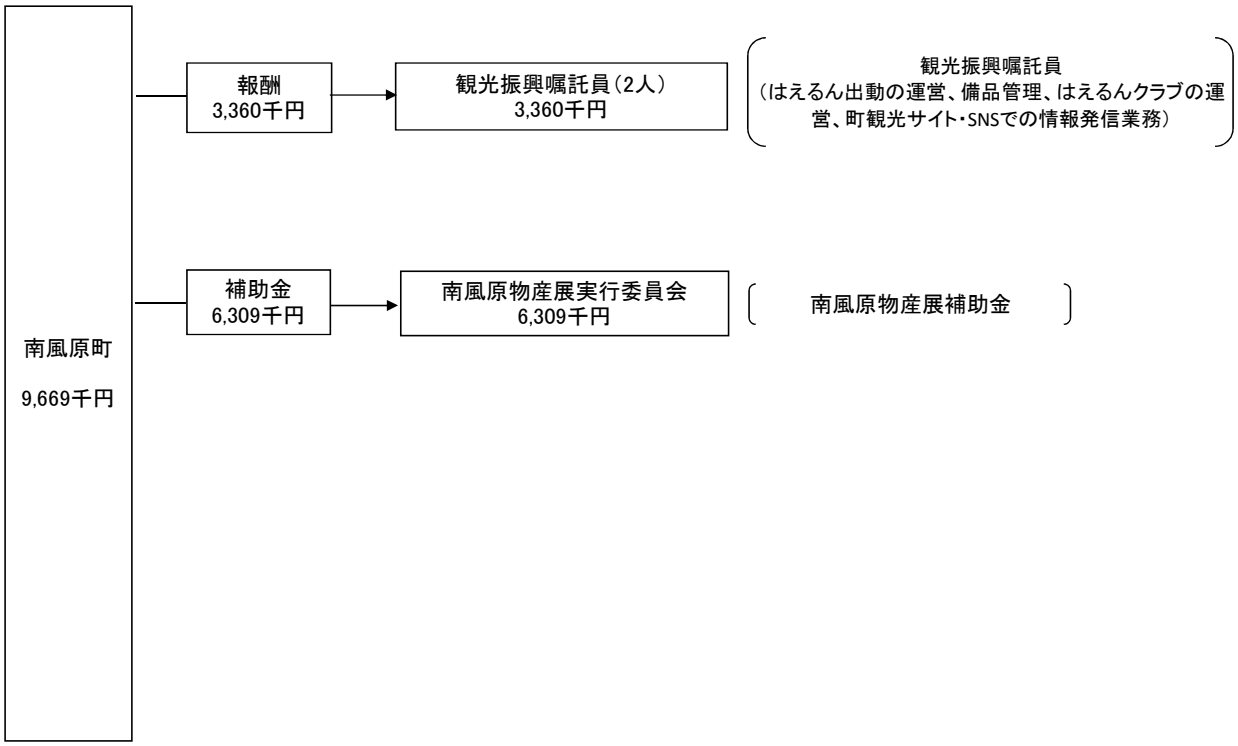
・はえるんや野菜のお友達を活用し、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを今後も継続していく。

・観光案内所を南風原町の更なる観光PRの拠点とするために、イベントの開催やSNS等での情報発信をおこなって利用者への認知度向上を図り、町内外の方により多く利用してもらえるよう取り組んでいく。

・今年度の南風原物産展では、前年度に引き続き、事業者が自社商品のPRができる仕組みや、物産展終了後に出展事業所へ足を運んでもらえるようクーポン付の地図を配布するなどの取り組みをおこなった。また新たな取り組みとして町内サービス事業者がPRできる出展ブースを増やすこともおこなった。次年度以降も様々な仕組みを検討し、開催していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,669	9,669	7,735	1,934	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町で生産・二次加工される産物や町内産業の商品等を販売し、PRを図るイベントであり、商工会や観光協会等で組織した実行委員会を補助事業者とすることは妥当と考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者負担については、商工会からも一部負担金を支出しており、また南風原町振興特別推進事業交付金交付要綱に基づき整理しており妥当である。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑬	南風原町和牛改良支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－（ア） おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	農家の経営安定化に向け、仔牛の品質の向上により高値での出荷が行えるよう、系統の良い優良母牛導入経費への一部を支援する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	3,000			
	(b) 予算現額	3,000	3,000			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－	0			
	A. 計 (b+d)	3,000	3,000			
B. 執行済額		2,444	2,396			
うち交付金充当額		1,954	1,916			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		81.5%	79.9%			
予算の状況の説明		セリの落札価格が当初計画より安価で購入出来たために執行額が減となっている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
優良母牛の導入支援	目　標	（　6頭導入　）	（　6頭導入　）	（　　）	（　　）
	実　績	6頭導入	6頭導入		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：計画どおり6頭の優良繁殖雌牛を導入することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
今年度導入率：14.2%（平成28年度：6頭導入予定）	目　標	（　　）	（　14.20%　）	（　14.20%　）	（　　）	（　　）
	実　績		14.20%	14.20%		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：計画通り6頭を導入できた事により、優良繁殖雌牛の増加に繋がった。
優良繁殖雌牛から生産される仔牛を保留する事により家畜の改良と生産基盤の強化に繋がると考える。

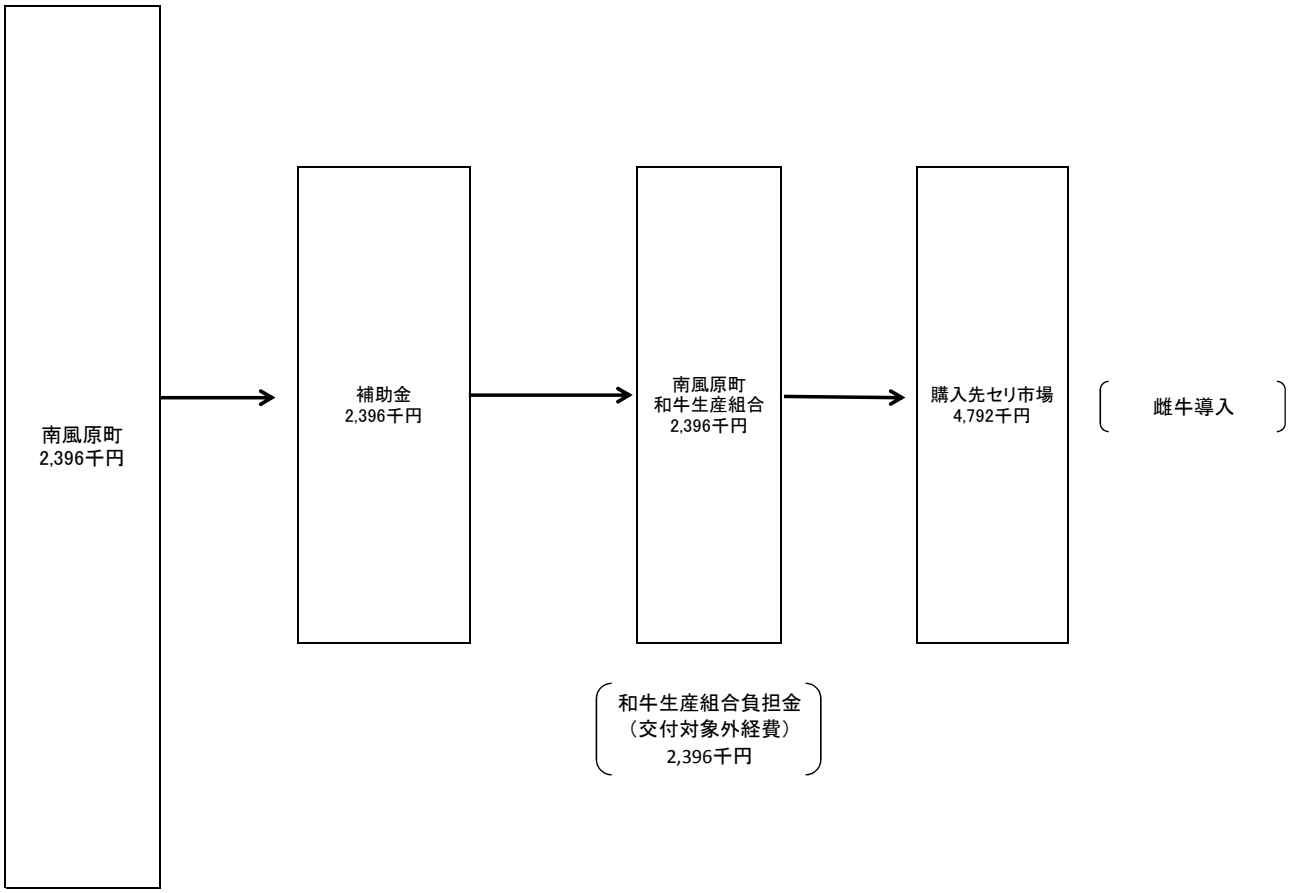
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	仔牛の品質の向上により高値での出荷が行えるよう、系統の良い優良母牛を導入し、母牛の更新を行うよう推進しているが、近年は仔牛の価格が高騰しており、農家負担額も上昇すると予想される。そのため、経営安定の障害とならないか不安な要素がある。	優良繁殖雌牛を導入し、高齢牛や分娩間隔の長い牛との更新を計画的に行い、よりよい子牛の生産を行う生産基盤強化を図る。 組合農家やJAなどの関係機関と連携をとり、成果検証を行えるデータの収集と蓄積に努めていく必要がある。

今後の取り組み方針

引き続き生産基盤の強化のため、優良繁殖雌牛の導入を行いつつ、飼養管理や繁殖指導等をしながら導入牛から生産された子牛の状況報告を指導する。また、先進地視察や各組合農家の牛舎視察等を行い、経営安定のための視察研修を行うようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,792	2,396	1,916	480	2,396



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は町内農家で組織している組織であり、妥当だったと考えている ○不要額はあったものの、セリによる落札であったため適正な規模であった。 ○受益者である農家は、総事業費の5割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑭	南風原町農産物販売促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－（イ） 流通・販売・加工対策の強化
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

生産量県内一位を誇る南風原産ヘチマと拠点産地認定を受けたスターフルーツを南風原町の特産品と位置づけ、広く県内外へPRを図り消費拡大を推進するため販売促進を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,233	9,857			
	(b) 予算現額	5,786	8,915			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,447	▲ 942			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	5,786	8,915			
B. 執行済額		5,564	8,907			
うち交付金充当額		4,451	7,125			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		96.2%	99.9%			

予算の状況の説明

県内販売促進にて予定していた報償費や県外販売促進にて予定していた需用費、役務費、使用料等が不要となった事旅費に関して、業務内容を精査し、人員および宿泊日数の削減を行った事、また、2月に県内販売促進事業として予定していたイベントの申し込みが間に合わず、出展ができなくなった事から、不要額として予算額減を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
ヘチマ販促（県外2回・県内4回）	目　標	（県外2回・県内4回）	（県外2回・県内4回）	（　）	（　）
	実　績	県外1回・県内4回	県外2回・県内5回		
スターフルーツ販促（県外1回・県内3回）	目　標	（県外1回・県内3回）	（県外1回・県内3回）	（　）	（　）
	実　績	県外1回・県内1回	県外2回・県内2回		
県外物産イベント・県外量販店にて、ヘチマ料理講習会	目　標	（1回）	（1回）	（　）	（　）
	実　績	1回	0回		
ヘチマレシピコンテスト開催	目　標	（1回）	（1回）	（　）	（　）
	実　績	1回	1回		

達成状況説明

ヘチマ及びスターフルーツの県外での販売促進は予定通り達成出来た。県内に関しても委託にて各品目2回、直接実施にて2回開催したことで達成している。
ヘチマ料理講習会に関しては県外よりも県内の若い世代をターゲットに絞って実施する事で訴求力があると判断し、県内イベントにて開催すると決定した。県内の若い世代をターゲットにして、収穫体験も同時開催することでPR力が高まった。
レシピコンテストについては夏場開催することで後半のレシピ提案へ連携出来、後半時期の県外でのヘチマ販売PRに活用することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
ヘチマ販促イベント販売（累計500kg）	目　標	（　）	（32万円）	（500kg）	（　）	（　）
	実　績		32万円	580kg		
スターフルーツ販促イベント販売（累計300kg）	目　標	（　）	（72万円）	（300kg）	（　）	（　）
	実　績		13万円	180kg		
県外イベント講習会開催によるヘチマ販売（30kg）	目　標	（　）	（22万円）	（30kg）	（　）	（　）
	実　績		3千円	0kg		
ヘチマレシピコンテスト応募総数（100件）	目　標	（　）	（100件）	（100件）	（　）	（　）
	実　績		103件	39件		

進捗状況説明

ヘチマ販売に関しては委託業務にし、販売実績を達成出来た。スターフルーツに関しては販売量の達成が出来なかった。この点の目標が過大だったかどうかの検討も今後必要となる。
県外イベント講習会を変更して県内講習会にし、収穫体験も併せて実施したため販売は無しとなりました。
へちまレシピコンテスト応募総数は、県外販売時にも応募案内をしたこと、SNSを大いに活用したが、昨年ほどのレシピ数はあがらなかった。県外からの応募も数件あったことからPRできたと感じる。応募数は少なかったが、受賞レシピの活用でおおいにPR出来たと感じる。

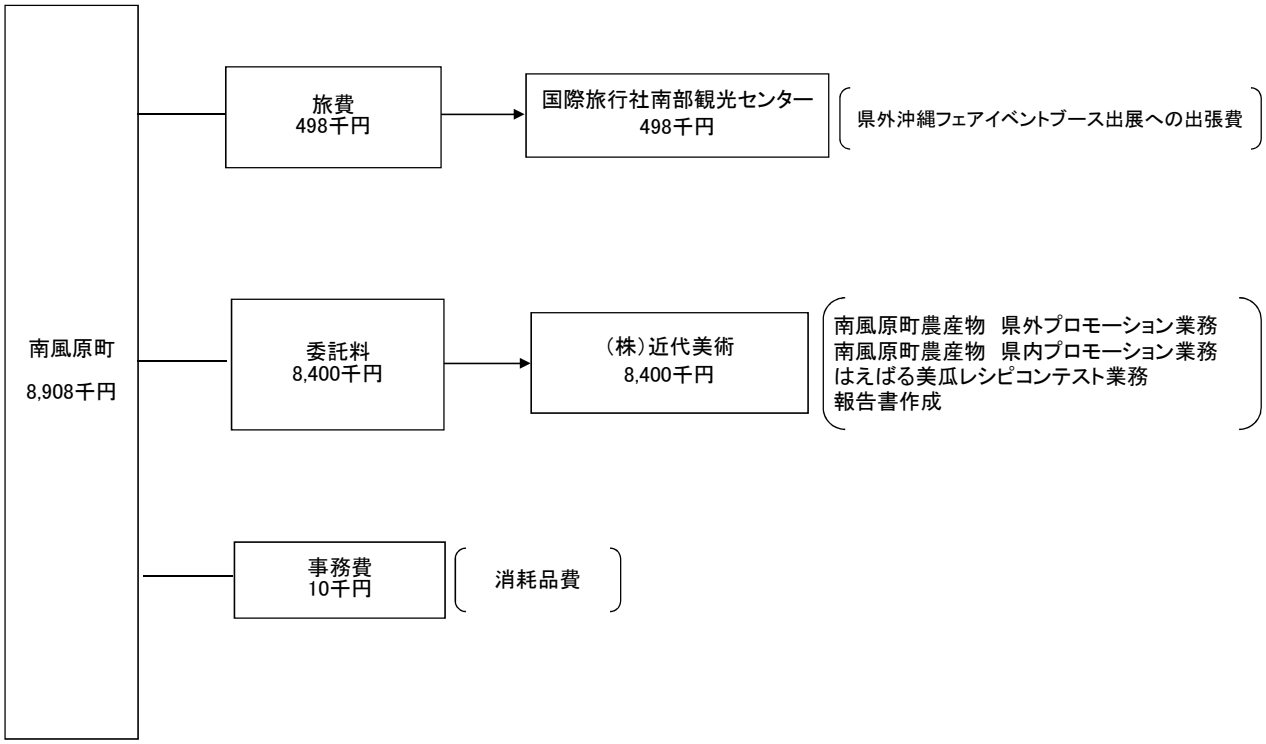
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県外販売促進においてへちま・スターフルーツについては試食もスムーズに行えた。ヘチマの購入は多くあり反応が良かったがスターフルーツに関しては9月の販売で、収穫開始時期のスターフルーツの為、少し青い実だった点で販売に苦慮した。 ・輸送時の擦れで黒ずんだり、キズになり商品にしづらい果実もあったが、概ね販売出来た。スターフルーツについては熟度も均一さがあったので試食販売も行いやすかった。 ・県内外の販促で野菜ソムリエを試食作りに起用し機能性を中心としたPRができた。両品目への理解も得られ、今後の県内外のPRを担ってもらうことも期待できる。 ・クッキングショーにおいては、シニア野菜ソムリエの講師を招き、収穫体験を同時開催する事で、ヘチマとスターフルーツへの愛着を持ってもらい、講習会でも様々なレシピを講話し好評でした。 ・へちまのレシピコンテストは開催時期を夏場に変更したが、連続開催の為か応募レシピ数は伸び悩んだ。しかし、イベントを活用して受賞レシピの表彰式を行い、簡単レシピや、冬用の温かいメニューなど多岐に渡るメニューを展開し冬場に向けてPR出来た。	・県外販売するうえでは、輸送時の商品の擦れによる果実の傷みが生じるので、荷姿などの運搬面の課題検討が必要。 ・県内販売に関しては、へちまは様々な料理に活用出来ると言う点をPRできたが、ハウスヘチマをよりPRして年中通して栽培され、食できるという点をよりアピールする必要がある。 ・スターフルーツに関しても星形に切るだけでない、より食べ応えのある食し方をアピールし、果物の甘いイメージより、さっぱりみずみずしい点と摂取することによる利点(機能性等)をよりアピールする戦略が必要である。 ・クッキングショーは一部の人数と限られている為、人数面での訴求力は弱いので、波及力のある方へ行うなどの検討を要する。 ・レシピコンテストに関しては出荷量の多い夏場に行う事がよかったが、レシピ数は多数に渡ったので、今後はレシピの活用にてターゲットを絞ったPRを考案すべきである。

今後の取り組み方針

・県外販売促進に関しては、流通を含めより身近な食材としてPR出来るような体制づくりも必要と考える。
食してのアンケート取りを農家へフィードバックし、今後の生産の参考となるよう取り組めたらと考える。
県内でも量販店を中心として流通するよう南風原町のPRも絡めて行いたい。
スターフルーツは今後も生産量が増えることが見込まれる。県外販促もより重点をおき、県内では運動会やクリスマス、バレンタインなどの行事を絡めたPRを考える。
加工分野で1次加工の試作等行い、販路を探る。
へちまレシピコンテストに関しては、受賞メニューの活用を重点的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,908	8,908	7,125	1,783	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル公募で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事務調整が合わず計画倒れになって生じたものの、適正な規模であった。 ○受益者負担については生産に必要な経費について負担しており出荷調整にも応じてもらっているので妥当であったと考えている。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑮	南風原町乳用牛改良支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－（ア） おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成28～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	乳用牛の改良強化を図るため、農家に対して優良乳用牛を貸し付けるものに対し支援を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,000				
	(b) 予算現額	4,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,000				
B. 執行済額		3,900				
うち交付金充当額		3,120				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.5%				
予算の状況の説明		執行率も高く、ほぼ事業計画どおりに執行できたが、不用額100千円は、セリの落札価格が当初計画より安価で購入出来たことによるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
優良乳用牛の貸付頭数10頭/年	目　標	（　10頭　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	10頭			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	当初計画の10頭を計画どおり導入できた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
・平成28年度導入率：20% ・平成28年度導入頭数：10頭 （全導入目標頭数：50頭）	目　標	（　）	（　20%　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		20%			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	目標導入率の20%を達成できた。 乳用牛価格の高騰による不安もあるが、事業計画どおり全導入目標頭数の50頭を達成できるよう努める。					

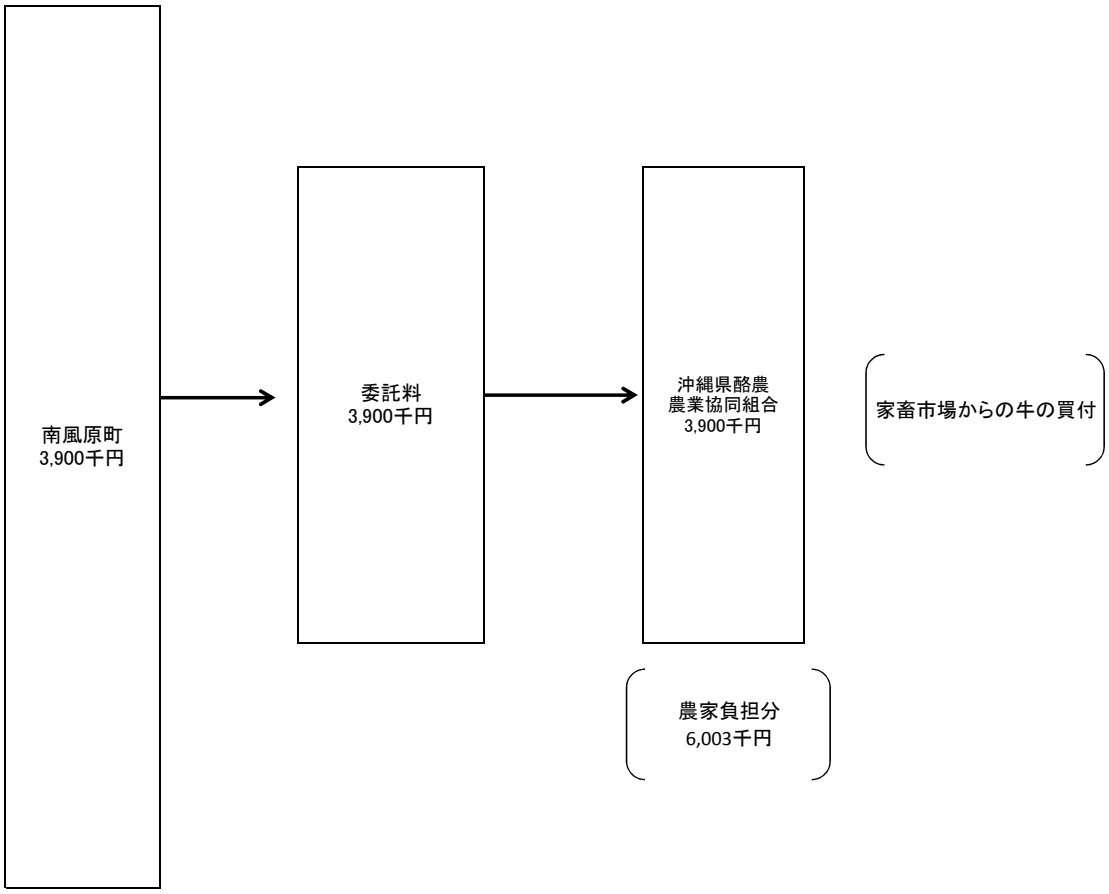
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	乳用牛価格の高騰により、農家負担額も上昇すると予想される。そのため、経営安定の障害とならないか不安な要素もあるが、事業計画のとおり乳用牛を導入することにより、生産乳量の増加、乳用雌牛の若齢化を図り、生産性向上により、農家の経営を安定させることで、町の畜産振興へも繋がる。	農家や沖縄県酪農農業協同組合などの関係機関と連携を密にして、成果検証を行えるデータの収集と蓄積に努めていく必要がある。 また、生産性向上による経営安定に向けても、関係機関と連携して農家の貸付牛の管理を指導していく必要がある。

今後の取り組み方針

乳用牛の改良強化を図るため、今後も引き続き、優良乳用牛貸し付け支援を行い、貸付頭数50頭の目標を達成できるように取り組むとともに、農家や関係機関との連携をとり、成果を検証できるデータの収集に努める。また、収集したデータ等からの生産性向上や経営安定の優良事例等を関係機関と連携して、各農家へ指導できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,903	3,900	3,120	780	6,003



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、町内農家の経営実態を把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である農家は、総事業費の6割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑯	動く広告塔事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	総務部　税務課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	原動機付自動車標識に南風原町オリジナルナンバープレートを使用し、本町のPR及び交通安全の推進を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,728	－	－	－	858
	(b) 予算現額	3,728	－	－	－	859
	(c) 増減額 (b-a)	0	－	－	－	1
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	3,728	－	－	－	859
B. 執行済額		1,974	－	－	－	858
うち交付金充当額		1,579	－	－	－	686
次年度繰越額		0	－	－	－	0
執行率（%）(B/A)		53.0%	－	－	－	99.9%
予算の状況の説明		事業計画通り執行出来た				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
オリジナルナンバープレート製作枚数 3,000枚	目　標	(3,000)	( )	( )	( )
	実　績	3,000			
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：オリジナルナンバープレート（50cc以下・1,650枚、90cc以下・50枚、125cc以下・1,300枚、 合計3,000枚）を作成し、平成29年1月31日より交付を開始した。町のホームページ等に掲載し周知を図り、本町のPR及び交通安全を推進した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（ 年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（ 年度）
南風原町オリジナルナンバープレートの交付割合8割以上	目　標	( )	(80.0%)	(80.0%)	(80.0%)	( )
	実　績		92.7%	90.5%	77.7%	
	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：
オリジナルナンバープレートは、新規登録者及び従来標識から新標識へ変更を希望する者を対象に交付している。平成24年度の同事業の継続事業であり、平成25年4月1日より交付開始しているため、認知度も上がっており町内外へPRを図ることができ、窓口においても順調に交付を行っている。
平成28年度において、125CC 以下のオリジナルナンバープレートの在庫がなくなり交付できない期間（その間の標準ナンバープレート交付枚数　131枚）があったため、交付率が77.7%となり、目標値を達成することができなかった。なお、当該期間を除いた期間（オリジナルナンバープレートがある時期）でみると、交付率は96.2%となる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	オリジナルナンバープレート（新標識）を拒否する者には、従来標識の交付を行っているが、オリジナルナンバープレートを交付開始した時期に比べ、従来標識を希望する方が少しずつ増えてきている。	交付の際には町民への理解と協力を呼びかけながら、オリジナルナンバープレートの交付を推進していく。

今後の取り組み方針

標識交付の際には町民への理解と協力を呼びかけながら、オリジナルナンバープレートの交付を推進し、今後も安全なまちづくりの推進と地域振興・観光産業振興を図るため、町内外へのPRに努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
858	858	686	172	0

南風原町 858千円 ― 委託料 858千円 ― 巣守金属工業㈱ 858千円

（南風原町原動機付自転車オリジナルナンバープレート製作にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○平成24年度同事業において本町のオリジナルの金型を製作しており、今回はプレートのみの追加発注となるため、委託事業者は、本事業の目的を達成するために必要なすべての条件を満たしており、さらに実績、技術等を勘案した上で選定し、妥当であったと考えている。 ○ほぼ、100%執行となっており、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－①	はえばるリサイクルループ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（2）－ア 3Rの推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	町内で発生する食品廃棄物（生ごみ、廃食用油含む）を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥、バイオディーゼル燃料を生産する。そこで生産された飼料で養豚を育て、生産したディーゼル燃料を車等に利用することで、食品廃棄物の有効活用を推進した食品廃棄物の循環を構築する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,596	16,520	16,150	14,905	14,639
	(b) 予算現額	12,596	16,520	16,150	16,260	14,639
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	12,596	16,520	16,150	16,260	14,639
B. 執行済額		11,539	14,867	14,804	14,905	14,639
うち交付金充当額		9,231	11,893	11,843	11,924	11,711
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		91.6%	90.0%	91.7%	91.7%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画のとおりに執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
循環構築することによる生ごみ（家庭系）の年間資源化の増	目　標	（　45トン　）	（　60トン　）	（　75トン　）	（　80トン　）
	実　績	32トン	33トン	30トン	27トン
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：目標値を下回った原因として、協力世帯の「生ごみになる余分な食材を買わなくなった」という意見より、協力世帯が更なる排出削減を実行したため生ごみ搬出量が減ったと考えられる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
生ごみ（家庭系）の年間資源化量（80トン）	目　標	（　　）	（　60トン　）	（　40トン　）	（　80トン　）	（　　）
	実　績		33トン	30トン	27トン	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：目標値を下回った原因として、協力世帯の「生ごみになる余分な食材を買わなくなった」という意見より、協力世帯が更なる排出削減を実行したため生ごみ搬出量が減ったと考えられる。
今後は新たな協力世帯を獲得し、生ごみ回収をとおして、ごみ減量の周知とリサイクルループの拡大を図る。

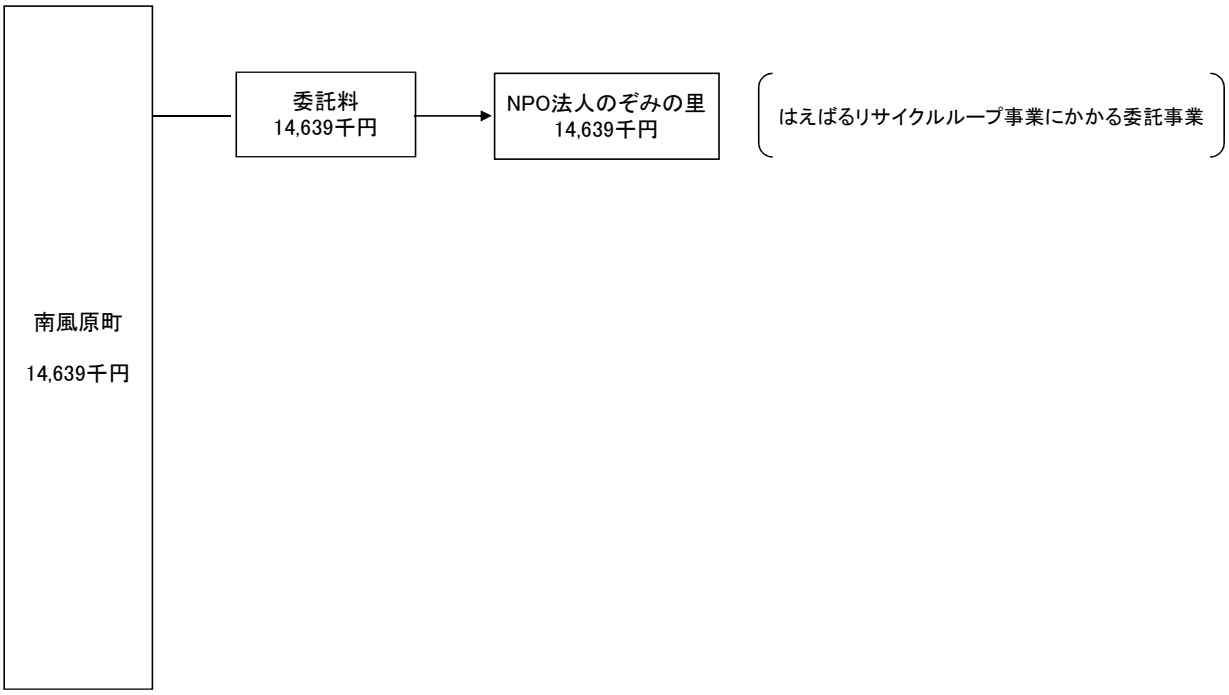
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	活動目標の生ごみの年間資源化量が目標達成できなかった要因として、協力世帯から排出される生ごみの量が減っていることが原因と考えられる。協力世帯は、「生ごみになる余分な食材を買わなくなった」と言う意見より、食料を購入する段階から、生ごみを排出しないよう考えているため、排出量が減少した。	・家庭から出る生ごみの減量について広報等で周知していくとともに、成果目標を達成するために、回収世帯を増やす。

今後の取り組み方針

町内の各家庭や飲食店等からの協力世帯を獲得し、生ごみや廃食用油の回収量を増やすことで、養豚用飼料や堆肥の生産増による食品廃棄物の循環の環の拡大を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,639	14,639	11,711	2,928	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の事業目的に対応できる事業所が1事業所のため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費目・使途もリサイクルループに係る事業の委託に係る費用のみを予算計上しており真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	環境学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（1）－オ 県民参画と環境教育の推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	ごみ減量やリサイクルの重要性の意識の向上と、次代を担うこどもたちの環境倫理の醸成のため、専門家による「体験型」の環境教育・環境学習を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	630	788	810	810	864
	(b) 予算現額	630	788	810	810	821
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 43
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	630	788	810	810	821
	B. 執行済額	630	630	486	648	810
	うち交付金充当額	504	504	388	518	648
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	79.9%	60.0%	80.0%	98.7%

予算の状況の説明：当初16回の環境学習の計画に対して15回開催し、ほぼ計画どおりに執行することができた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
町内4小学校の4年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施。実施回数16回	目　標	（　13回　）	（　15回　）	（　15回　）	（　16回　）
	実　績	12回	9回	12回	15回
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：
町内の4小学校において、4年生12クラス・5年生3クラス（合計506人）で「買い物ゲーム」を実施した。
実施回数については、対象学年の全学級に実施することができた。
1カ所の小学校において、5年生が環境学習に取り組んでおり、学校から「授業の進捗状況にあわせて実施したい」と希望があったことから、5年生に実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
買い物ゲーム体験者数（508人）	目　標	（　　）	（　508人　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		506人			
環境保全に対する理解度：アンケートを実施し、体験学習者数の90%以上	目　標	（　　）	（　90%　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%			

進捗状況説明：
体験した児童からは、「買い物の時はごみの量を考えながら買いたい」「残飯を減らそうと思った」「いろんな人に教えたいと思った」等の感想があり、学校の先生方からも「ごみ処理に係るコスト意識」等の意見を頂き、実施した学校からは大変好評であった。
体験した児童は、自らの消費行動（買い物）にごみの排出まで意識することに、意義を感じ環境保全に関する理解が100%になった。

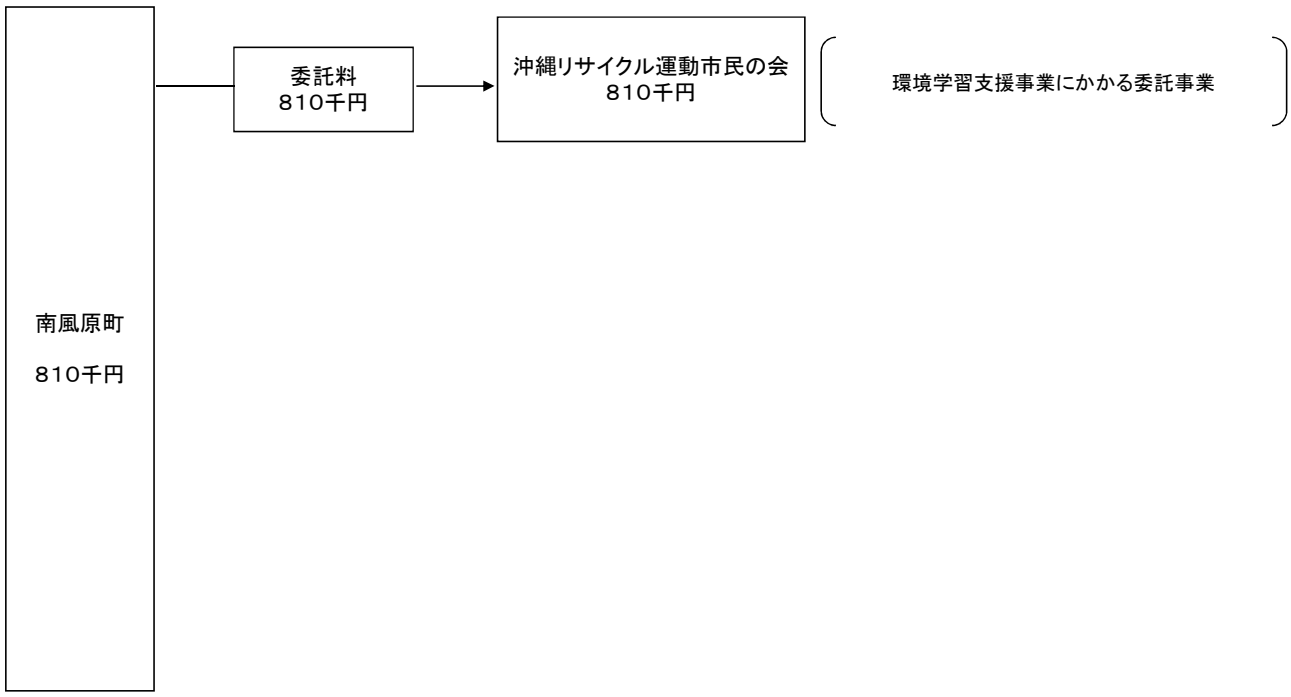
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の4小学校において15クラス、合計506人の児童が「買い物ゲーム」を体験したことで、ごみ処理問題や環境保全について、教科書や施設見学などの通常の授業からは見えなかった「気づき」を彷彿するような感想文をいただいたことで、この環境教育の大切さについて理解を深めることができたことを感じさせられた。	今後は親子で参加できるようにし、家族でごみ処理費用について考える機会を提供していく。

今後の取り組み方針

学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけし学校への環境教育支援を広く行い、児童がごみ問題や環境問題について考え、家族や地域住民へと波及するよう工夫する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
810	810	648	162	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先が開発した環境教育支援のための事業であるためこの委託先でしか事業ができないため地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算規模は、対象のクラス数15クラスのみを実施し、環境学習支援のみの委託料であり限定されている。 ○費目・使途は環境学習支援事業のみに支出しており適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－③	草木リサイクル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（2）－ア 3Rの推進
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	草木廃棄物を循環利用した「循環のシステム」を構築するため、町内から出る草木を堆肥化し、活用する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,318	7,214	6,983	6,770	6,832
	(b) 予算現額	5,501	5,714	8,013	7,670	6,512
	(c) 増減額 (b-a)	183	▲ 1,500	1,030	900	▲ 320
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	5,501	5,714	8,013	7,670	6,512
	B. 執行済額	5,501	5,472	7,909	7,158	6,087
	うち交付金充当額	4,400	4,377	6,327	5,726	4,869
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	95.8%	98.7%	93.3%	93.5%

予算の状況の説明：事業計画421トン中398トンをリサイクルし、ほぼ計画通り予算の執行ができた。
台風の襲来が例年より少なかったことから、搬入量の減が見込まれたため予算320千円を減額をしたが、予想以上に搬入量が少なかったため、不用額425千円が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
町内から排出される草木を堆肥化することで、リサイクル量の増をはかる。	目　標	（リサイクル量の増をはかる）	（　）	（　）	（　）
	実　績	減			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・町内の各家庭から排出された草木398トンを回収、委託業者により堆肥化されることで、農地で活用された。
・平成28年度は台風襲来が少なく、草木処理する家庭が少なかったため、草木伐採量が減少した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
草木のリサイクル量（堆肥化）：421トン	目　標	（　）	（431トン）	（440トン）	（421トン）	（　）
	実　績		488トン	477トン	398トン	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・目標より23トン及ばなかった。原因として平成28年度は台風襲来が少なく、草木処理する家庭が少なかったため、草木伐採量が減少した。
・町内の各家庭から排出された草木を分別回収し、委託業者により堆肥化され農地で活用されることにより、循環のシステムが構築されている。

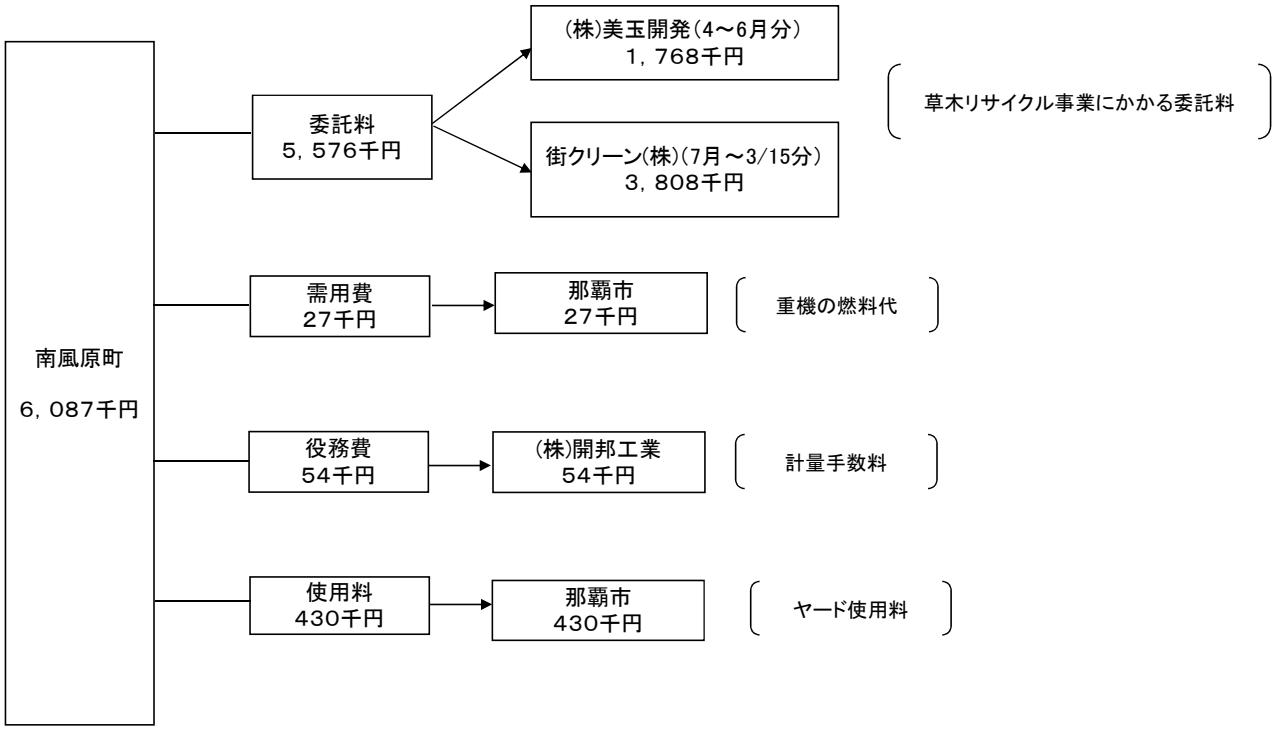
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・草木の堆肥化のため、草木の定期的な回収を行っているが、回収時に土や草木以外の物が混入していることがあり選別作業に時間を費やすため、堆肥化に支障をきたしている場合がある。 ・台風襲来後に草木回収が多くなるため、円滑な搬入・受入を目指す。	・草木の分別指導を行い、草木以外の混入を防ぎ、堆肥化がスムーズに行えるようにする。回収委託業者に対して、草木類以外のものが混入している場合はその旨周知のためのステッカーを貼付して住民の草木堆肥化への意識向上を図る。 ・広報誌等による周知活動により、草木の分別指導及び堆肥化の増量を促進していく。 ・町民の自宅からの草木持ちこみ搬入のための、現場調査のやり方の改善。（現状のままでいいのか検証）

今後の取り組み方針

今後も分別回収を徹底し、町内から排出される草木は、すべて堆肥化できるようにし、循環型社会の構築を推進する。草木持ち込み搬入は異物混入がないよう、現場調査を徹底する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,087	6,087	4,869	1,218	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は草木を堆肥にリサイクルしており循環型社会を構築する本事業に合致するため、選定は妥当であった。草木の収集方法の変更により7月から、委託先を変更した。 ○予算規模に関しては、草木リサイクル事業のみに必要な経費を計上しており、適正な規模であった。 ○費目・使途に関しては事業執行に必要な経費に限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－④	低炭素社会化事業（省エネ設備導入事業）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（3）－ア 地球温暖化防止対策の推進
担当部課名	まちづくり振興課	事業実施（予定）年度	平成27～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の実現を図るため、防犯灯（水銀灯、蛍光灯）等を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス（CO2）の排出を抑制する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,383	－	94,770		
	(b) 予算現額	10,231	－	94,664		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 152	－	▲ 106		
	(d) 繰越額	－	9811	－		
	A. 計 (b+d)	10,231	9,811	94,664		
B. 執行済額		389	9,616	94,663		
うち交付金充当額		311	7,693	75,730		
次年度繰越額		9,811	0	0		
執行率（%）（B/A）		3.8%	98%	100.0%		
予算の状況の説明		平成28年度はLED化整備工事を4地区、4業者で実施することができ予算を執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
750灯の防犯灯の設置	目　標	（750）	（　）	（　）	（　）
	実　績	735			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：平成28年度は750灯のLED化を目標とし、4地区に分けて防犯灯の整備工事を実施したが目標を15本下回る結果となった。その要因は、標準的な仕様の防犯灯(20w)で目標を設定していたが、地域との調整により設置箇所によっては、照度の強い防犯灯(40w/60w)の設置が必要となったことから、事業費が増額したことによるものである。今後は、防犯灯の設置箇所について、防犯灯仕様の把握に努め、目標を達成できる様にしたい。

成果目標（指標）及び進捗状況

」		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
・平成28年度の削減量：35．86t－CO2／年	目　標	（　）	（35.86）	（　）	（　）	（　）
	実　績		37.65			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：既設防犯灯の水銀灯や蛍光灯をLED灯に切り替える工事を行ったことで、二酸化炭素を37.65t削減できた。17自治会の既存蛍光灯CO2排出量計算とLED灯切り替え後の排出量の差により求めた。

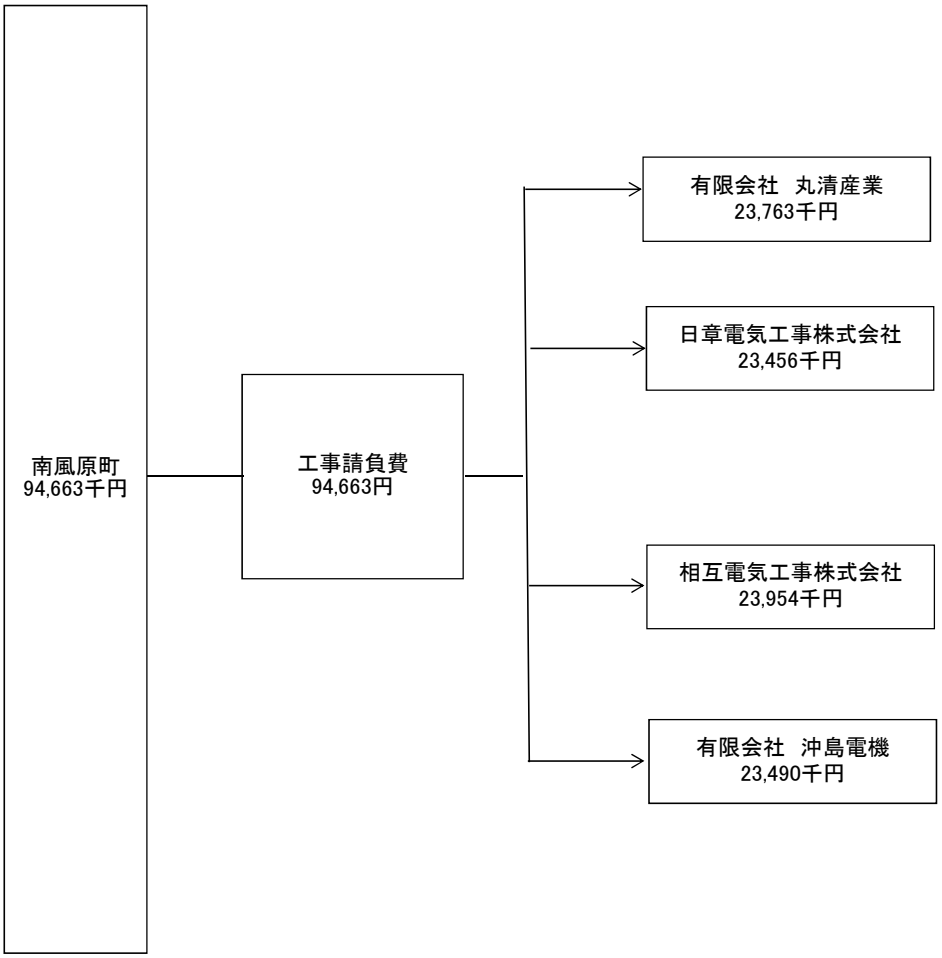
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	既存の蛍光灯からLED化整備するにあたり、複数年にまたがるため既存の防犯灯の維持・管理と平行して行うため、設置場所や優先順位などを自治会と調整するのに時間を要する。	設置場所や優先順位について自治会との調整をスムーズに行う必要がある。

今後の取り組み方針

・事業を計画通りに進めるために、区長会を活用し情報共有を図ることや、自治会長との連携を密にとることで、業務の効率化を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
94,663	94,663	75,730	18,933	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は指名委員会選定後、指名競争入札参加によって工事請負契約を締結しているので妥当だと考える。 ○不用額はなく、適正な規模であった。 ○費目、使途について、事業目的に必要なものに限定して実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑤	南風原町景観計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（6）－（ア） 沖縄らしい風景づくり
担当部課名	経済建設部　まちづくり振興課	事業実施（予定）年度	平成28～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（1）
事業内容	南風原町の豊かな自然及び地域独自の風土を感じさせる風景を活用した景観像を明確にし、良好な景観形成を実現するため景観計画を策定する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,942				
	(b) 予算現額	3,726				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 216				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,726				
B. 執行済額		3,726				
うち交付金充当額		2,980				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおり、予算執行ができた。 入札残により、予算216千円を減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	
町内全域における現況調査の実施	目　標	（　現況調査の実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	現況調査の実施			
景観づくりに関するアンケート調査・分析	目　標	（　アンケート調査・分析　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	アンケート調査・分析			

達成状況説明

町内全域（12箇所）にわたりの現況調査を実施し、町内の風景・地域独自の風土を感じさせる風景を確認できた。南風原町の町内に住む18歳以上の男女3,000人にアンケート調査を実施し、763件（26%）の回収があり、住民の意識調査が出来た。アンケート調査の結果・分析を行った後、ワークショップを開催し多数の意見があり4回に回数を増やし対応した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
基礎調査の完了	目　標	（　　）	（　調査完了　）	（　　）		（　　）
	実　績		調査完了			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）		（　　）
	実　績					

進捗状況説明

11月から現況調査、アンケート調査、ワークショップを行い、南風原町の豊かな自然景観、地域独自の風土を感じる風景を確認できた事や、アンケート調査及び、ワークショップで改めて南風原町の3大森（黄金森・高津嘉山・新川森）自然景観の意識の高さを感じる事ができた。

計画どおり現況調査、アンケート調査、ワークショップを実施して、報告書をまとめ、基礎調査を完了した。

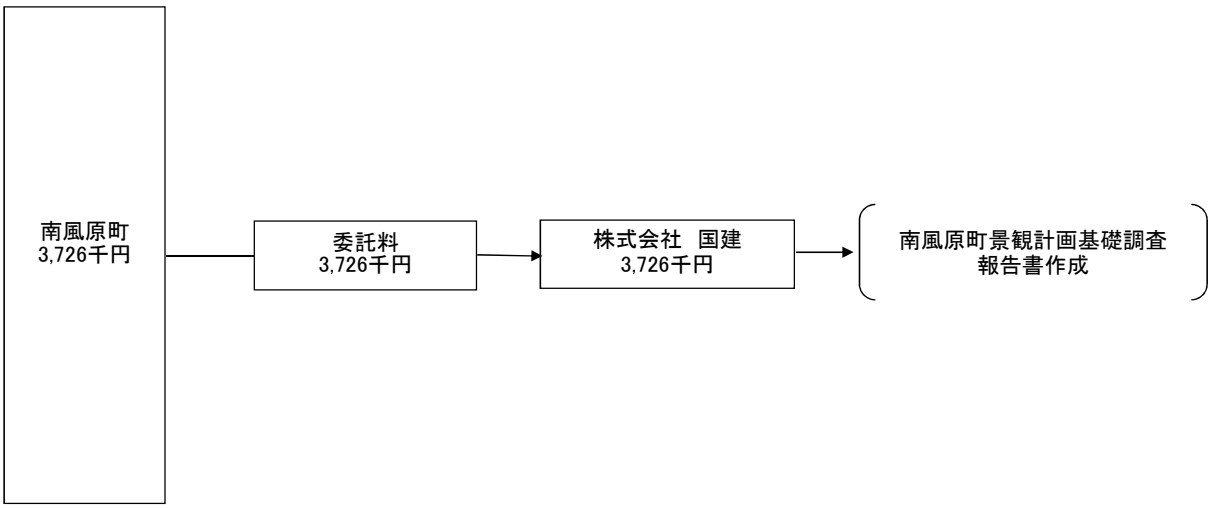
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	2004年に景観法が施行され、沖縄県においても多くの市町村が景観施策に取り組んでいます。南風原町においても、バイパス等の交通体系の整備や文化センターの開館などにより、来訪者の受け入れ体制の整備が進んでおりこれらの変化に伴い景観も変化しつつあります。これらの経緯を踏まえ景観法第8条に基づき景観計画策定に取り組みました。 アンケート調査結果では26%の回答を得る事ができ、町内の景観の良いところ、気になるところが挙げられた。その後、ワークショップ開催へ繋げ最終的に基礎調査の報告書として整理する事が出来ました。	アンケート調査、ワークショップでは景観への意識の高さが伺えたが今後、広く住民に「景観」への意識・興味を持って頂けるよう工夫が必要がある。

今後の取り組み方針

平成29年度は、景観計画（案）を策定予定ですが、基礎調査の報告書を元に、委員会の設置、地域へ意見交換会（説明会）等を実施し、広く景観計画への理解、意識付けを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,726	3,726	2,980	746	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○発注時の仕様書内容のとおり実施されているので妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	防災体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）

事業内容

亜熱帯気候である沖縄県では毎年多くの台風が接近・襲来している。そのため、島しょ県である沖縄は、大規模災害時には物資の補給が困難となり、孤立してしまう恐れがある。そのことから、町独自で長期保存ができる食糧等の備蓄を行い、防災体制の強化を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	0	7,525	12,736	3,233	2,791
	(b) 予算現額	0	13,710	12,736	1,997	2,322
	(c) 増減額 (b-a)	0	6,185	0	▲ 1,236	▲ 469
	(d) 繰越額	81,900	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	81,900	13,710	12,736	1,997	2,322
	B. 執行済額	81,900	13,491	10,584	1,997	2,322
	うち交付金充当額	65,520	10,792	8,467	1,597	1,857
次年度繰越額		0	－	－	－	－
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.4%	83.1%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明

事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。H28年度は各字・自治会が保有している備蓄品の数量を合わせ充足率が100%になるよう入札を行ったことにより、入札残が生じた。そのため3月補正で予算469千円を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・備蓄品の購入 （米、水、トイレ袋等）	目　標	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（・備蓄品の購入）
	実　績	・3,312食分の備蓄品の購入	・3,312食分の備蓄品の購入	・3,312食分の備蓄品の購入	・備蓄品の購入

達成状況説明

・地域防災計画の食料等備蓄計画に基づき、5年間で人口36,000人の20分の1の3日分の食料等備蓄を目標としているため、平成28年度では、目標の約20%にあたる3,348食分の食料等を購入した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
・南風原町地域防災計画の「食料等備蓄計画」の目標備蓄数16,200食(36,000人×1/20×3日分×3食)に対する充足率：100%	目　標	（0%）	（61.3%）	（81.80%）	（100%）	（　）
	実　績		61.30%	81.80%	100%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・備蓄品の充足率について、H24～28年度の5年間で100%を目標としており、5年目のH28年度時点で100%となっており、人口20分の1の3日分の充足率目標を達成しているため、計画的な達成状況となっている。また、充足率の積算に各字・自治会が保有している備蓄品を含んでいなかったため、H28年はその数量に合わせた整備を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・人口が毎年増加しているため、H24年度に目標設定した備蓄品の数量では実状に合わない現状になっている。 ・賞味期限が切れそうな備蓄品がある。	・人口増加に合わせた量の備蓄品を整備する必要がある。 ・賞味期限が切れそうな備蓄品を把握し、使用法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・人口増加に合わせた量の備蓄品を整備していく。
・賞味期限が切れる備蓄品の使用法を検討していく。
・今後防災訓練等の防災事業を行いながら、必要性が生じた備蓄品に対し、随時整備を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,322	2,322	1,857	465	0

南風原町 2,322千円 → 需用費 2,322千円 → （有）新垣産業 2,322千円 （食料等備蓄品購入にかかる需用費）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入先業者は、入札による落札業者の為、妥当である。 ○予算は減額となっているが、地方自治法施行令167条における指名競争入札による残額となっていることから、予算規模は適正であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－②	災害時等避難施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（4）－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）
事業内容	台風等の自然災害による被害が多発しているため、台風などの災害や不発弾処理等非常時の避難施設である地域公民館や集会施設の整備を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000	5,000	－	5,000
	(b) 予算現額	1,432	5,880	3,454	－	5,000
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,568	880	▲ 1,546	－	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A.　計 (b+d)	1,432	5,880	3,454	－	5,000
B.　執行済額		1,428	5,880	3,219	－	5,000
うち交付金充当額		1,142	4,704	2,575	－	4,000
次年度繰越額		0	0	0	－	0
執行率（%）（B/A）		99.7%	100.0%	93.2%	－	100.0%
予算の状況の説明		・2箇所の整備予定に対して1箇所の整備となったが、当初計画よりも1箇所あたりの事業規模が大きかったため、予算の執行率は100パーセントとなった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
避難所（公民館等）の機能強化工事（施設整備）支援:2箇所	目　標	（　3箇所　）	（　5箇所　）	（　－　）	（　2箇所　）
	実　績	2箇所	2箇所	－	1箇所
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：
・災害に備えたるため防水・外壁塗装工事を実施し、災害時避難施設の機能強化を行った。
・目標は2箇所の整備だったが、自治会内での協議が進まず補助申請が1箇所のみであったため、1施設の改修整備となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（29年度）
避難所（区、自治会）の整備78%（全避難所19箇所中15箇所整備完了）	目　標	（23年度 0）	（5件 42%）	（－）	（2件 78%）	（19件 100%）
	実　績		2件 26%	－	1件 31%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：
平成29年度までに78%（合計15箇所）を整備する目標であったが地域において事業内容の協議がまとまらず、当初目標していた通りに事業が行われず31%（6箇所）の整備にとどまった。
【26年度以前の実績】
平成24年度実績：1箇所（5%）
平成25年度実績：2箇所（15%）

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成29年度までに合計15箇所を整備する目標であったが、自治会内での協議が進まず6箇所の整備にとどまっており事業の遅れが生じている。	目標では平成29年度までに15箇所を整備する予定だったが、平成28年度までに6箇所の整備にとどまっており、残り1年で9箇所の整備は困難な状況にある。 目標年度を平成33年度まで延長し、H29年度～H32年度に2箇所の整備事業を実施、H33年度に残り1箇所が整備できる様計画的に事業を進めていく必要がある。

今後の取り組み方針

平成29年度以降の事業対象施設及び機能強化箇所を事前に確認する事や、毎月の区長会で進捗状況を確認し、今後は事業の遅れが生じないよう調整を進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,250	5,000	4,000	1,000	1,250

南風原町
5,000千円
→ 補助金
5,000千円
（避難施設
機能強化に係る経費の補助）
→ 神里自治会
5,000千円
（神里自治会負担分
（交付対象外経費：1,250千円））
→ 有限会社ﾂﾈﾀﾞ塗装工業
6,250千円
（防水・外壁塗装工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札を実施し支出先の選定は妥当であったと判断した。 ○全て避難施設の機能強化に関する費用となっており予算規模は妥当であったと判断した。 ○受益者である神里自治会が総事業費の2割を負担しており負担割合は妥当であったと判断した。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5－①	放課後児童の居場所づくり支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（2）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

本町の補助対象学童クラブのうち、民間の賃貸住宅を利用している学童クラブに対して家賃支援を実施する。また、学童クラブがひとり親家庭等の学童利用者に対し学童保育料を減免した場合の支援を実施する。本事業により、子育て環境の整備、学童クラブ運営の安定化を図り、保育の質を高め、子ども達の安心・安全な放課後の居場所を作り、充実させることを目的とする。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,548	2,310	2,310	7,530	8,010
	(b) 予算現額	1,548	2,310	2,310	6,506	7,046
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 1,024	▲ 964
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	1,548	2,310	2,310	6,506	7,046
	B. 執行済額	1,540	2,310	2,270	6,108	6,761
	うち交付金充当額	1,232	1,848	1,816	4,886	5,408
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		99.5%	100.0%	98.3%	93.9%	96.0%

予算の状況の説明

家賃支援について当初は10クラブが対象になる見込みだったが、H27年度以降開所のクラブに対しては国の補助が始まったため、対象クラブはH26年度以前開所の7クラブとなった。一方で、ひとり親家庭等学童クラブ利用支援については、当初46名の児童が対象となる見込みだったが、実績は66名と大幅に増えた。その結果、家賃支援と利用支援全体における実績は当初予算と比較して964千円の減となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
家賃補助 基準値（H28）：7ヶ所	目　標	（　5件　）	（　5件　）	（　7件　）	（　7件　）
	実　績	5件	5件	8件	7件
ひとり親家庭等学童クラブ利用支援補助 基準値（H28）：66人分	目　標	（　－　）	（　－　）	（　67件　）	（　66件　）
	実　績	－	－	47件	66件

達成状況説明

・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている7学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。対象クラブは当初10件を見込んでいたが、平成27年度以降開所の学童クラブに対しては国の補助が開始されたため、年の途中で目標を7件に変更した。実績は7件となり目標を達成することができた。
・ひとり親家庭等の学童利用料を減免している施設へ補助を行う事により、負担軽減となり、学童クラブの運営の安定化に繋がり、子ども達の安心・安全な放課後の居場所作りを充実させることができた。対象児童数は当初46件を見込んでいたが、制度の周知が進み増加したため、年の途中で目標を66件に変更した。実績は66件となり目標を達成することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（33年度）
保育の質を高め、安心・安全放課後の居場所を確保することにより、児童の健全育成を図る。 平成23年度（補助前）を基準として事業（行事）の増加数 平成28年度（目標）3件×10ヶ所＝30件 （平成23年度（基準）18件（4ヶ所））	目　標	（行事数18回（4カ所））	（39回（7ヶ所））	（30回 10カ所）	（　）	（　）
	実　績		57回（7ヶ所）	51回（7ヶ所）		

進捗状況説明

・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている7学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。平成23年度と比較して行事数も増え、保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善が見られた。その結果児童の居場所を確保することにつながり、児童の健全育成を行うことができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学童クラブによって家賃が異なるため、現状の金額（1ヶ月上限50,000円）が妥当なのか、検証する必要がある。 ・沖縄では民設民営の学童クラブがほとんどで、施設の家賃や送迎費がかかるため学童利用料が高くなっている。家賃補助を実施することによって浮いた分を行事費にあてたり利用料減額につなげることができているが、利用料についてはまだまだ全国の水準に及ばない。 ・ひとり親家庭等学童クラブ利用支援を行いその家庭の負担軽減することができたが、それ以外にも所得が低い家庭など支援を必要とする子どもについても負担軽減する必要がある。	・調査したところ保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善は見られた。さらに環境改善に努めていく。 ・事業の継続性を図っていきたい。 ・平成27年度と比べてひとり親家庭等の児童の利用が増えたが、更に住民への周知を実施する必要がある。 ・ひとり親家庭だけでなく所得が低い困窮世帯など、学童クラブの利用が必要だが利用できない状況の児童について支援できないか検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・今後も事業の継続性を図ると共に、現状の補助額が妥当なのか検証していく。公的施設を活用した場合は家賃負担がなく学童クラブにとって負担軽減となり、それが利用者の保育料にも反映され利用者の負担軽減につながる。そのため、公的施設を活用することも検討する。
・学童クラブによる利用料減免に対する補助については、ひとり親家庭等だけでなく所得が低い困窮世帯などに対する支援についても検討する（平成29年度は、対象を生活保護受給者まで拡大した）。また、補助額についても見直す必要がないか検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,761	6,761	5,408	1,353	0

南風原町
6,761千円

→ 補助金
6,761千円

→ ○家賃補助　7カ所（3,188千円）
津嘉山学童クラブ　360千円
学童クラブわんぱく家　555千円
ドルチェ学童クラブ　600千円
こがね森学童クラブ　420千円
第二こがね森学童クラブ　473千円
キッズクラブカナカナ　480千円
よなは学童クラブ　300千円

（学童クラブの家賃に係る経費の補助）

→ ○ひとり親家庭等利用料補助　18カ所（3,573千円）
よなは学童クラブ　280千円、　よなは第2学童クラブ　620千円
北丘学童クラブ　180千円、　第2北丘学童クラブ　20千円
津嘉山学童クラブ　100千円、　学童クラブVI-VA　120千円
学童クラブわんぱく家　60千円、　学童クラブう一まく家　341千円
ドルチェ学童クラブ　174千円、　キッズクラブカナカナ　200千円
こがね森学童クラブ　226千円、　第2こがね森学童クラブ　180千円
みやび学童クラブ　211千円、　こもれび学童クラブ　120千円
翔南学童クラブ　360千円、　みつわ学童クラブ　105千円
第二竹の子学童クラブ　180千円、　いこい学童クラブ　96千円

（ひとり親家庭等の学童クラブ利用料減免係る補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は当該補助金支給要綱により企業組織、実績、知識等を勘案した上で決定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○沖縄県の一括交付金を活用した家賃補助は上限が月額80,000円なので、50,000円の上限は妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助額の上限を超える金額をクラブが負担しているため、妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5－②	幼稚園保育充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（2）－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

町立幼稚園の保育時間の延長に伴い開始される給食を、園児に安心・安全に提供できる体制を整えるため支援員を配置する。また、平成29年4月より幼稚園での4歳児クラスが3クラス、5歳児クラスを2クラス増やすため安全な給食提供に必要な共同調理場、幼稚園の備品（食缶）等給食提供に係る設備を整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	958	487	486	973	
	(b) 予算現額	1,647	487	27,958	8,246	
	(c) 増減額 (b-a)	689	0	27,472	7,273	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	1,647	487	27,958	8,246	
	B. 執行済額	1,070	430	27,587	7,637	
	うち交付金充当額	856	344	22,069	6,109	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		65.0%	88.3%	98.7%	92.6%	

予算の状況の説明

平成28年度当初は支援員配置のみの計画であったが、平成29年4月より4歳・5歳児保育の受入を拡充に向けて給食提供に必要な備品等を購入するために事業計画の変更申請を行い、交付決定を受けて7,291千円を増額した。不用額については、入札残等によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
給食支援員配置数(4名)	目　標	（3名）	（3名）	（2名）	（4名）
	実　績	2名	2名	2名	2名
給食関係消耗品・備品整備	目　標	（配缶用台車4台 水切運搬車1台）	－	（給食関係消耗品・備品の整備）	（給食関係消耗品・備品の整備）
	実　績	配缶用台車4台 水切運搬車1台	－	給食関係消耗品・備品の整備	給食関係消耗品・備品の整備

達成状況説明

・給食支援員については、4名の配置を予定していたが募集をしても勤務希望者がいなく2名の配置となったが、給食支援員を配置することにより、給食を安心・安全に実施することができた。
・4歳児・5歳児のクラス増に向けて環境整備を行うことができた。
・食卓机40台、配膳台5台、消毒保管機他5品目の備品と、深皿他１８品目の消耗品の整備を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
配膳時の事故件数（0件）	目　標	（　）	（配膳時の事故件数0件）	（配膳時の事故件数0件）	（　）	（　）
	実　績		配膳時の事故件数0件	配膳時の事故件数0件		
幼稚園4歳児・5歳児への給食提供環境整備完了	目　標	（　）	（幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備）	（幼稚園4歳児、5歳児園児への給食提供環境整備）	（　）	（　）
	実　績		幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備完了	幼稚園4歳児、5歳児園児への給食提供環境整備完了		

進捗状況説明

・給食支援員（2名）を配置したことにより、配膳時の事故が無く、安心・安全な給食を提供できた。今後とも就学前の幼稚園教育の環境を整えていく。
・共同調理場及び幼稚園の備品を整備し、平成29年度4月からの4歳児、5歳児クラス増に対してスムーズな対応を実施するための取組を行うことができた。
・食卓机40台、配膳台5台、消毒保管機他5品目の備品と、深皿他18品目の消耗品の整備を行った。

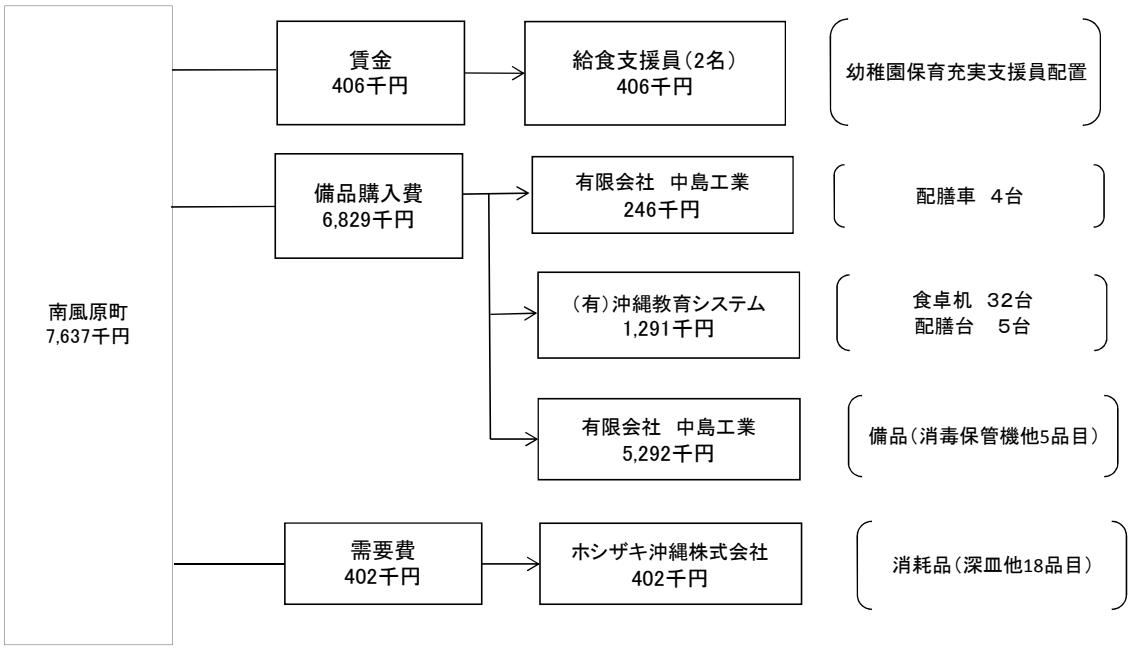
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成29年度からの4歳児、5歳児クラス増に伴い、配膳台など整備を行う必要あり、受入のための環境整備を行うことができた。	今後も必要に応じて環境整備等を行うなど、子ども達が安心して保育を受けられるよう努めていく。

今後の取り組み方針

今後も幼稚園で学校給食を提供することによって小学校での生活がスムーズに行えるようにする。更に、クラス増等に対応する備品・消耗品等の購入により、安心・安全な給食を園児に提供し、幼稚園保育の充実を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,637	7,637	6,109	1,528	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、給食支援員の勤務時間が2Hと短いため保護者の中から選考している。 ○事業内容に基づく事業執行を行っているため、予算規模は適正であると判断する。 ○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町の給与、勤務時間その他の勤務時間に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－①	陸軍病院壕公開活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容	平和学習の拠点である沖縄陸軍病院南風原壕群の保存・活用を推進するとともに、整備・公開している20号壕を訪れる県内外からの見学者をガイドが案内し、沖縄戦の追体験をとおして平和と命の尊さを伝える。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,081	5,856	11,603	6,515	6,705
	(b) 予算現額	3,630	5,856	11,603	5,039	4,631
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,451	0	0	▲ 1,476	▲ 2,074
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	3,630	5,856	11,603	5,039	4,631
B. 執行済額		3,630	5,536	10,776	5,039	4,631
うち交付金充当額		2,904	4,428	8,620	4,031	3,704
次年度繰越額		－	－	－	－	－
執行率（%）（B/A）		100.0%	94.5%	92.9%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明

2,074千円の減額については、当初計画していた嘱託職員と印刷製本費について、対象外経費としたことによるものである。
当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
開壕日数　308日	目　標	（308日）	（310日）	（308日）	（308日）
	実　績	310日	317日	308日	308日
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

予定開壕日数達成のため、壕を管理し、開壕に取り組んだ。
見学者側の要望を確認し定休日でも開壕したことも目標達成に繋がったと考えられる。
活動目標を達成するため、壕の安全を保つための変位観測、壕ガイドも配置している。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
見学者数10,000人	目　標	（9804）	（10,000人）	（10,000人）	（10,000人）	（　）
	実　績		10,160人	11,287人	10,310人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

見学者は毎年増減があって安定していない。26年度から入壕者数1万人を超えることができている。28年度は27年度を上回ることができなかった。今後の課題は見学の申し込みや、内容をわかりやすくホームページなどで情報発信し、見学者の増加につなげたい。
概ね見学者数の目標は達成しているが、今後もさらに目標数を上回れるように親切丁寧な対応することを心掛け、場合によっては、休壕日の対応も考えて積極的に取り組む予定である。

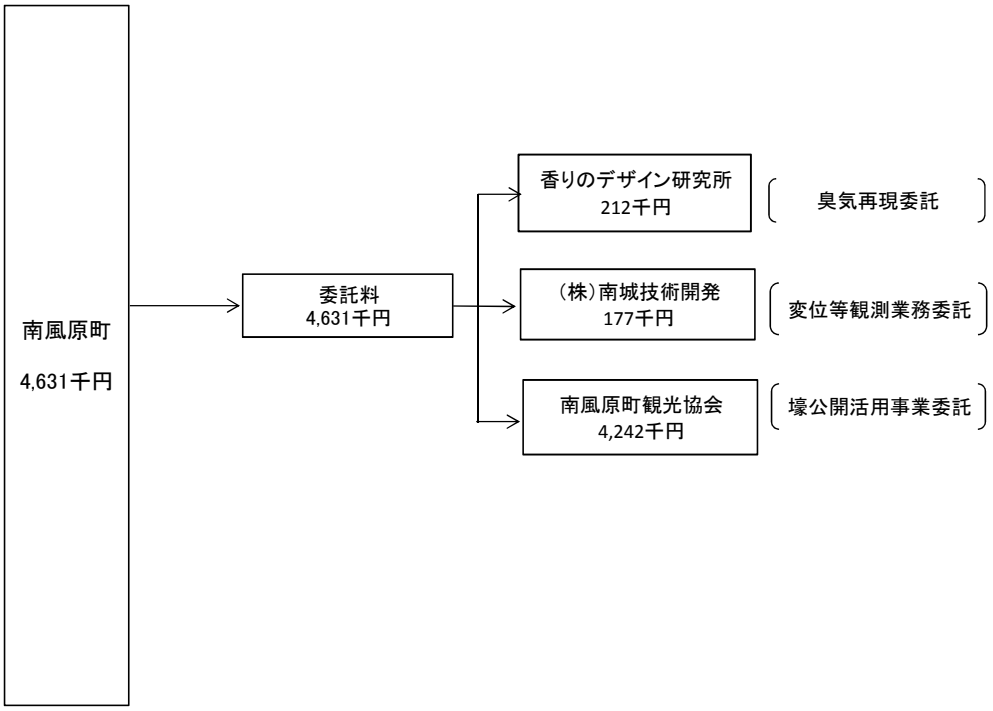
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	見学者数は約10,000人前後で推移している。 公開して10年目になるため、壕内の劣化等の現況検証が必要と考える。	一度に壕に入る人数を10名と区切っているため、1万人前後を推移している。 平成28年度末から、壕の現況検証を行っている。 壕見学の流れをわかりやすく、ホームページやチラシを作成して、発信していく。

今後の取り組み方針

問い合わせで、壕の場所の確認や見学の方法・流れを聞かれることが多いので、壕見学の流れをわかりやすく、ホームページやチラシを作成して発信していく。また、南風原町観光協会と連携し、修学旅行を扱う旅行者への情報提供を行っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,631	4,631	3,704	927	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○壕活用事業委託については、町の観光資源を活用するための組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託しており、妥当であると考えている。 ○予算規模は事業に要する費用となっており適正である考える。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－②	資料の公開活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（5）－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	南風原文化センターに収蔵されている貴重な歴史資料をデータベース化して整理し、公開活用の幅を広げつつ後世へ継承していく。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,143	15,565	15,894	15,795	15,602
	(b) 予算現額	12,143	15,565	15,894	15,795	15,602
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	12,143	15,565	15,894	15,474	15,602
B. 執行済額		12,143	15,275	15,565	15,134	15,506
うち交付金充当額		9,714	12,220	12,452	12,107	12,405
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.1%	97.9%	97.8%	99.4%

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。不用額96千円については委託の入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
データベース化資料数　5,000点	目　標	（50,000点）	（50,000点）	（5,500点）	（5,000点）
	実　績	50,000点	78,000点	11,543点	20,854点
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：南風原文化センターに収蔵されている「民俗」「考古」「戦争」「織物」「写真」「書籍」「移民」「ビデオ」「音声テープ」等の資料のうち、平成28年度は「戦争」資料約2万点のデータベース化を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
データベース化済割合：91%（総点数125,000点中、データベース化済点数113,000点）	目　標	（3%）	（83%）	（87%）	（91%）	（　）
	実　績		83%	87%	91%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：平成28年度は当初10,187点としていた資料が、調査の結果整備が必要な資料数が20,854点と予定より膨大な数であり、データベース化割合が増加している。資料点数は増加したが、年度内に業務を終了することができた。

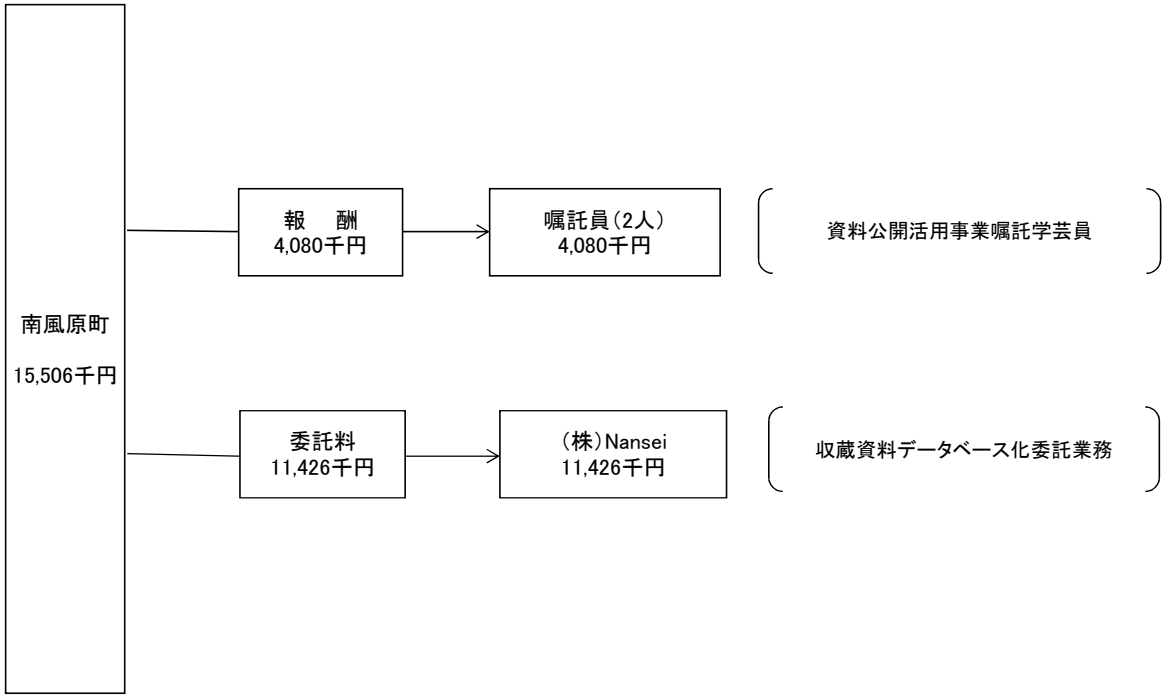
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	貴重な歴史資料の公開活用の幅を広げるため、収蔵している資料のうち平成28年度は「戦争」関係の資料を整理した。資料をデータベース化することで、検索が容易に行え活用の幅が広がった。 資料数が正確に把握できない資料などもあるため、効率よく登録業務が実施できるよう工夫を図る必要がある。	効率よく登録業務が実施できるよう全体数を大まかに把握し、資料を分類しながら計画的に登録を実施する。

今後の取り組み方針

資料の公開活用の質を維持するため、登録する際には効率よく業務が実施できるよう計画的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,506	15,506	12,405	3,101	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は、指名競争入札によるもので適正であると考えている。 ○不用額は、事業費の5%以内であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－④	伝統芸能保存育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ウ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容	町内には数多くの伝統芸能があり、各字（あざ）・自治会の伝統芸能の保存や継承への取組に対し支援を行うことで伝統芸能継承を推進する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,700	5,000	3,000	3,000	3,000
	(b) 予算現額	5,700	2,852	3,000	2,000	317
	(c) 増減額 (b−a)	0	▲ 2,148	0	▲ 1,000	▲ 2,683
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	5,700	2,852	3,000	2,000	317
B. 執行済額		5,675	2,651	2,970	1,647	316
うち交付金充当額		4,540	2,120	2,376	1,317	253
次年度繰越額		－	－	－	－	－
執行率（%）（B/A）		99.6%	93.0%	99.0%	82.4%	99.7%

予算の状況の説明

・申請は2自治会の伝統芸能継承を推進するための助成事業を行うことができた。
・活動目標の自治会への伝統芸能保存育成支援件数は、4自治会で組踊等芸能公演の計画を進めていたが、実施までに至らず、次年度以降に実施することになった地域もあるため件数が減り2件となったため、減額になった。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
伝統芸能保存育成支援件数　3件	目　標	（10件）	（6件）	（6件）	（3件）
	実　績	5件	4件	4件	2件
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・町内の伝統芸能継承を推進するため、自治会へ伝統芸能保存や継承への取組に必要な衣装・楽器・道具の購入に対して2件の補助金交付を行った。
・活動目標の自治会への伝統芸能保存育成支援件数は、4自治会で組踊等芸能公演の計画を進めていたが、実施までに至らず、次年度以降に実施することになった地域もあるため件数が減り2件となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
年中行事等での伝統芸能上演等回数 34回	目　標	（55回）	（67回）	（67回）	（34回）	（　）
	実　績		67回	68回	34回	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・上演等回数の目標及び実績については、28年度補助団体を対象としているが、27年度と比べて補助団体が4件から2件に減ったため、目標・実績ともに減となっている。
・補助団体については、伝統芸能上演等回数の増に繋がった。また、祭りや諸公演・発表会等へ、伝統芸能の衣装・楽器・道具が整い誇りを持って出演することができるようになった。

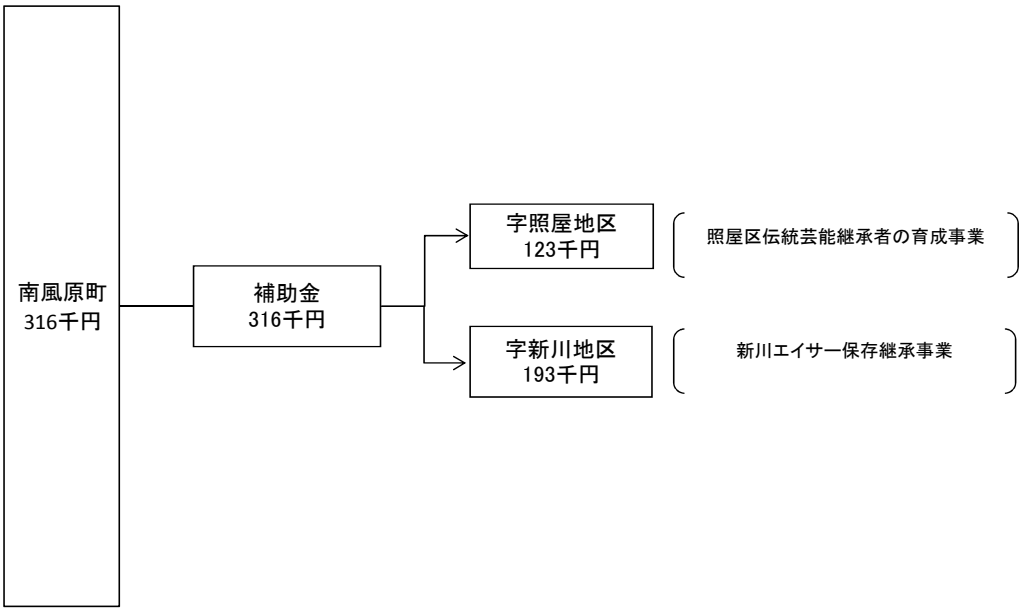
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	各自治会の伝統芸能を復活するためには、まとめる保存会等を立ち上げて、地域の協力が必要になる。 保存会は諸先輩からの演舞指導、記録に残すための調査など、解決しなければならない課題がある。 伝統芸能を継承する後継者を育成していかなければならない。 現在、復活している伝統芸能を維持するためには人材の確保、練習場所の確保が必要になってくるが、社会環境の変化により難しくなっている。	町保存会と連携するため、情報の共有ができ、お互いの刺激にもなると考えている。伝統芸能がある自治会に、保存会等を立ち上げることができるよう、指導していく。 指導者の確保、調査も町保存会と連携して進めていく。 継承する後継者も、自治会や青年会と連携して育成していき、練習場所も町が連携して確保していく。

今後の取り組み方針

平成28年度も自治会への伝統芸能への保存や継承への取り組み（伝統芸能に必要な衣装・楽器・道具の購入）に対して助成を行い地域の伝統芸能の継承と取り組みが実施された。伝統芸能を保存活用していくため、披露する場を多くすることも必要と考え、自治会間の伝統芸能交流も行っていけるよう、促していく。
民俗芸能保存会や文化協会等と協力し、県内外に披露するため、派遣事業を活用し、伝統芸能の活性化につなげていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
316	316	253	63	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○補助事業者は自治会の伝統芸能保存継承の取組に対して積極的であり、妥当である。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき実施しており妥当である。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－③	子ども平和学習交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－ア 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課		平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

子どもたちが仲間づくりに努め、戦争や平和、差別や人権などについて、交流や研修を通して平和について広く学習を深めることを目的に、子ども平和学習交流事業を行う。

実施方法

■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,561	1,435	2,588	2,729	1,969
	(b) 予算現額	1,561	1,435	2,588	2,970	1,659
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	241	▲ 310
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	1,561	1,435	2,588	2,970	1,659
	B. 執行済額	1,451	1,283	2,254	2,882	1,639
	うち交付金充当額	1,160	1,026	1,803	2,305	1,311
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		93.0%	89.4%	87.1%	97%	98.8%

予算の状況の説明

平成28年度は従来の人数12人にし、研修を予定通り終えた。310千円の減額は当初見込んだよりも旅費単価が安価になったためである。計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
子ども平和学習交流事業参加者数　12人	目　標	（　12人　）	（　12人　）	（　24人　）	（　12人　）
	実　績	12人	12人	24人	12人
事前学習、本研修の後その報告会を開催	目　標	（　－　）	（　－　）	（　報告会を開催　）	（　報告会を開催　）
	実　績	－	－	報告会を開催	報告会を開催

達成状況説明

各小学校から6年生3人、計12人が予定どおり選考され、事前学習と、疎開体験者も含み計画通り本研修を終えることができた。また、研修終了後には役割分担をし、本研修の報告会を開催した。自分のやったこと、感想や意見を加えて発表する機会は大切で良い節目になった。またそれぞれに報告書原稿をまとめるため、事前学習から本研修までの取り組みを整理し、学習のまとめをした。それは、最終的に今年度の報告書として出版した。学校からの推薦にはじまり、初めての顔合わせから報告書作成まで、およそ8ヶ月の及ぶ関わりの中での事業です。それは又、小学校卒業後のOB会の活動へも繋がっている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
参加児童の保護者へのアンケート ・子どもによい変化が見られた：95%	目　標	（　　）	（　95%　）	（　95%　）	（　　）	（　　）
	実　績		96%	100%		
・参加後、平和や戦争、人権や差別について社会の問題に興味が湧いた児童：95%	目　標	（　　）	（　95%　）	（　95%　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%	100%		

進捗状況説明

保護者からの事業後のアンケートから、「世界情勢に目を向けるようになった。」「戦争だけでなく、貧困や差別など社会の問題にも目を向けるようになった。」等の良き変化の様子が報告された。「話題になっているニュースについて、両親の意見を求める姿勢がある。」「いじめの問題、人を中傷することの罪などを考えている様子です。」また、「米粒一つの大切さを知った印象」「子どもが大変いい体験をし、兄弟にも良い影響を与えている」等の報告を得た。「新聞の社会面に目を通すようになった」「今話題になっている連日のニュースなどを見て自分の意見を言い、親の意見も求めるようになった」「いじめの問題、人を中傷することの罪について考えている様子です」等の回答があった。

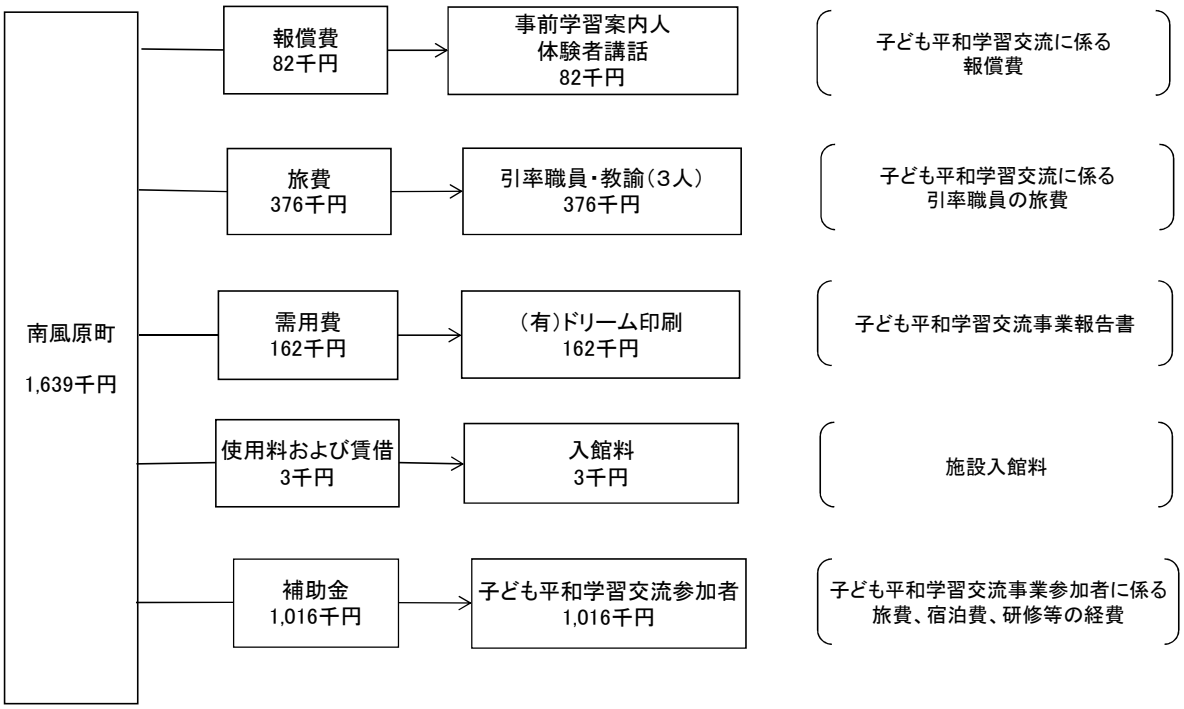
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・子ども達が平和学習を通して、戦争と平和、差別や人権などについて学習し、歴史の中での戦争や差別の問題を考える機会とするため、平和学習交流事業を実施している。平成28年度は、直接的な学習に加え、ワークショップを通して、自分の考えを言葉にすることや、他の人の考えや意見についても受入、自分なりの考えを意識するようにこころがけた。 ・事前学習、本研修の学習だけでなく、事後の学習にもさらに力をいれてとりくめるように促す。	・スケジュールを調整し、できるだけ話合いや意見交換の時間を設けるようにする。同世代の考え方、意見に耳を傾け、自分の役割を見つけられるように、他の子どもたちとの交流の機会を作る。 ・「平和学習」を単に知識を増やすだけではなく、戦争体験者、ハンセン病元患者など、さまざまな体験者の話を伺うことで、自分の人生に関わる大切なことが学べるということを意識させたい。そのためにOB会とのつながりを強化し、意見交換をさせるなど、学習の機会を増やす。

今後の取り組み方針

平和学習の内容と基本的な活動の柱をまとめ、子ども同士の交流、現地の自然や沖縄の同年代の方々がどんな風に戦中・戦後を生きてきたかを知るきっかけをさらに広げる。またOB会との連携の機会を増やしたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,639	1,639	1,311	328	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出した。参加者（補助金）の選定は、学校長推薦により行い、適正であった。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的である、研修先への旅費、交流に必要な経費として目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑤	南風原町海外移住者子弟研修生受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（1）－ア 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

南風原町出身の海外移住者子弟を研修生として受け入れ、移民の歴史はもちろん、相互の文化と歴史を学習させる。帰国後は自国の研修生仲間たちと連携し、移民の文化・歴史交流を推進するため南風原町とのパイプ役として活動する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況 (a) 当初予算額	1,500	1,500	1,900	3,903	2,095
予算の状況 (b) 予算現額	1,500	1,500	1,900	2,303	1,595
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	0	0	0	▲ 1,600	▲ 500
予算の状況 (d) 繰越額	－	－	－	－	－
予算の状況 A. 計 (b+d)	1,500	1,500	1,900	2,303	1,595
B. 執行済額	1,496	1,207	1,573	2,266	1,579
うち交付金充当額	1,196	965	1,258	1,813	1,263
次年度繰越額	0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）	99.7%	80.5%	82.8%	98.4%	99.0%

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。予算減額については、当初見込んだよりも旅費単価が安価になったためである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・受け入れ国の数2カ国（南米3カ国ペルー・ブラジル・アルゼンチンのうち2カ国）	目　標	（2カ国 ハワイ・ペルー）	（1カ国 ペルー）	（3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル）	（2カ国 ペルー・ブラジル・アルゼンチン）
	実　績	2カ国 ハワイ・ペルー	2カ国 ブラジル・ペルー	3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル	1カ国 アルゼンチン
・受入研修生の数：2人	目　標	（4人）	（2人）	（5人）	（2人）
	実　績	4人	2人	4人	2人
・研修成果の報告会を開催	目　標	（－）	（－）	（報告会の開催）	（報告会の開催）
	実　績	－	－	報告会の実施	報告会の実施

達成状況説明

研修生の予定は南米3カ国（ペルー・ブラジル・アルゼンチン）から2人であったが、アルゼンチンからのみの受け入れ国になった。また、研修終了後は、帰国前に研修成果の報告会を開催し、関係者にその成果を披露することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（24年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
研修後、研修生に対してアンケートを実施・研修終了後、移民史に興味が湧いた(80%)	目　標	（　）	（80%）	（80%）	（　）	（　）
	実　績		100%	100%		
研修後、研修生に対してアンケートを実施・日本語をさらに習得したい(80%)	目　標	（　）	（80%）	（80%）	（　）	（　）
	実　績		100%	100%		
研修後、研修生に対してアンケートを実施・日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった(80%)	目　標	（　）	（80%）	（80%）	（　）	（　）
	実　績		100%	100%		
研修後、ホームステイ先、研修関係者に対してアンケートを実施・海外の子弟と交流ができてとても良かった(80%)	目　標	（　）	（－）	（80%）	（　）	（　）
	実　績		－	未実施		
研修後、ホームステイ先、研修関係者に対してアンケートを実施・ホストファミリーとしてまた研修性を受け入れたい（70%）	目　標	（　）	（－）	（70%）	（　）	（　）
	実　績		－	未実施		

進捗状況説明

・研修後に実施したアンケートでは、「祖父母にあったことがなく、母親からの話ばかりであったが、一世移民の苦労を考えるようになった」「親戚に会えたことが何よりも嬉しかった」「沖縄の歴史や文化に興味が湧いた。豊かな歴史と、悲惨な戦争、そしてめざましい戦後の発展など、興味深い。」「沖縄の音楽、踊り、さまざまな芸術、工芸家達の精神性を学び、それに触れることができたことに心から感謝をしたい」などの感想が寄せられた。また、研修生は「研修中に沖縄でお世話になった恩返しに、私たちの国へ南風原の方々が訪れた際には、同様に案内をしたり、通訳をして相互の交流に貢献したい」あるいは「沖縄の若者達と、意見を交換したり歴史や文化、現在の基地問題について話がしたい」との希望も述べた。
・今年度は親戚の家でのホームステイをすることができず、アパートを借りることになったため、ホームステイ先（研修関係者）の受入についてのアンケートは0%となった。

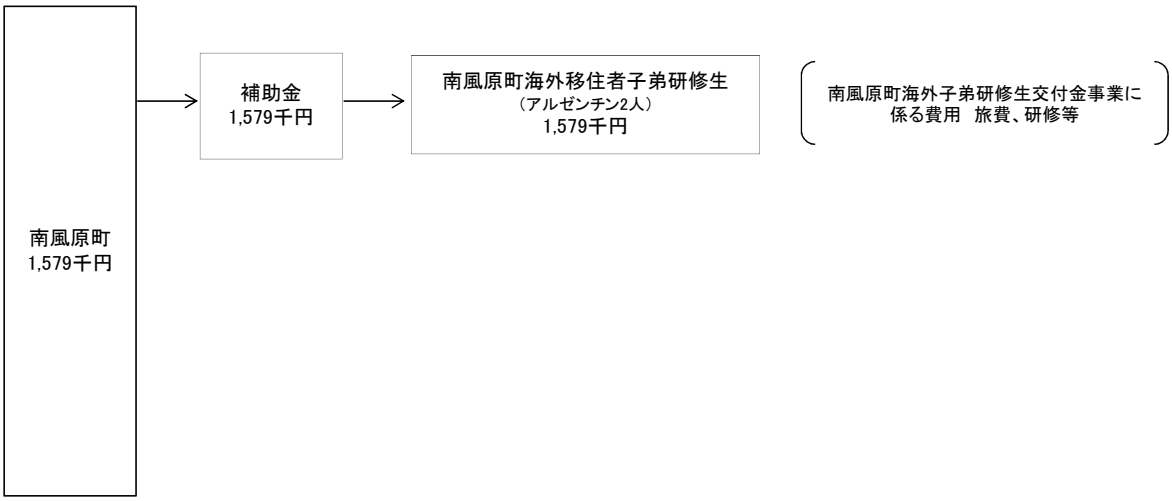
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町の出身者が移民した国からその子弟を迎えるために、相互に移民の歴史を理解する必要がある。 ・沖縄の歴史や文化に関心を持ってもらうため、研修内容の多様化を考慮する。また、さまざまな人との関わりから出会いの場を提供する。 ・研修中、研修生の生活事情をより充実したものにする。 ・親戚の人たち、特に同世代の人たちとの交流を深め、今後に向けてのつながりを確認する。	・日本語の研修と併せ、体系的な移民の歴史の講座等を取り入れる。 ・研修期間中に、博物館や史跡見学等の研修をバランスよく取り入れる。 ・疑問になったことや理解に困ったことなどがあると、誤解を招かないように、十分な説明や情報提供を行い、本人の考えも伝えやすい環境を作る。 ・親戚や新しい友人達とは帰国後も連絡が取れるように、ｱﾄﾞﾚｽなどの情報交換をさせる。

今後の取り組み方針

研修生OBたちと積極的に情報交換し、今後の交流のあり方を話し合う。 毎年研修中に各小学校での授業を行っているが、ストーリー性を製作するなどの教材の充実、回数を増やすなどの取り組みを強化し、それぞれが自国を紹介する機会を増やしたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,579	1,579	1,263	316	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は南風原町出身の海外移住者のみと限定しており、支出先として妥当である。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑥	南風原町民俗芸能交流会開催事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－イ 文化の担い手の育成
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

町内各地にある伝統芸能を披露する場、他地域と交流する場を設け、新たな世代へ地域の伝統芸能を継承し、地域活性化を図るため南風原町民俗芸能交流会を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,050	1,180	1,557		
	(b) 予算現額	1,050	1,330	1,557		
	(c) 増減額 (b-a)	0	150	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,050	1,330	1,557		
B. 執行済額		970	1,082	1,494		
うち交付金充当額		776	865	1,195		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		92.4%	81.4%	96.0%		

予算の状況の説明

9団体の出演もあり、予算の執行率も高い。
また、不用額は、当初の予定より出演者が少なかったことから、報償費に不用が生じたためである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
第28回民俗芸能交流会開催	目　標	（民俗芸能交流会開催）	（民俗芸能交流会開催）	（民俗芸能交流会開催）	（　）
	実　績	1回開催	1回開催	1回開催	
伝統芸能の発掘と復活	目　標	（－）	（－）	（伝統芸能の発掘と復活）	（　）
	実　績	－	－	1件 南風原町津嘉山 狂言「伊豆味」	

達成状況説明

10年ぶりに復活し、3年連続で開催した「民俗芸能交流会」では、予定以上に各字の演目の復活を見、町内4字で9演目が上演された。民俗芸能は、各字ごとの伝統文化であり、その取り組みの努力が評価される。他市町村の芸能を招いて行われ、お互いの刺激にもなり、今後の民俗芸能が大いに期待が寄せられる。今回の交流会には、32年ぶりに狂言「伊豆味」が復活した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（26年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
来場者数　450人以上	目　標	（450人以上）	（450人以上）	（450人以上）	（450人以上）	（　）
	実　績		500人	500人	480人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

今回の「民俗芸能交流会」の復活は、時期を得たものであり、各字が刺激し合って、地域の埋もれた芸能を区民の努力によって、復活させることができた。芸能は青年たちの地域に対する意識を高め、自分たちの文化や歴史に誇りを持ち、先輩たちとの絆を深めることができた。
1ヶ月前からのポスター、チラシの掲示、各字民俗芸能保存会による周知、各字の開催告知放送を行った結果、目標来場者数（450人）以上の480人が来場した。

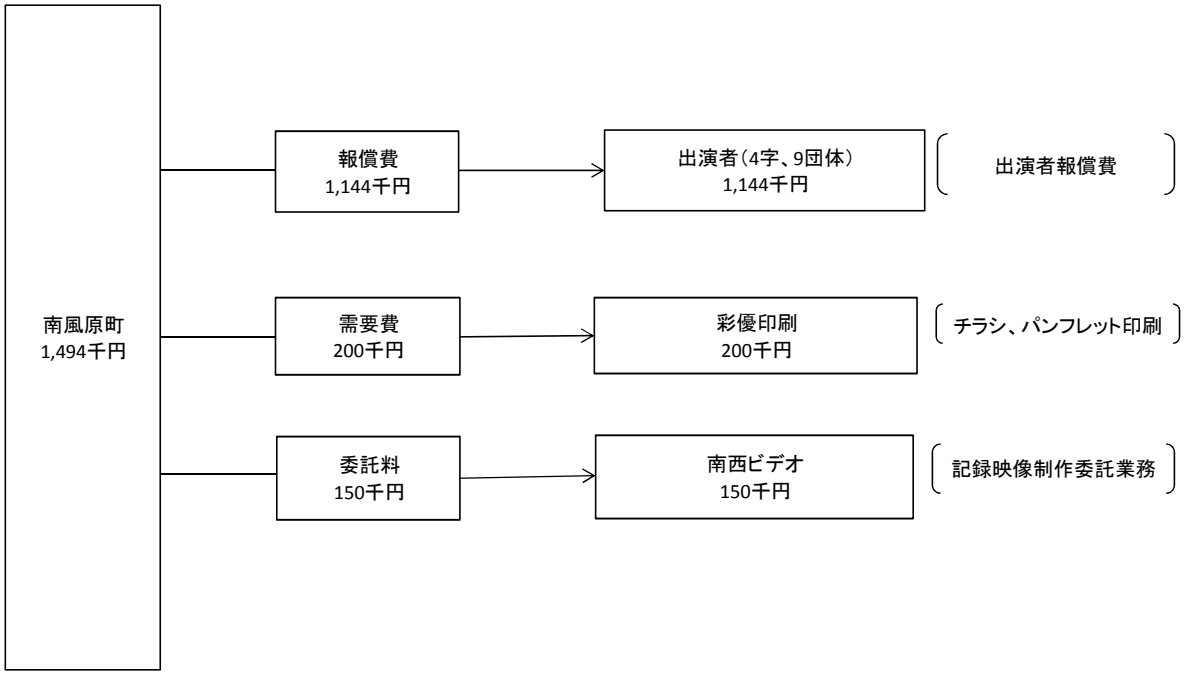
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	集落総出で行われてきた地域伝統芸能は集落内の人間関係を培う場でもあり、地域を継承する場であったが、趣味や嗜好の多様化、行動範囲の拡大化等により地域のつながりが薄くなってきています。 伝統芸能維持のため、、各字各自治会員の伝統芸能を継承し、披露することで、地域の活性化につなげなければならない。 南風原町民俗芸能保存会と連携し、地域の民俗芸能の情報交換ができる場を設け、途切れている地域の芸能について復活を検討。	・各字で復活の機運がある民俗芸能について、民俗芸能保存会と連携し、資料や情報の提供を行い、民俗芸能交流会で披露できるよう、計画を立てる。

今後の取り組み方針

民俗芸能交流会でのコンセプトは民俗芸能保存会と話し合い、出演演目と関連性も踏まえた内容にしていきたい。各字の十五夜や村あしびなどで、披露している演目を、他地域で披露し、お互い刺激し合い、交流できるよう今後は、取り組んでいきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,494	1,494	1,195	299	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○出演団体の選定については、各字、南風原町民俗芸能保存会と相談し妥当な選択であった。需要費及び委託料の業者選定については、地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。 ○費目、使途については、無理無駄なく必要なものに支払いされ妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑦	プロジェクトヒュート補助事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－イ 文化の担い手の育成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	新たな地域活性化、人と人の交流を生み出すために南風原町の伝説、課題や話題などをモチーフにしたショーを通して、多くの人々に町の伝承文化や行事などの普及に努めている「チームTHE飛勇人（ヒュート）」の活動に対して支援を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,956	1,920	1,500		
	(b) 予算現額	1,956	1,920	1,500		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	1,956	1,920	1,500		
B. 執行済額		1,465	1,025	1,332		
うち交付金充当額		1,172	820	1,065		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）（B/A）		74.9%	53.4%	88.8%		
予算の状況の説明		当初予定していた事業内容はすべて実施した。不用額169千円は、活動費（音響録音委託費について、短いショーなどは、自分たちで作業したことによる）の執行残による減である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
・各イベントへの参加回数：7回	目　標	（　5回　）	（　5回　）	（　7回　）	（　　）
	実　績	5回	5回	8回	
・他のエンターテイメントとのコラボ	目　標	（　－　）	（　－　）	（　コラボの実施　）	（　　）
	実　績	－	－	他のエンターテイメント・バラエティショーとコラボした。	

達成状況説明

・沖縄国際映画祭、みんなでワイワイGW企画はえるん♪ヒュート★と遊ぼう、ふるさと博覧会FECはえるん飛勇人ショー、世界のウチナーンチュ大会連携踊りｲﾍﾞﾝﾄ、新春飛び安里凧あげ大会、はえばるバラエティSHOW、交通安全県民運動に参加した。
・バラエティショーの中で、南風原紹介の時に、飛勇人のキャラクターを登場させ、観客によりローカルな話題を提供することで、地域への愛着を持たせた。これは、平均月に一回のペースで、出演した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
・イベントやショー後にアンケートを実施 ＊地域の伝説や民話の理解を深めた＝60%	目　標	（　　）	（　60%　）	60%	（　　）	（　　）
	実　績		別アンケートで感想を回収	100%		
・イベントやショー後にアンケートを実施 ＊新しいキャラクターに楽しさや親しみを覚えた＝60%	目　標	（　　）	（　60%　）	60%	（　　）	（　　）
	実　績		別アンケートで感想を回収	90%		
・町内各字の伝統文化の啓発を図る。	目　標	（　　）	（　啓発を図る　）	啓発をはかる	（　　）	（　　）
	実　績		啓発を図った	啓発を図った		

進捗状況説明

・月一回のバラエティショーへの参加と取り組みは、身近な話題を取り入れたものになってきた。キャラクターそれぞれの由来の紹介だけでなく、他の話題にも入り込んだようなショーに参加した。
・各種イベントや、ステージでは南風原の歴史や課題、話題をモチーフにしており、それぞれの個性も活かしながら活動をしている。
・アンケートの回収率は低かったが、終了後に参加者から感想が寄せられ、事業の効果や課題を把握することができた。
・ショーを見た人達からは、「地域の伝説やおもしろいキャラクターから地域を知る良い機会になった」「現在の拝所となった場所に、民話があったのか」との感想があった。

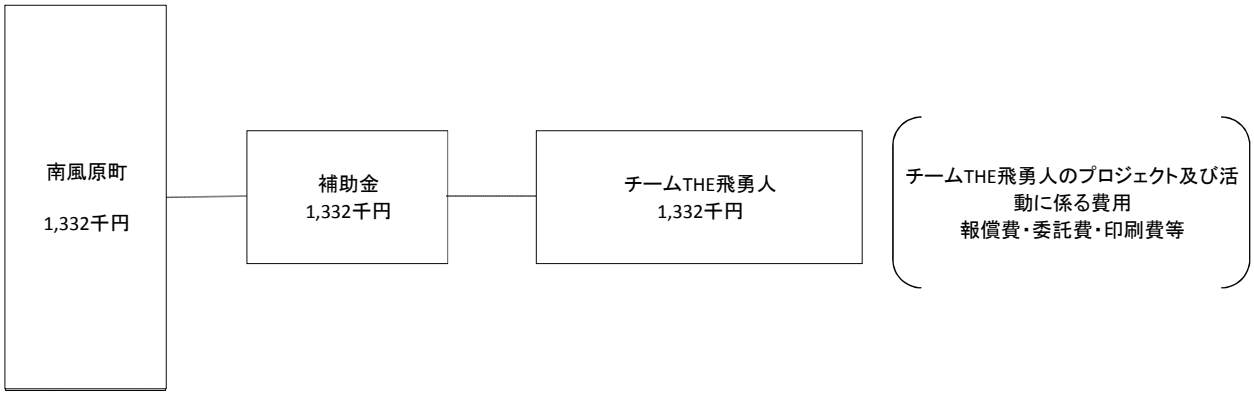
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・チームTHE飛勇人のメンバーそれぞれの仕事が忙しくなり、活動の時間が制約された。そのため、事務局、公演時の裏方スタッフが不足した。 ・平成28年度は、月に1回程度のローカルな話題をテーマにしたバラエティショーに出演するようになり、自分たちの短いショーを上演することができた。 ・活動の記録を残したり、今後の活動の発展のために見学者の声や感想を回収することがなかなかできていない。	・週間、月間、年間計画をより具体的にし、公演時の裏方スタッフの確保に努める。 ・広報活動の強化と工夫をする。また、公演の機会を増やすため、町内の小学校や児童館、他のバラエティーショーと連携する。 ・観客の感想や反応を知りショーの効果を把握できるよう、アンケートや感想を記録し、効果の向上に努める。

今後の取り組み方針

・キャラクターがそれぞれ、伝説や民話から生まれているので、その地域との連携を考えた取り組みに力を入れていきたい。
・学校や児童館、保育園、幼稚園等で教材としていかされる内容や、資料の制作に力を入れていく。
・裏方スタッフ、新メンバーを募集して、活動に支障がないようにする。
・他のエンターテイメントとのコラボなど、積極的に参加するようにしたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,332	1,332	1,065	267	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該補助団体については、多くの人々に対し町の伝承文化や行事などの普及を行っていることから、支出先として適正であった。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、適正な予算規模で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ○費目・使途についてはプロジェクト飛勇人の活動に必要な費用にのみ充てられており、事業目的に即し真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑧	南風原町クサティ森等保全事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（5）－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	経済建設部　区画下水道課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	文化財の保全継承及び文化資源を活用した観光振興を図るため、南風原町の集落及び集落のクサティ森等に存する史跡等の修復、説明施設等の整備を行う。さらに活用を促進するため用地を取得し散策道、休憩施設等の整備を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	27年度（繰越）	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	20,000	50,000	100,000		70,000
	(b) 予算現額	20,000	50,000	100,000		62,001
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 7,999
	(d) 繰越額	0	0	0	47,314	0
	A. 計 (b+d)	20,000	50,000	100,000	47,314	62,001
B. 執行済額		19,999	50,000	52,686	47,314	62,000
うち交付金充当額		15,999	40,000	42,148	37,852	49,600
次年度繰越額		－	－	47,314	－	－
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	52.7%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：施工予定ヶ所の一部が県道有地（那覇具志頭線のトンネル上部）を占用しての整備予定でしたが、地滑り調査等の関係により、占用を得る事が出来ず、整備工事が来ない為に予算7,999千円を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
工事用資材単価調査業務、散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽工事の実施	目　標	（散策道整備、集落内広場実施設計及び整備工事の実施）	（散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽等工事の実施）	（　）	（　）
	実　績	散策道整備、集落内広場実施設計及び整備工事の完了	散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽等工事の完了		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：平成28年度の目標どおり、工事用資材単価調査業務、散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽等整備の工事を完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
平成29年度一部共用に向けた事業の着実な実施（散策道約160m、散策道照明、共同井戸修景及び植栽等の工事完了。）	目　標	（　）	（散策道整備、集落内広場実施設計及び整備工事の実施）	（散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽等工事の実施）	（　）	（　）
	実　績		散策道整備、集落内広場実施設計及び整備工事の完了	散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽等工事の完了		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：平成28年度は散策道、照明灯、共同井戸修景、植栽等整備の工事が完了し、津嘉山の殿（ﾄｳﾝ）周辺の供用開始を行った。

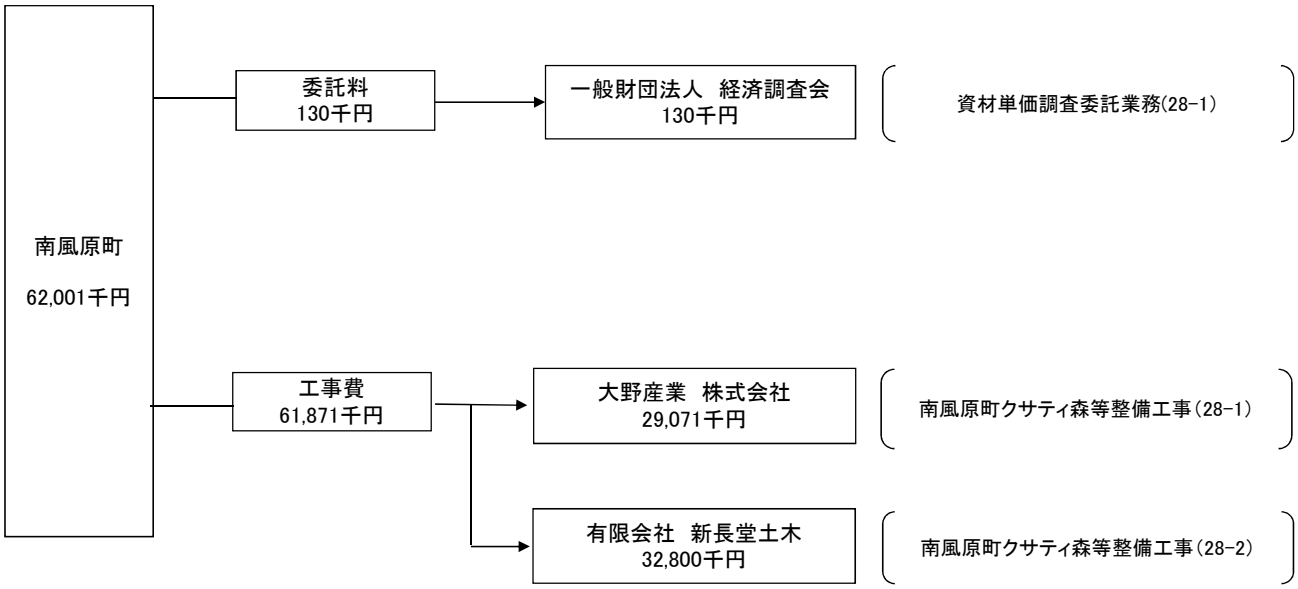
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	文化財の保全継承及び文化資源を活用した観光振興を図るために集落内広場、津嘉山殿（ﾄｳﾝ）周辺の整備が完了し供用開始を行った、今後は地元住民及び観光客等に周知案内し幅広く活用出来るようにする。	・集落内広場については津嘉山区綱引き行事の場として、津嘉山殿（ﾄｳﾝ）周辺については津嘉山区祭祀の場としての施設の利用を促進し、地元住民への周知と観光客等の誘客を南風原町観光協会と連携して観光案内を行う必要がある。

今後の取り組み方針

地元住民に対しては、各種行事について、津嘉山区広報誌「たかつかざん」への記載やマイク放送等を行い、幅広く参加出来るよう周知案内を図る。
観光案内については、『綱曳きツアー』や『津嘉山ツアー』などを南風原町観光協会が主催していることから、連携（両ツアーへの取り込み等）して観光客等の誘客を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
62,001	62,001	49,600	12,401	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先について、委託は随意契約により契約したが地方自治法施行令第167条の2による随意契約可能額範囲内、工事は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○委託業務は見積もりにより決定し、整備工事は土木工事積算基準書等を用い予算を算出し決定しており妥当である。 ○事業実施に必要な委託業務及び整備工事のみへの支出に限定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑩	平和の日推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－（2）－ウ アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）
事業内容	10月12日の「町民平和の日」にあわせ平和を祈念し音楽コンサートを開催することにより、平和意識の高揚に努めるとともに平和の尊さを再認識する				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,500	3,000			
	(b) 予算現額	2,500	3,000			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	2,500	3,000			
B. 執行済額		2,490	2,997			
うち交付金充当額		1,992	2,397			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.6%	99.9%			
予算の状況の説明		業務委託により南風原町平和コンサートを実施した。 当初計画していた事業内容はすべて実施する事ができ、成果目標の達成状況を鑑みて予算の執行率99.9パーセントは適正であったと判断した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
平和コンサートの開催	目　標	（　1回　）	（　1回　）	（　　）	（　　）
	実　績	1回	1回		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：平成27年度事業おいて、観客動員目標人数を下回っていたため、開催日及び開催場所について改善を行い、11月5日に南風原文化センター前において「南風原町平和コンサート」を実施した。
観客動員数目標350人を大きく上まわる2000名以上の参加があり平和意識の高揚や平和の尊さを再認識する事ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（33年度）
平和コンサート開催 観客動員数　350人	目　標	（　　）	（観客動員数 300人）	（観客動員数 350人）	（　　）	（　　）
	実　績		観客動員数 250人	観客動員数 2000人		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：前年度の検証を元に観客動員数の目標達成に向けて、20代や30代の参加者が多くなる様なプログラム構成に改善した事により目標を大きく上まわる実績となった。

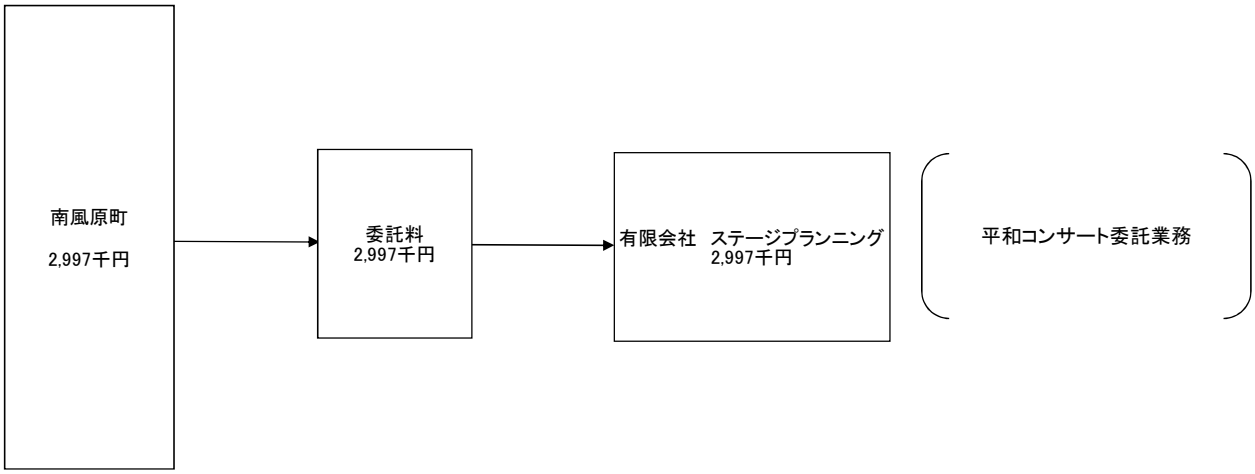
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・終戦から70年以上が経過し戦争の歴史的教訓が年々風化しており二度と戦争を起こさないという教訓を音楽コンサートを通して考える機会を創出する必要があった。	前年度の検証を元に改善を行った結果、今年度は20代や30代の参加者を大幅に増加させる事ができたが、50代や60代の参加者が極端に少なくなってしまった。全ての年代が参加し平和意識の高揚や尊さを再認識できるようなプログラム構成にする必要がある。

今後の取り組み方針

目標値（観客動員数）を達成する事ができたが今後もプログラム構成や開催方法等を検討しより平和意識の高揚や尊さを再認識できるイベント内容について検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,997	2,997	2,397	600	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業内容や観客動員の目標値等、総合的に判断した結果受託業者を随意契約により選定し、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑪	南風原文化センター利活用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（5）－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	南風原町民はもとより、県内外及び国外へ向けて南風原町の歴史・文化を含め、町の魅力を広く発信する広報ツールとして活用することを目的に南風原町の文化的プロモーションDVD映像を製作する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,786				
	(b) 予算現額	2,592				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 194				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,592				
B. 執行済額		2,592				
うち交付金充当額		2,073				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。不用額194千円については委託の入札残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30度	31年度
DVD製作4カ国語	目　標	（　4カ国語　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4カ国語			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：脚本を製作し、写真を収集して日本語のほか、英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語の4カ国語の訳が編集されたDVDを製作した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
世界のウチナーンチュ大会配付数 500	目　標	（　）	（　500枚　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		500枚			
県外海外南風原出身者配付数 500	目　標	（　）	（　500枚　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		400枚			

進捗状況説明：10月に開催された世界のウチナーンチュ大会で県外・海外南風原町出身者に配布した。
県外海外南風原出身者配布は、実績での400枚配布で残りの100枚は、文化センターでの保管用20枚、海外移住者子弟用・修学旅行の下見の方など、南風原の広報用に配布するための80枚。

多言語・20分間の南風原町紹介DVDは、歴史・文化・施設・産業など多岐にわたり、内容的に雑多な印象はないか心配されたが、特に海外の人にとっては、南風原町を知るツールとして多言語化されたDVDは入門編として活用できた。

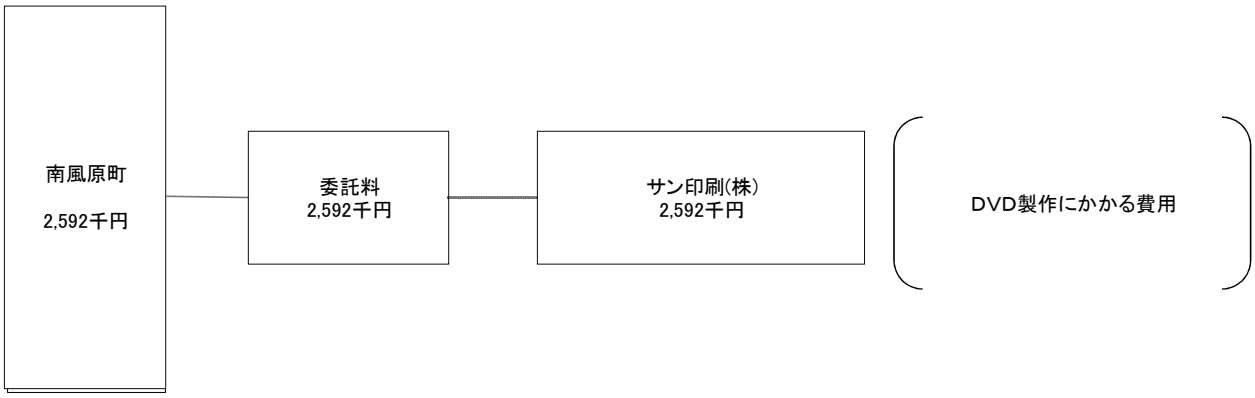
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・多言語で作成するためには、受注者が日本語の解釈やその内容を熟知し、適切な表現を吟味してもらう必要があった。 ・多言語に訳した時間の長さと、日本語の音読の長さに差があり、映像の尺に入れ込むタイミングを考えて編集すること。	・南風原紹介のその他の文献資料等も参考に提出した。また必要に応じて電話やメールでの解説で補足した。 ・編集・録音の際には、スタジオで立ち会い、その場で脚本を修正するなどの対応をして、映像と音声の細かな尺あわせの作業をした。

今後の取り組み方針

南風原町紹介のDVDをTPOに応じた短めのDVDに編集して、さまざまな場面で活用していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,592	2,592	2,073	519	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は、指名競争入札によるもので適正であると考えている。 ○不用額はなく、事業費は適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7－①	長寿県復活食の応援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（1）－ア 沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進
担当部課名	民生部　保健福祉課	事業実施（予定）年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4
事業内容	「健康長寿おきなわ」の復活に向けて、生活習慣病の発症予防及び重症化予防のため①健康カレンダー付きレシピの作成・配布②学童期の生活習慣病予防健診を通じて個人の状態に応じた保健指導をモデル事業として実施する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,875	4,959	5,558	7,068	
	(b) 予算現額	5,481	4,959	5,558	4,502	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,394	0	0	▲ 2,566	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	5,481	4,959	5,558	4,502	
B. 執行済額		5,313	4,747	5,109	4,501	
うち交付金充当額		4,250	3,797	4,086	3,600	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		96.9%	95.7%	91.9%	100.0%	
予算の状況の説明		・学童期の生活習慣病予防健診受診者が当初の見込みを下回ったため、予算減額を行った。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
健康カレンダー付きレシピの作成、配布（世帯配布用12，000部、事業所配布用1，000部）	目　標	（　12，000部　）	（　12，000部　）	（　13，000部　）	（　13，000部　）
	実　績	12，000部	12，000部	13，000部	13，000部
学童期における生活習慣病予防健診保健指導の実施	目　標	（　－　）	（　－　）	（　－　）	（　実施　）
	実　績	－	－	－	実施

達成状況説明：
・健康カレンダー付きレシピを家庭用（12，000部）と事業所用（1，000部）を作成し、配布を行った。
・学童期における生活習慣病予防健診は町内の小5・中2の全児童生徒のうち希望者（保護者の同意の得られた者）へ実施した。さらに受診後は生活習慣病発症予防に繋げるため保護者及び児童・生徒に対して保健指導を実施した。全受診者のうち86.7%が保健指導（結果説明会）に参加し、親子で生活習慣改善に向けた振り返りができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
野菜の基準量、摂取量を増やす工夫の認知度を保健事業利用者の30%とする	目　標	（　）	（　30%　）	（　30%　）	（　）	（　）
	実　績		33.2%	35.0%		
学童健診後の保健指導実施者のうち生活習慣病予防に向けた生活習慣を理解できた割合を50%とする	目　標	（　）	（　－　）	（　50%　）	（　）	（　）
	実　績		－	73%		

進捗状況説明：
・野菜の基準量、摂取量を増やす工夫などについて各種保健事業の参加者へ保健指導等を活用して周知を行っていくことで目標を達成できた。また、学童健診受診後の保健指導の際保護者へのアンケートから目標を達成できていた。

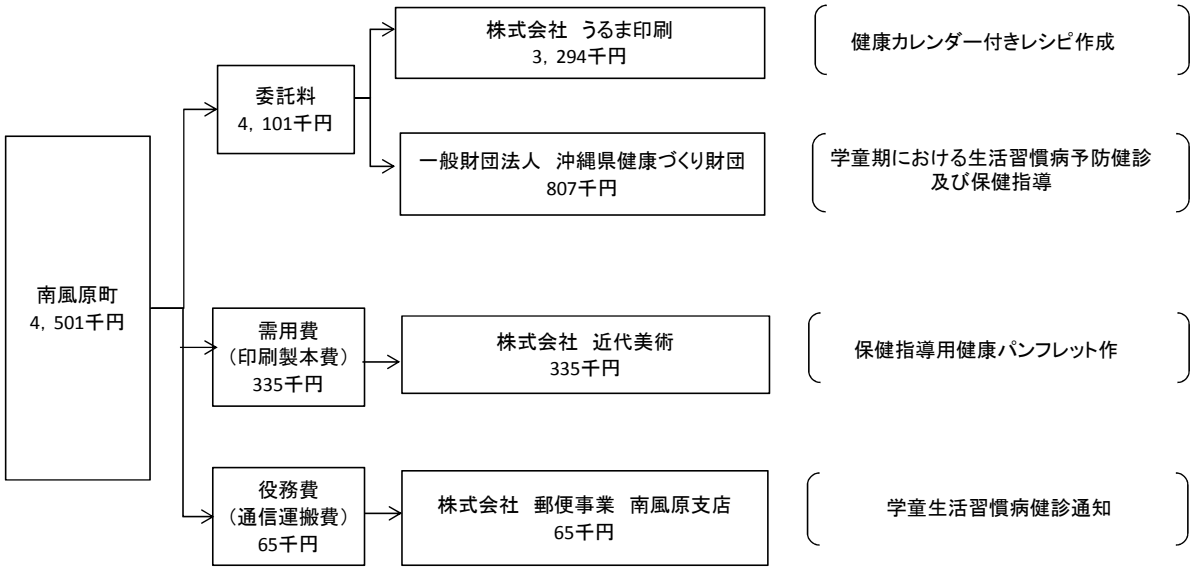
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学童期における生活習慣病健診及び保健指導については参加後のアンケート等から意義ある事業との評価が高かったが、周知をもっと行い受診希望者数が増えるとなお良いとの声も多かった事から事業の目的達成に向けて受診数を増やしていく必要がある。	健診受診者数の増加は、単に小児生活習慣病の早期発見のみでなく、その後に実施予定である健診結果説明会に親子で参加することで生活習慣病発症予防に関する生活の振り返りにつながるものである。その事業効果を高めるためにも、受診率の向上を目指して教育委員会、学校等と緊密に連携をとっていきたい。

今後の取り組み方針

・健康長寿の復活を目指し、今後も継続して町民へ①個々人の基準量を伝える（特に野菜と油）②食品に含まれている油の量を伝える③油を控えた料理、野菜の摂取量を増やす料理を伝えていくが、次年度は特に学童期における生活習慣病予防について保護者・学校・教育委員会等と共有しながら健康課題の解決に向けて考えていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,501	4,501	3,600	901	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業にあたっては町の条例に準じて指名競争入札により選定しており妥当。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。 ○費用、使途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	